

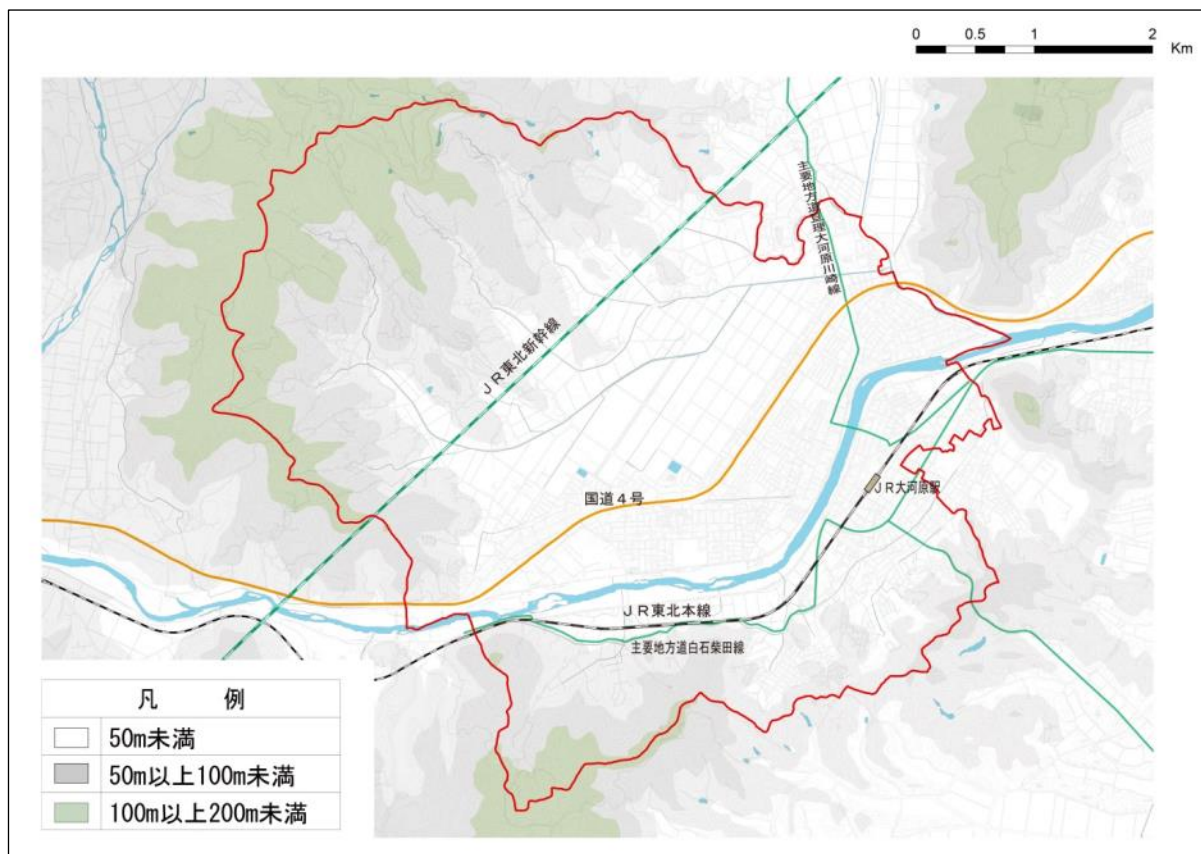
第3章 都市の現況整理

1. 自然的条件

(1) 地形

本町の中央部は概ね標高50m未満の平地となっており、北西側と南側が一部標高100m以上の丘陵地となっています。

図 3-1 地形分類図

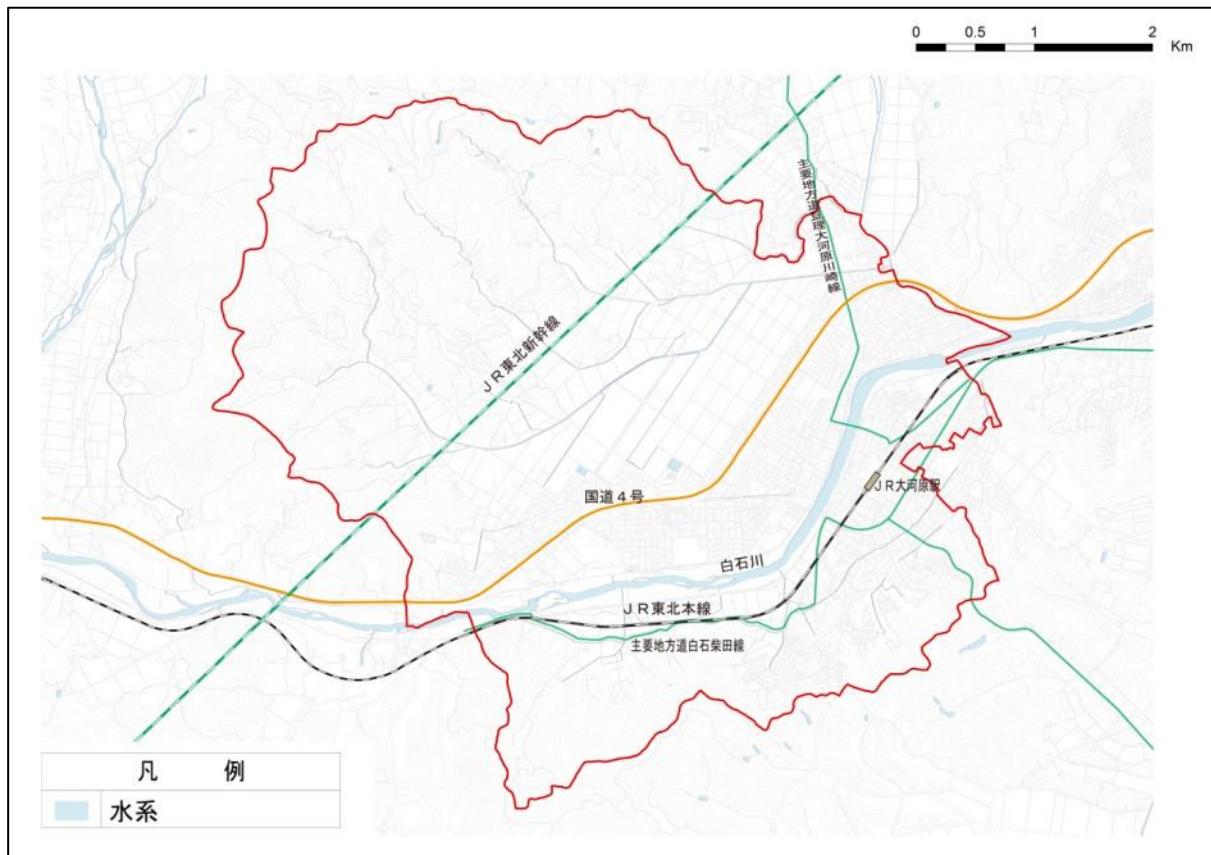


出典：「国土数値情報」（平成21年 国土地理院）

(2) 水系

本町の中央部を一級河川の阿武隈川水系白石川が横断しています。北西部では、丘陵地の谷筋から農地にかけて水路が保たれています。

図 3-2 水系分布図



出典：「国土数値情報」（平成19年 国土地理院）

(3) 気象

本町に気象観測所はないものの、最寄りの気象観測所として白石地域気象観測所（住所：宮城県白石市福岡長袋字湯殿山13 北緯38° 00.9′ /東経140° 36.7′ 海拔86m）があり、この地域の「降水量」、「気温」、「風速」、「日照時間」などを観測しています。

白石地域気象観測所における最近10年間の気象の概況を表3-1に、平成28年の気象の概況を表3-2に、気温、降水量、平均風速、日照時間等の月変化を図3-3に示します。

表3-1 気象の概況(平成19年～平成28年)

年	気温(℃)			気温極値(℃)				総降水量(mm)	平均風速(m/s)	日照時間(h)
	平均	日最高	日最低	最高		最低				
				起日	起日					
平成19年	12.5	17.4	8.2	35.9	8月15日	-7.9	2月25日	1,584	2.2	1,730.6
平成20年	11.9	16.7	7.7	34.5	8月7日	-7.1	1月22日	1,148	2.2	1,514.3
平成21年	12.2	17.0	7.9	33.6	7月15日	-5.1	2月22日	1,140	2.4	1,539.9
平成22年	12.5	17.4	8.2	35.3	8月24日	-7.4	2月4日	1,444	2.4	1,578.9
平成23年	11.9	16.8	7.5	34.5	8月1日	-7.3	1月30日	1,140	2.4	1,838.7
平成24年	11.5	16.2	7.5	34.9	8月17日	-10.5	2月28日	1,267	2.4	1,709.9
平成25年	11.7	16.5	7.3	34.3	8月19日	-10.1	2月25日	1,152	2.5	1,764.8
平成26年	11.8	16.7	7.3	35.3	8月5日	-7.8	2月13日	1,501	2.5	1,904.3
平成27年	12.6	17.4	8.1	35.8	8月5日	-6.9	1月21日	1,342	2.4	1,951.5
平成28年	12.5	17.4	8.2	34.0	8月5日	-7	2月4日	1,356	2.4	1,791.4
平均	12.1	17.0	7.8					1,307	2.4	1,732.4

出典:「大河原町統計書」(平成29年 大河原町)

気温:平均気温は、月平均気温の年間における平均値。最高(低)気温は、月最高(低)気温の年間における平均値。気温極値:最高(低)気温は、年間における最高(低)値。

総降水量:月合計降水量の年間における合計値。

平均風速:月平均風速の年間における平均値。

日照時間:月合計日照時間の年間合計値。

表3-2 気象の概況(平成28年)

月	気温(℃)			気温極値(℃)				総降水量(mm)	平均風速(m/s)	日照時間(h)
	平均	最高	最低	最高		最低				
				起日	起日					
1月	1.7	5.5	-2.2	13.8	4日	-5.8	26日	83.5	3.0	138.6
2月	2.6	7.5	-2.0	19.6	14日	-7.0	8日	16.0	3.2	169.3
3月	6.0	12.0	0.5	21.0	18日	-5.4	12日	11.5	2.7	195.6
4月	11.1	16.6	5.6	22.5	26日	-0.8	12日	150.5	2.9	178.4
5月	16.5	21.8	11.2	30.3	23日	6.2	15日	96.5	2.2	191.8
6月	19.2	23.6	15.4	28.9	10日	7.2	3日	149.5	2.0	132.0
7月	21.9	26.1	18.6	31.1	30日	15.6	5日	72.0	1.4	98.5
8月	24.2	28.8	20.5	34.0	5日	15.7	13日	411.0	1.9	153.9
9月	20.8	24.4	18.0	33.1	6日	9.1	30日	246.0	1.3	84.7
10月	14.0	19.8	8.4	26.4	4日	1.7	24日	35.5	2.2	167.1
11月	7.1	12.3	2.3	20.8	20日	-4.1	25日	41.5	2.3	139.9
12月	4.8	9.8	-0.1	17.0	22日	-4.2	25日	46.0	3.1	141.6

出典:「大河原町統計書」(平成29年 大河原町)

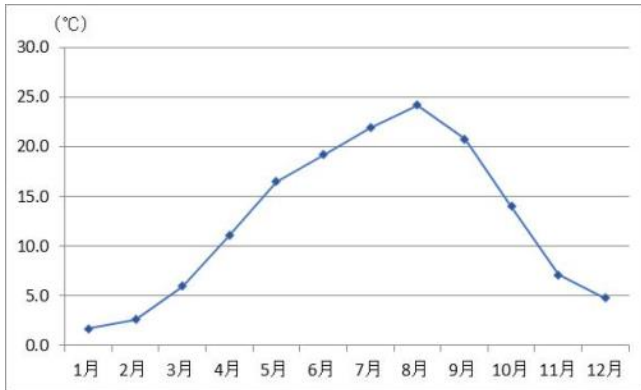
気温:平均気温は、月平均値。最高(低)気温は、日最高(低)気温の月平均値。気温極値:最高(低)気温は、月間における最高(低)値。

総降水量:月合計降水量

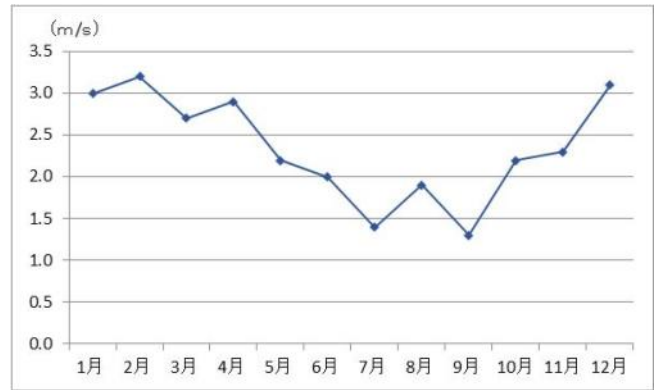
平均風速:月平均値

日照時間:月合計日照時間

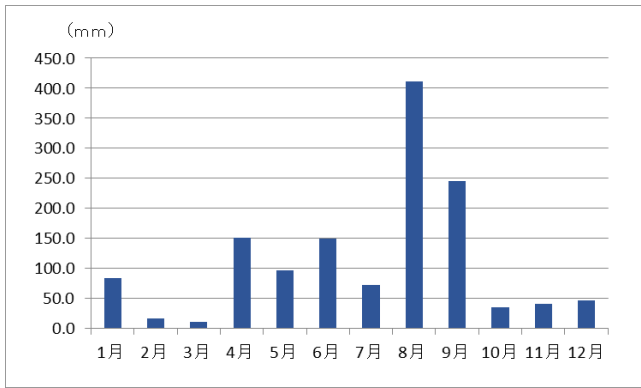
図 3-3 気象の月変化(平成28年)



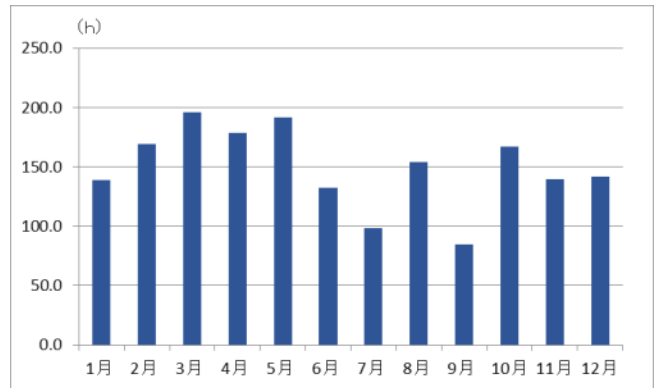
気温



平均風速



降水量



日照時間

出典:「大河原町統計書」(平成29年 大河原町)

2. 歴史

(1) 町の沿革

本町には縄文時代早期（約6000年前）から人が住み始め、4～5世紀頃には小島地区に前方後円墳（嶋館古墳）が造られるなど、この地域に有力な豪族がいたと推測されています。

平安時代の遺跡である中屋敷前遺跡からは、発掘調査により瓦葺きの礎石建物が建っていたことが確認され、柴田郡衙に関連した建物と推測されることから、この時代から柴田郡の中心地であったことをうかがい知ることができます。

江戸時代になると奥州街道の宿場町となり、米や紅花の集積地として栄え、大河原は仙台藩の直轄地として代官所や藩主の宿泊施設であった御仮屋が置かれるようになっていきました。

明治時代以降は、国や県の出先機関が置かれ官庁の町として発達し、昭和31年9月に大河原町と金ヶ瀬村が合併して、現在の大河原町が誕生しました。

町章



町の頭文字「大」を明快に図形化したものです。円は仙南の行政・交通・文化の中心地と町民の融和・団結を表し、鳥形の「大」は町勢の力強い飛躍的發展伸長を象徴したものです。

町の花：桜



全国的にも桜の名所として有名。調和のとれた町づくりを表す花びらは、町の春を彩ります。

町の木：梅



大河原近辺は、昔「梅が枝莊」と呼ばれるほど梅の木が多く、身近な所に手軽に植えられるため、町の産業として地域おこしにも活躍しています。

町の鳥：白鳥



大高山神社には、白鳥大明神が奉られています。川を中心とする町のイメージにもよく合い、飛来と同時にやすらぎを運んで来ています。

出典：「大河原町ホームページ」（平成29年 大河原町）

(2) 歴史的文化遺産

本町には、文化財保護法に基づく国指定の重要文化財1件、登録有形文化財1件と町指定の文化財2件及び町指定の無形民俗文化財が2件あり、町の文化的豊かさを今に伝えていきます。

表 3-3 文化財の指定・登録状況

<p>国指定重要文化財</p>	<p>大高山神社 鱧口</p>	<p>昭和43年4月25日指定</p>
	<p> 鋳鋼 面直径 43cm 肩幅 13cm 重量 32.5kg 鎌倉時代中期の正応6年(1293)の奉納で、東北最古の銘記で貴重品です。銘記文の意味はこの地方の地頭の息子の長寿延命を願って、当時大高山神社の法印であった法橋玄応が世話人となって奉納させたものです。 鱧口は古代、中世時代の軍中楽器の一種で、鼓の音を制節するのに用いたといわれています。その後、拝殿の向拝に吊るされ、参拝者が綱打ちする用具となりました。 </p>	
<p>国登録有形文化財</p>	<p>佐藤家住宅</p>	<p>平成29年6月28日登録</p>
	<p> 佐藤家は、呉服商や醤油醸造業を営み、明治以降は町議員や郵便局長を歴任するなど地域振興に貢献しました。 佐藤家の屋敷の規模は大きく、また各建物もよく保存されていて、宮城県の近代和風建築の代表的な遺例の一つとなっています。 平成29年に、母屋をはじめ表門、蔵など合わせて10に及ぶ建造物が、国の登録有形文化財に指定されました。 </p>	
<p>町指定文化財</p>	<p>繁昌院阿弥陀如来坐像</p>	<p>昭和52年9月6日指定</p>
	<p> 平安時代末期の作(推定)、寄木造金箔塗、台座とも高さ150cm、重量は32.5kg この阿弥陀如来像は、さる雲上人の持仏堂から、故あって寄進者の所有するところとなりましたが、「国宝ともいふべきこの阿弥陀如来像を個人の所有としていますことは勿体ない」として永久安置の所を選択すること数年、信州善光寺を初め、国立博物館、あるいは浄土宗系の諸寺院から懇望される中を、御縁により昭和51年4月吉祥日、繁昌院に遷座し、盛大な入仏式が行なわれ、毎月23日を縁日として大切におまつりしています。 </p>	

町指定文化財	金ヶ瀬薬師堂板碑群	平成21年3月25日登録
	<p>薬師堂境内に板碑群が残されています。かつて洪水によって薬師堂と寺院が押し流され、薬師堂だけが再建されましたが、荒地化した敷地を整理し、散乱した古碑を境内に取り纏めて移したものであると思われ、文保2年（1318年）の板碑をはじめ12基残存しています。</p>	
町指定無形民俗文化財	小山田やすとこ	昭和52年9月6日指定
	<p>やすとこは、元禄年間の米沢城下で婚礼の際の跡見の床入りの祝宴に唄われていたもので、その後、仙台領に伝わり、小山田の地でも唄われるようになりました。戦前は緋（かすり）の振袖で踊りましたが、戦後になって現在のような田植時の早乙女姿の衣装となりました。</p> <p>太鼓と鉦（かね）、拍子木の伴奏で朗々と「やすとこ」が唄われ、これにあわせて、藤の花を垂れた花笠をかぶり、緋の稼ぎ着、広帯、たすき掛け、赤い腰巻、手甲、緑色のはばき、白足袋、赤緒の草履きの服装をして日の丸扇を二本持って踊ります。</p>	
町指定無形民俗文化財	堤神楽	昭和52年9月6日指定
	<p>出雲流岩戸神楽に属する堤神楽は、仙台とその周辺から県南の各地に分布している十二座神楽のひとつで、明治の中頃に堤地区の長山孫治氏が蔵王町向山地区の神楽をこの地に伝承し、現在に至っています。大正八年、大高山神社の付属神楽となって以来、五穀豊穰、年中除災を祈念して、夏祭（8月最終日曜日）と、秋祭（10月体育の日）に奉納されるなど、大河原町における唯一の神楽として保存、伝承の活動を続けています。</p>	

出典：「大河原町ホームページ」（平成29年 大河原町）

3. 人口

(1) 人口・世帯数

本町は年々人口が増加しており、世帯数も同様に増加していますが、世帯当たりの人員は、昭和60年で3.65人/世帯であったのに対し、平成27年では2.62人/世帯と減少しています。

表 3-4 人口及び世帯数

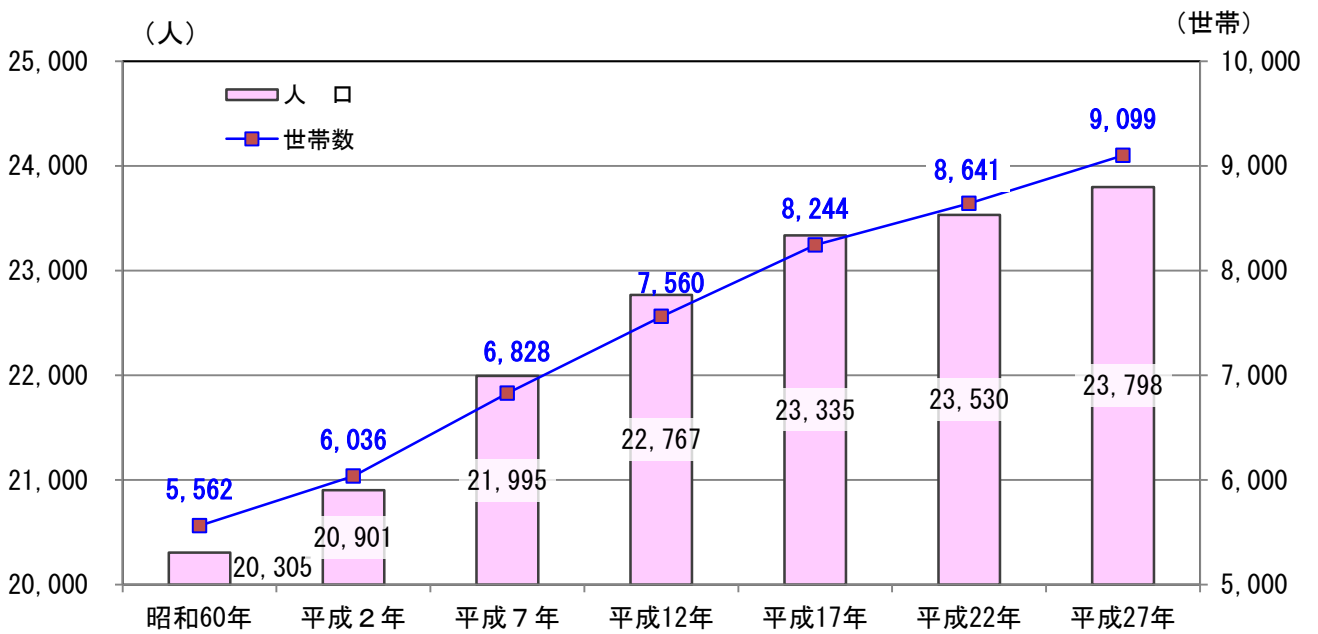
	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	伸び率 (%) *1
総人口(人)	20,305	20,901	21,995	22,767	23,335	23,530	23,798	17.2
世帯数(世帯)	5,562	6,036	6,828	7,560	8,244	8,641	9,099	63.6

出典：「国勢調査」(各年 総務省統計局)

*1:伸び率の計算は以下の式より算出した。

$$\text{伸び率} = \{ (\text{平成27年} / \text{昭和60年}) - 1 \} \times 100 (\%)$$

図 3-4 人口及び世帯数の推移



出典：「国勢調査」(各年 総務省統計局)

(2) 年齢別人口

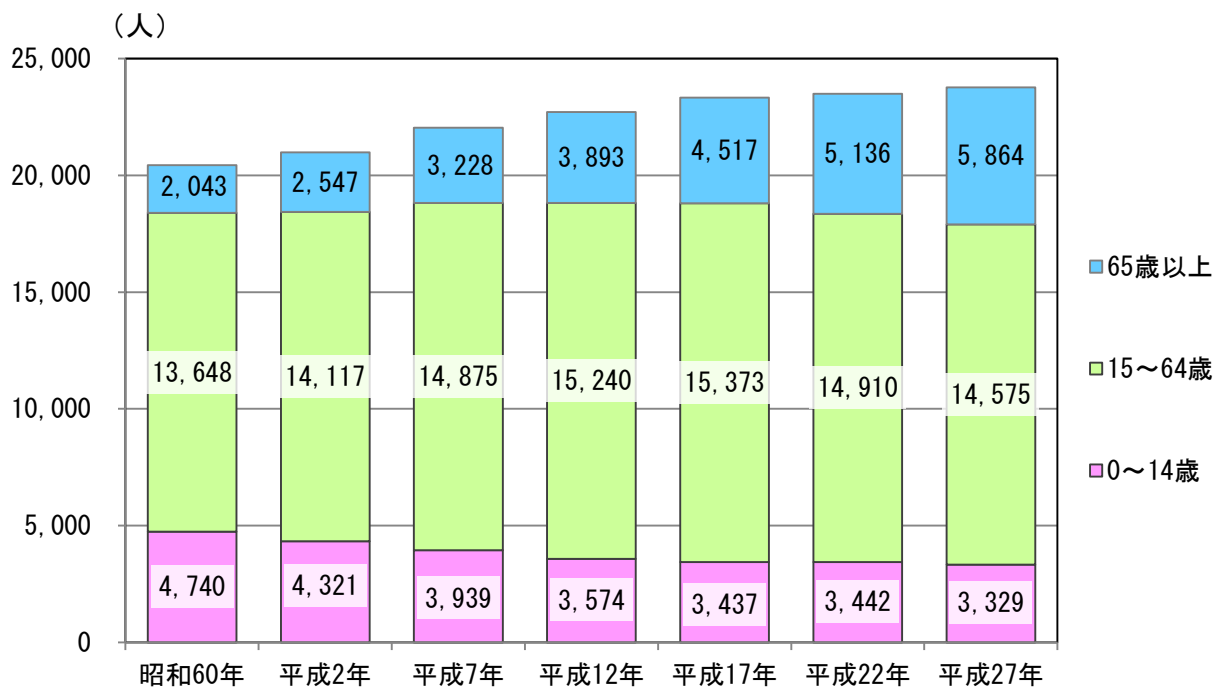
本町の年齢別人口を経年的に見ると、生産年齢人口（15～64歳）に大きな変化はないものの、高齢人口（65歳以上）は昭和60年比で3倍近く増え、年少人口（0～14歳）は3割ほど減っています。

表 3-5 年齢3区分別人口

年齢区分	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
0～14歳	4,740	4,321	3,939	3,574	3,437	3,442	3,329
15～64歳	13,648	14,117	14,875	15,240	15,373	14,910	14,575
65歳以上	2,043	2,547	3,228	3,893	4,517	5,136	5,864
総数	20,431	20,985	22,042	22,707	23,327	23,488	23,768

出典：「住民基本台帳」（大河原町町民生活課）

図 3-5 年齢3区分別人口の推移



出典：「住民基本台帳」（大河原町町民生活課）

(3) 人口動態

平成23年に転入人口が転出人口を上回る転入超過の社会増が266人と顕著に現れていますが、それ以降社会増は小さくなり、平成26年で社会減に転じています。

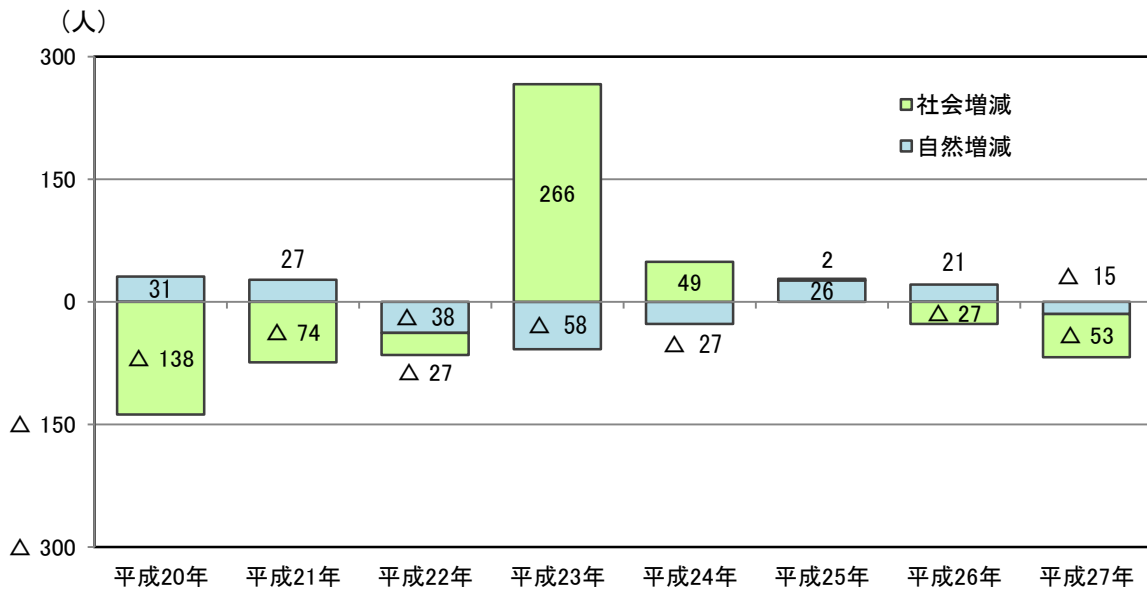
なお、平成25年～平成26年には出生数が死亡者数を上回る自然増が続きますが、平成27年には自然減に転じています。

表 3-6 人口動態

	自然動態			社 会 動 態									人口 増加数 (A+B)
	出生	死亡	増減 (A)	転 入				転 出				増減 (B)	
				総数	県内 から	県外 から	その 他	総数	県内 へ	県外 へ	その 他		
平成 20 年	217	186	31	1,062	728	304	30	1,200	831	339	30	△138	△107
平成 21 年	248	221	27	994	706	281	7	1,068	738	318	12	△74	△47
平成 22 年	180	218	△38	961	673	279	9	988	722	253	13	△27	△65
平成 23 年	183	241	△58	1,226	843	362	21	960	622	336	2	266	208
平成 24 年	210	237	△27	1,044	696	344	4	995	673	319	3	49	22
平成 25 年	225	199	26	1,119	780	336	3	1,117	755	359	3	2	28
平成 26 年	217	196	21	982	670	309	3	1,009	705	301	3	△27	△6
平成 27 年	220	235	△15	1,019	649	369	1	1,072	742	330	0	△53	△68

出典：「大河原町統計資料」（平成28年 大河原町）

図 3-6 人口動態の推移



出典：「住民基本台帳」（大河原町町民生活課）

(4) 行政区別人口

本町では43地区の行政区に分かれて地域コミュニティが形成されており、このうち比較的人口が多いのは、「上川原区」、「新田町区」、「桜町3区」、「金ヶ瀬6区」などです。

表 3-7 行政区別人口（平成27年）

行政区	世帯数	人口	行政区	世帯数	人口
小山田	91	267	住吉町	192	454
橋本	70	222	稗田	399	935
福田	53	139	原前	313	767
小島	159	393	南原前	169	430
上川原	631	1,612	上谷1	334	773
上町1	355	879	上谷2	125	293
上町2	264	653	上谷3	357	932
中町	180	435	上大谷	62	191
本町1	206	569	金ヶ瀬1	144	410
本町2	181	460	金ヶ瀬2	53	158
新田町	581	1,507	金ヶ瀬3	142	354
桜町1	299	753	金ヶ瀬4	68	204
桜町2	189	527	金ヶ瀬5	139	430
桜町3	612	1,541	金ヶ瀬6	422	1,213
尾形丁1	115	277	丑越	355	890
尾形丁2	105	271	緑団地	41	84
末広	255	606	湯尻	42	115
保料	208	512	堤1	60	224
西原	470	1,163	堤2	52	157
幸町	236	511	新開	34	103
中島	159	379	新寺	46	143
錦町	334	832	—	—	—
			総数	9,302	23,768

出典：「住民基本台帳」
（平成27年1月1日現在 大河原町町民生活課）

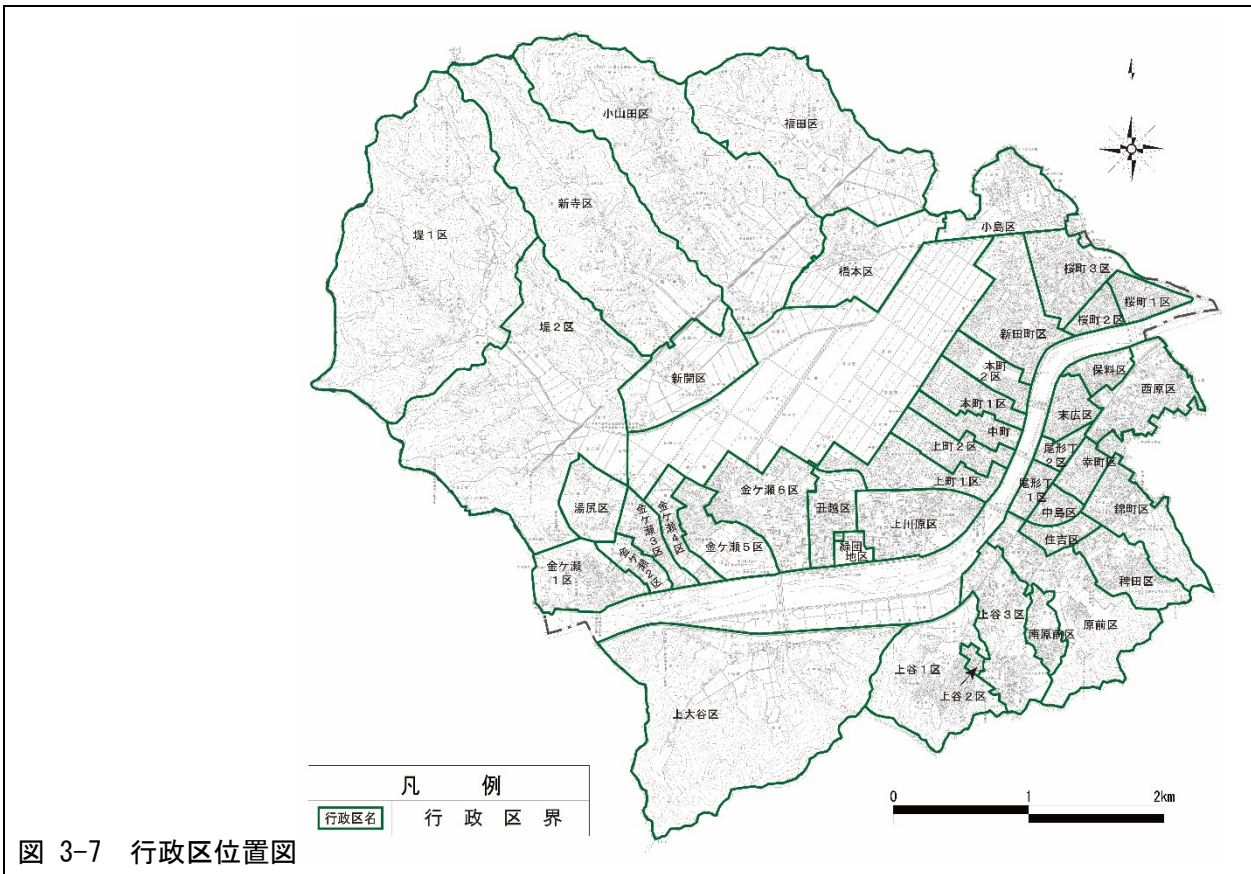


図 3-7 行政区位置図

4. 産業

(1) 就業者数

本町の就業者数は平成2年から平成7年の間に1,000人程度の増加がありましたが、その後は大きな変化はなく、平成17年以降は減少傾向にあります。平成27年では平成17年に比べ200人近い就業者が減少しています。

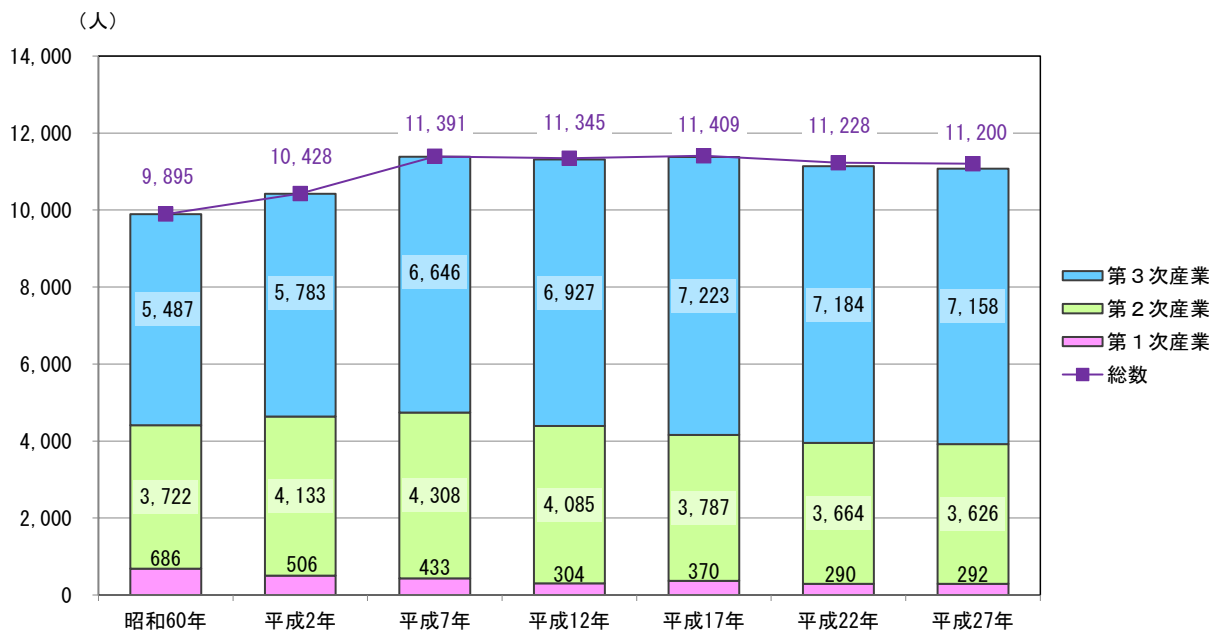
産業分類別就業者人口の割合でみると、第1次産業が昭和60年と比較すると平成27年は57%減っているのに対し、第3次産業は昭和60年と比較すると平成27年は30%以上増加しています。

表 3-8 産業3分類別就業者数

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
第1次産業	686	506	433	304	370	290	292
第2次産業	3,722	4,133	4,308	4,085	3,787	3,664	3,626
第3次産業	5,487	5,783	6,646	6,927	7,223	7,184	7,158
分類不能		6	4	29	29	90	124
総数	9,895	10,428	11,391	11,345	11,409	11,228	11,200

出典：「国勢調査」（各年 総務省統計局）

図 3-8 産業3分類別就業者数の推移



出典：「国勢調査」（各年 総務省統計局）

(2) 農業の動向

本町の総農家数は減少傾向にあり、昭和60年には877戸あった農家戸数は平成27年には253戸と3割弱にまで落ち込んでいます。減少の多くは農家戸数の大半を占めていた第2種兼業農家で、専業農家は50戸前後で推移しています。

農業粗生産額については、平成19年以降の統計がないため近年の動向は不明ですが、平成17年の農業粗生産額は昭和60年に比べ3割程度減少しています。

表 3-9 農家数及び粗生産額

	農 家 数 (戸)				農業粗生産額計 (百万円)
	専 業	第 1 種 兼 業	第 2 種 兼 業	総 数	
昭和 60 年	46	46	785	877	1,786
平成 2 年	42	34	715	791	1,621
平成 7 年	66	32	640	738	1,330
平成 12 年	49	21	548	618	1,130
平成 17 年	54	23	309	386	1,290
平成 22 年	47	21	241	309	—
平成 27 年	53	27	173	253	—

出典：農林水産省統計調査部 「世界農林業センサス・宮城県統計書」
 農林水産省農林経済局統計情報部 「農林センサス・宮城県統計書」
 宮城県統計年鑑（基となる資料は、農林水産省「農（林）業センサス」）
 東北農政局大河原統計・情報センター「仙南地方の農林統計」
 ※平成19年以降、「仙南地方の農林統計」は作成されず、生産額・所得額が集計されていないため、公表できない。

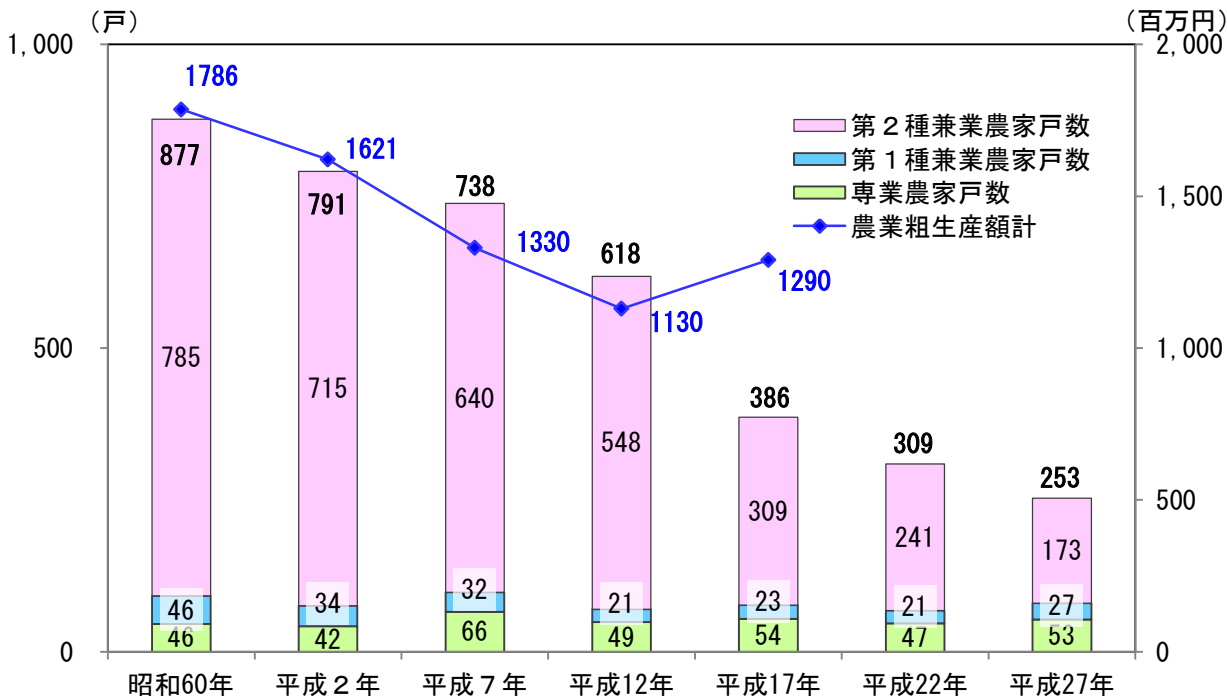


図 3-9 農家数及び粗生産額の推移

出典：農林水産省統計調査部 「世界農林業センサス・宮城県統計書」
 農林水産省農林経済局統計情報部 「農林業センサス・宮城県統計書」
 宮城県統計年鑑（基となる資料は、農林水産省「農（林）業センサス」）
 東北農政局大河原統計・情報センター「仙南地方の農林統計」
 ※平成19年以降、「仙南地方の農林統計」は作成されず、生産額・所得額が集計されていないため、公表できない。

昭和60年には約734 haあった本町の経営耕地面積は、平成17年には519 haと7割程度にまで減少しましたが、平成22年に増加に転じています。

戸当たりの経営耕地面積が増え、特に「田」の耕作面積が平成17年から27年までに1割以上増加しています。

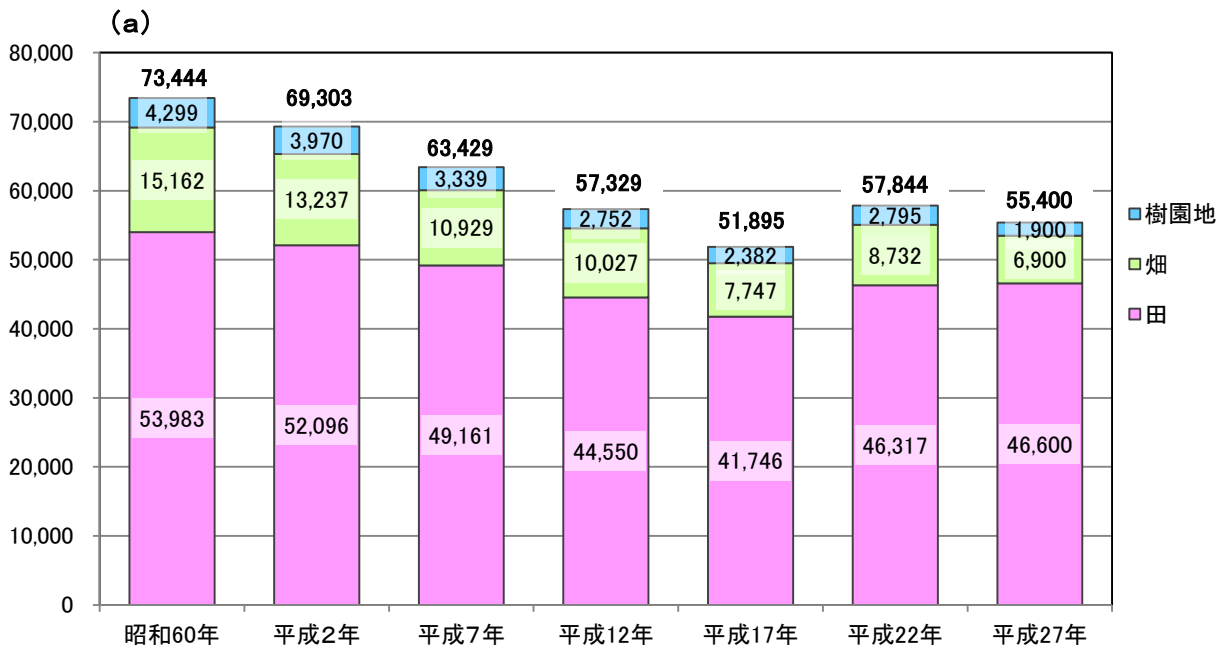
表 3-10 地目別経営農家数及び耕地面積

	地目別経営農家戸数(戸)			経営耕地面積(a)			
	田	畑	樹園地	田	畑	樹園地	総面積
昭和 60 年	848	781	170	53,983	15,162	4,299	73,444
平成 2年	757	679	169	52,096	13,237	3,970	69,303
平成 7年	699	659	162	49,161	10,929	3,339	63,429
平成 12年	590	531	100	44,550	10,027	2,752	57,329
平成 17年	378	348	75	41,746	7,747	2,382	51,875
平成 22年	294	290	56	46,317	8,732	2,795	57,844
平成 27年	238	220	52	46,600	6,900	1,900	55,400

出典：農林水産省統計調査部 「世界農林業センサス・宮城県統計書」
 農林水産省農林経済局統計情報部 「農林業センサス・宮城県統計書」
 宮城県企画部 「宮城県農業基本調査報告書」

※平成17年数値より、農林業センサスに従い農業経営体を基にした数値になっている。

図 3-10 地目別経営耕地面積の推移



出典：農林水産省統計調査部 「世界農林業センサス・宮城県統計書」
 農林水産省農林経済局統計情報部 「農林業センサス・宮城県統計書」
 宮城県企画部 「宮城県農業基本調査報告書」

※平成17年数値より、農林業センサスに従い農業経営体を基にした数値になっている。

(3) 工業の動向

本町の工業に係る事業所数及び従業員数は平成2年の103事業所、2,603人、平均従業者数25.3人をピークに減少し、製造品出荷額についても平成2年の3,443,836万円をピークに減少しています。

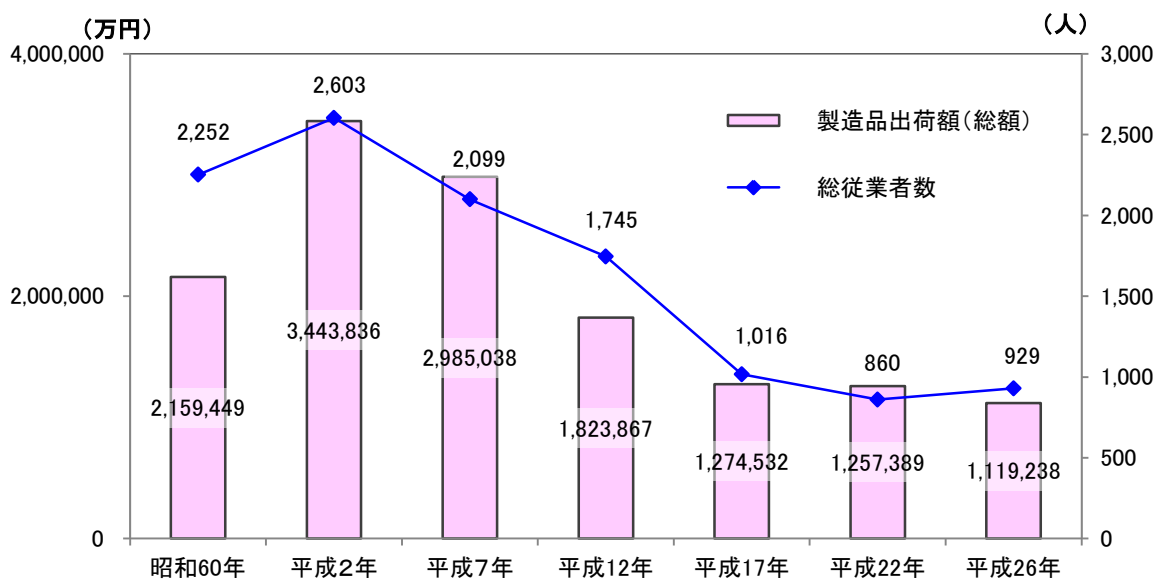
平成26年時点の事業所数は31事業所、従業者数は929人、製造品出荷額は1,119,238万円です。なお、事業所あたりの平均従業者数は30.0人で若干の増加ではあるが、県の平均従業者数35.0人を下回っており、小規模事業所の構成割合が高いことが伺えます。

表 3-11 事業所数・従業者数及び製造品出荷額等

	事業所数 (事業所)	総従業者数 (人)	製造品出荷額 (総額) (万円)
昭和60年	107	2,252	2,159,449
平成2年	103	2,603	3,443,836
平成7年	106	2,099	2,985,038
平成12年	97	1,745	1,823,867
平成17年	37	1,016	1,274,532
平成22年	34	860	1,257,389
平成26年	31	929	1,119,238

出典：「工業統計調査結果報告書」（平成27年 宮城県企画部）

図 3-11 従業者数及び製造品出荷額等の推移



出典：「工業統計調査結果報告書」（平成27年 宮城県企画部）

(4) 商業の動向

本町の商業に係る事業所数は平成16年の410店からに減少傾向にあり、従業者数も平成19年の2,827人をピークに減少に転じています。年間商品販売額は、平成9年の8,686,973万円から大きく減少しています。

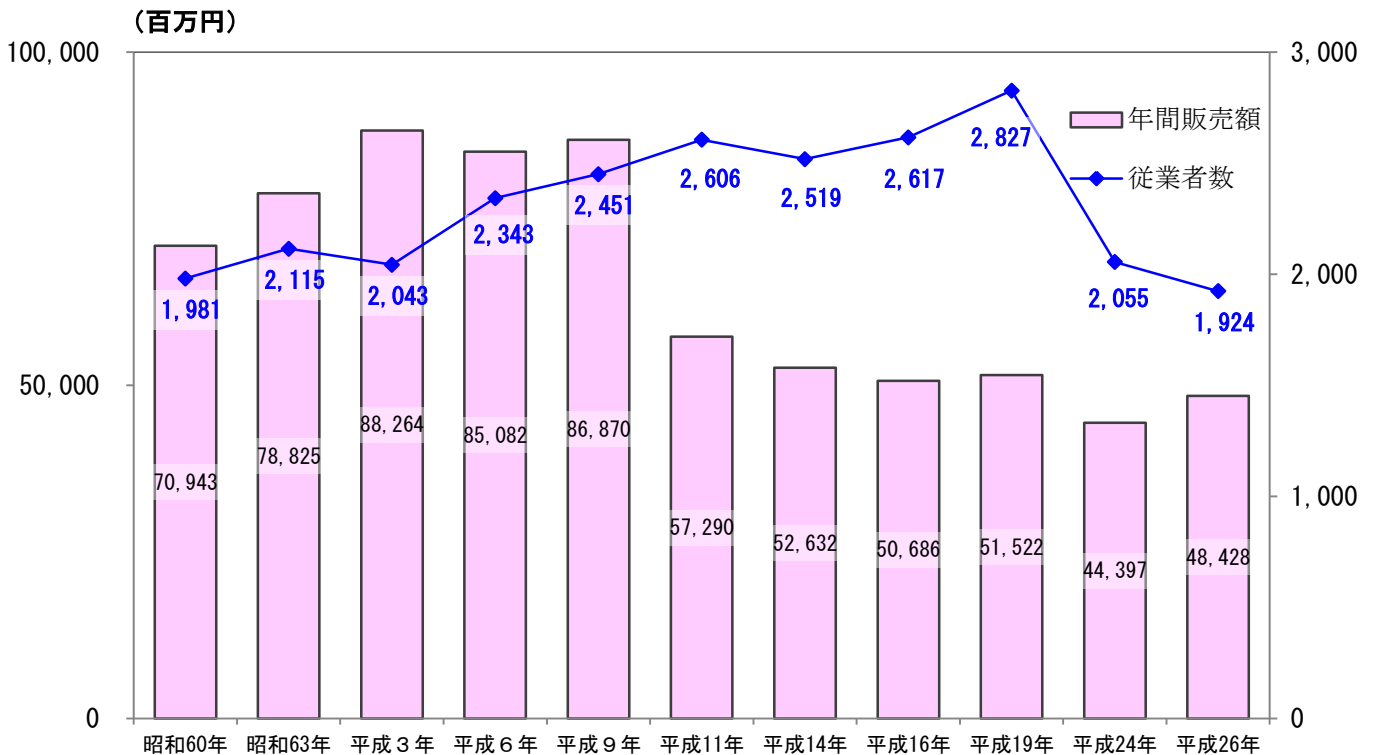
平成26年時点は事業所数が293店、従業者数が1,924人、事業所当り平均従業者数が6.6人、年間商品販売額が4,842,800万円となっています。また、就業者1人当たりの年間商品販売額は25.2百万円で県平均の27.5百万円よりやや低くなっています。

表 3-12 商店数・従業者数および年間商品販売額

	商店数 (店)	従業者数 (人)	年間販売額 (万円)
昭和60年	396	1,981	7,094,346
昭和63年	411	2,115	7,882,519
平成3年	417	2,043	8,826,431
平成6年	407	2,343	8,508,228
平成9年	404	2,451	8,686,973
平成11年	422	2,606	5,728,990
平成14年	378	2,519	5,263,234
平成16年	410	2,617	5,068,606
平成19年	393	2,827	5,152,184
平成24年	281	2,055	4,439,700
平成26年	293	1,924	4,842,800

出典：「宮城県の商業（商業統計調査結果報告書）」（平成27年 宮城県企画部）

図 3-12 従業者数および年間商品販売額の推移



「宮城県の商業（商業統計調査結果報告書）」（平成27年 宮城県企画部）

5. 土地利用

(1) 土地利用状況

山間地の多い特性から、平成27年1月時点で山林が30.0%（750ha）と最も多く、次いで田が18.2%（470ha）、畑が11.8%（295ha）となっており、原野等を含める自然的土地利用が本町全域の6割を占めています。なお、宅地は445haで17.8%、雑種地は82haで3.2%を占めています。

土地利用の推移をみると、30年前（昭和60年）と比較して田が0.3%減（70ha）、畑が0.8%増（21ha）、原野が0.2%減（0.5ha）、宅地が7.4%増（187ha）増加して、緩やかに市街化が進んでいることが伺えます。

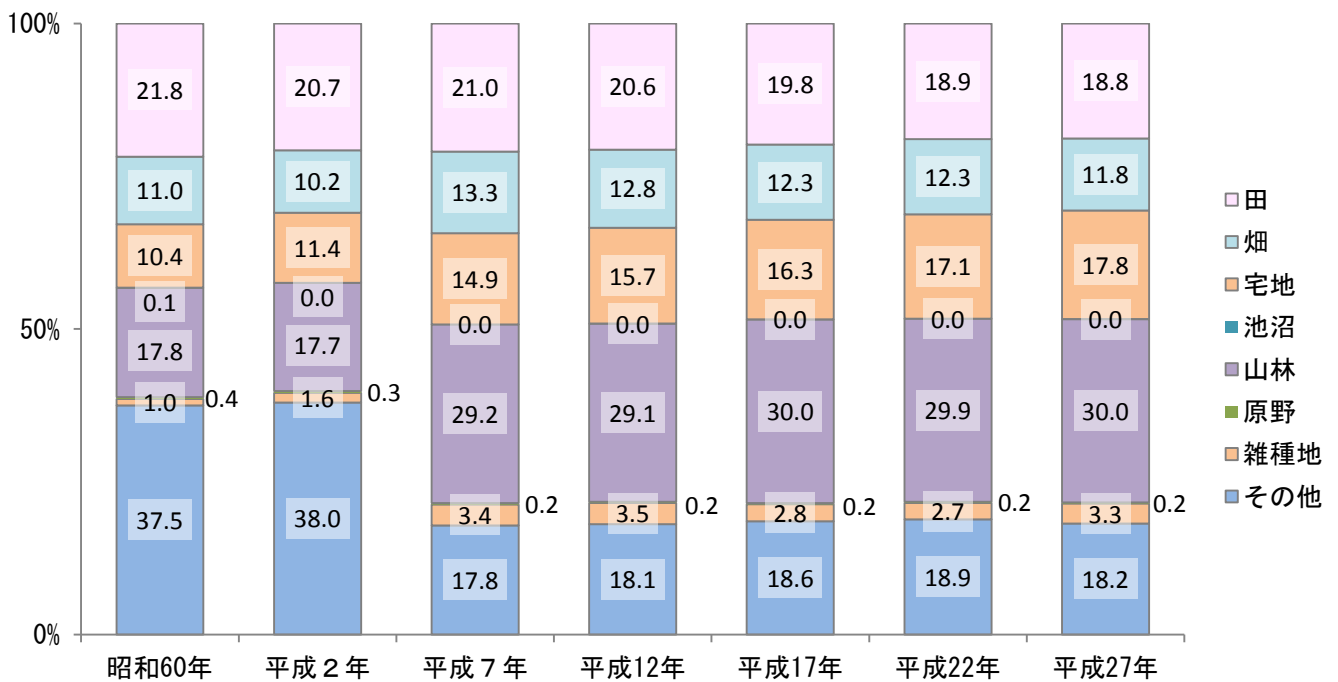
表 3-13 土地利用構成

(単位：㎡)

	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地	その他	総面積
昭和60年	5,397,963	2,737,851	2,572,996	18,725	4,416,391	88,858	249,136	9,298,080	24,780,000
平成2年	5,193,520	2,563,563	2,863,841	4,037	4,425,328	78,239	395,967	9,505,505	25,030,000
平成7年	5,244,775	3,340,643	3,739,757	5,280	7,317,558	53,926	862,322	4,465,739	25,030,000
平成12年	5,162,189	3,193,847	3,928,230	5,281	7,281,389	51,130	865,483	4,522,451	25,010,000
平成17年	4,958,082	3,079,897	4,073,199	5,955	7,505,394	53,083	692,372	4,642,018	25,010,000
平成22年	4,729,767	3,079,905	4,270,596	5,954	7,489,037	46,611	672,218	4,715,912	25,010,000
平成27年	4,697,357	2,945,543	4,447,902	5,376	7,491,221	46,371	819,398	4,536,832	24,990,000

出典：「固定資産概要調書」（平成27年 大河原町税務課）

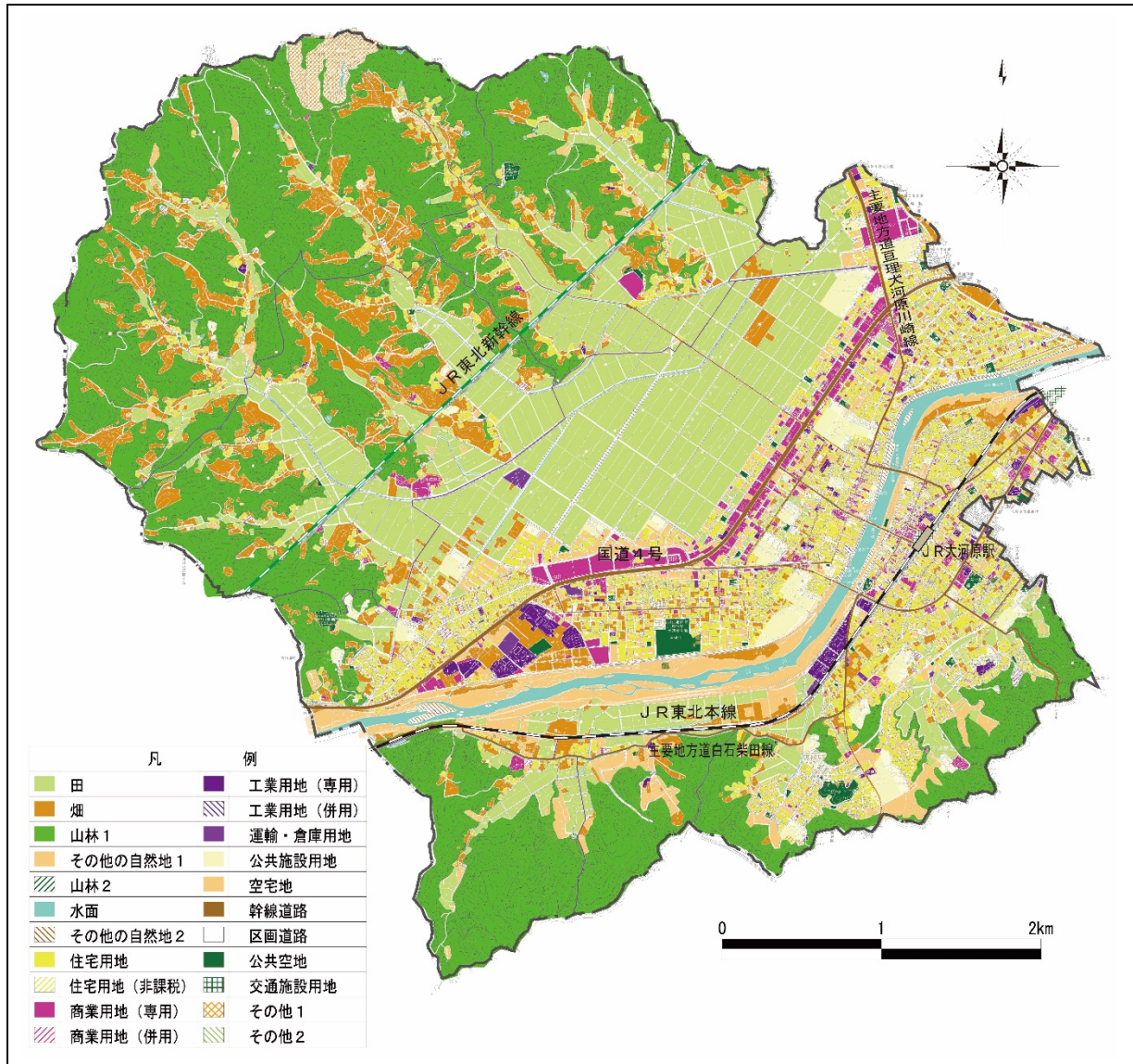
図 3-13 土地利用構成の推移



出典：「固定資産概要調書」（平成27年 大河原町税務課）

本町は、白石川沿いを中心に市街地が形成されていますが、その中に畑や空宅地が混在する土地利用となっています。国道4号沿道では、商業用地（専用）が集積し、その西側ではまとまった水田が形成されています。金ヶ瀬川根地区では、工業用地（専用）と畑や空宅地が混在した土地利用となっています。北側および南側の町境付近は、山林を中心とした土地利用となっています。

図 3-14 土地利用現況図



出典：「平成22年度 県南部地区都市計画基礎調査」（平成23年 宮城県）

(2) 開発動向

本町では大河原町開発指導要綱に基づき、開発区域が1,000 m²以上の開発事業に対して事前協議を求めています。また、3,000 m²を超える開発行為に対しても県への申請前に町との事前協議を求めています。平成19年度からの大河原町開発指導要綱に基づく事前協議は、45件となっています。近年では、金ヶ瀬字川根における工場、工業用地の造成・建設や駐車場敷地造成のための開発行為が多く見られます。

表 3-14 開発事業

年度	受付年月日	開発目的	開発区域	開発面積(m ²)	地目	
					現況	台帳
19	H19. 8. 28	共同住宅の建築	字小島 18-2 の一部	2,968.72	宅地	宅地
19	H19. 10. 22	共同住宅 2 棟建築	大谷字稗田前 59-1 外	1,824.46	-	田
19	H19. 10. 31	住宅敷地の造成	金ヶ瀬字川根 22-17	1,543.35	畑	畑
19	H19. 12. 17	賃貸戸建住宅の建築	大谷字見城前 1-1 外	2,997.88	-	宅地等
19	H19. 12. 17	資材置場増設	新寺字東入山 2-1 外	2,990.45	山林等	山林等
19	H20. 1. 11	ライスセンター新築	金ヶ瀬字関の走 60	9,659.15	雑種地	雑種地
19	H20. 3. 13	資材置場造成	大谷字下欠 1-1 外	6,011.00	-	山林等
20	H20. 5. 16	住宅建築用資材の集積場	金ヶ瀬字青木 65-2	1,549.99	雑種地	宅地等
20	H20. 7. 15	工場用地の確保	金ヶ瀬字中川原 72-1 外	1,754.24	畑	畑
20	H20. 10. 3	賃貸住宅 7 棟建築	字南平 7-15 外	1,426.86	雑種地	宅地等
20	H20. 10. 2	建売住宅建築	字町 189-2 の一部	1,000.94	-	宅地
21	H21. 7. 22	事務所兼倉庫建築	字小島 17-2	1,571.17	宅地	宅地
21	H21. 9. 30	宅地造成	大谷字稗田前 26-1	2,237.00	雑種地	雑種地
21	H21. 11. 27	居宅・作業場・倉庫建築	新寺字洞秀山 13-1 外	1,064.00	畑	畑
21	H21. 12. 9	店舗建設	字新南 62-7 外	1,843.18	宅地	宅地
22	H22. 6. 8	駐車場整備等	大谷字戸ノ内前 31-11	1,333.00	畑	畑
22	H22. 7. 22	戸建住宅の造成	大谷字戸ノ内前 41-23 外	1,097.34	宅地	宅地
22	H23. 1. 17	宅地建売分譲	字錦町 7-4 外	2,599.64	宅地	宅地
23	H23. 10. 18	宅地造成	字中島町 1-18 外	1,202.43	畑	畑
23	H23. 11. 25	車庫建築	大谷字下欠 1-1 外	1,578.83	雑種地	畑等
24	H24. 6. 25	宅地分譲	字新南 49-3 外	2,386.17	宅地等	宅地等
24	H24. 7. 23	宅地分譲	字高砂町 18-3 外	1,802.55	畑	畑等
24	H24. 10. 17	宅地建売分譲	字新南 70-2	1,405.00	田	田
24	H24. 11. 12	工場敷地拡幅	大谷字保料前 3 外	5,387.45	畑等	畑他
24	H24. 12. 10	工場新築及び駐車場	大谷字西原前 92-1 外	1,650.00	雑種地	畑
24	H25. 1. 29	共同住宅の建築	大谷字稗田前 41-2 外	1,324.00	田	-
24	H25. 2. 7	事務所増築工事	大谷字上谷前 220-1 外	2,377.47	宅地	山林
25	H25. 6. 28	建売住宅分譲	金ヶ瀬字居掛 44-1 外	1,133.00	畑	畑等
25	H25. 8. 14	賃貸・共同住宅用地築造	大谷字西原前 180 外	2,360.73	畑等	宅地等
25	H25. 11. 1	賃貸住宅用地築造	字中川原 8-5	1,687.39	宅地	宅地
25	H25. 11. 11	宅地分譲	字広瀬町 1-2 外	1,442.09	田	田
25	H26. 3. 3	宅地分譲	字住吉町 10-3	1,530.04	田	田
26	H26. 5. 1	建売分譲	金ヶ瀬字新居掛 103-1 外	1,796.00	田	畑
26	H26. 6. 24	店舗建築	字南原町 1-1 外	3,130.59	雑種地	雑種地
26	H26. 6. 25	宅地分譲	大谷字原前 1	1,681.76	宅地	宅地
26	H26. 7. 16	自社用資材置場建築	大谷字後田 47-6	2,932.64	雑種地	山林
26	H26. 10. 1	増築	金ヶ瀬字新開 126-9	2,100.47	宅地等	宅地等
26	H27. 1. 28	宅地分譲	大谷字町向 250-1 外	2,053.75	宅地	宅地
27	H27. 4. 8	駐車場敷地造成	金ヶ瀬字川根 106-13 外	4,799.29	-	宅地等
27	H27. 12. 8	宅地分譲	大谷字見城前 168-2 外	1,297.96	原野	雑種地等
27	H28. 3. 18	工場建設に伴う造成	金ヶ瀬字川根 105-5 外	11,610.77	宅地	宅地・雑種地
28	H28. 10. 11	農業作業場建築	金ヶ瀬字新杓子木 46	1,662.00	畑	畑
28	H28. 10. 19	川根工業用地の造成	金ヶ瀬字川根 106-9 外	31,461.26	畑	畑
28	H28. 10. 28	長屋住宅建築工事に伴う宅地造成	字山崎町 15-1 外	1,654.17	田	田
28	H29. 2. 9	店舗開設の為	金ヶ瀬字中川原 94-1 外	2,495.10	畑・宅地	畑・宅地

出典：「大河原町開発指導要綱による事前申請協議一覧表」（平成29年 大河原町）

(3) 新築動向

人口が増加している本町では、毎年100件を超える新築の届出数があります。住宅ローン減税が当初平成25年度までだったことや平成26年4月からの消費税増税に伴い、平成25～26年度は届出件数がやや減少したもののすぐに回復し、平成28年度は過去5年間で最も多い188件に達しました。

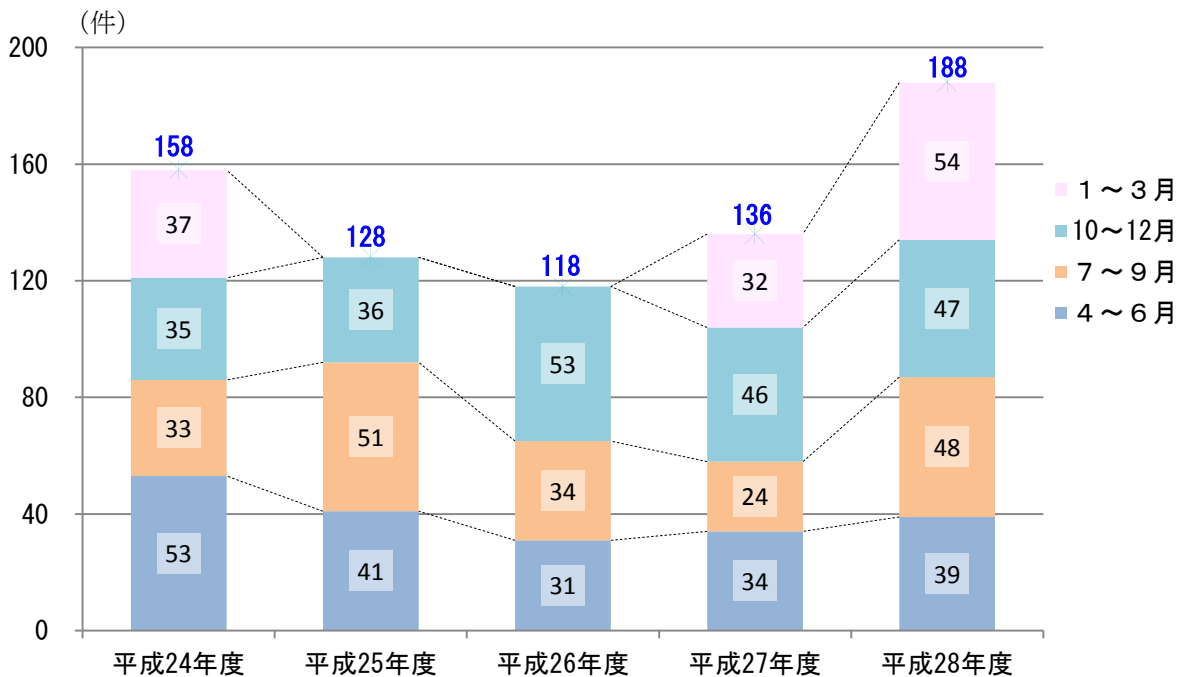
表 3-15 新築届出数

(単位：人)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
4 月	12	11	3	5	13
5 月	20	12	10	12	20
6 月	21	18	18	17	6
7 月	9	15	12	7	27
8 月	10	24	7	9	8
9 月	14	12	15	8	13
10 月	14	21	31	10	25
11 月	8	15	7	13	10
12 月	13	0	15	23	12
1 月	13	0	0	10	15
2 月	13	0	0	13	18
3 月	11	0	0	9	21
合 計	158	128	118	136	188

出典：「建築確認申請状況調書（件数）」（平成24～28年度 大河原町）

図 3-15 新築届出数の推移



出典：「建築確認申請状況調書（件数）」（平成24～28年度 大河原町）

(4) 人口集中地区 (DID地区)

人口集中地区人口及び面積を下表 (昭和35年から平成27年) に、区域の変遷を図3-16 (昭和60年から平成27年) にて整理しました。

人口集中地区の面積は昭和40年以降、拡大の一途をたどっていますが、その人口密度は昭和40年をピークに減少を続け、平成12年に増加に転じた以降はほぼ横ばいの状態が続いています。

表 3-16 人口集中地区人口及び面積

(単位: 人・km²・%)

(各年10月1日)

	人 口	増 加 数	増 加 率	面 積	人口密度 (1 km ² 当たり)
昭和 35 年	7,708	—	—	1.3	5,929.2
昭和 40 年	7,554	△ 154	△ 2.0	1.2	6,295.0
昭和 45 年	8,198	644	8.5	1.5	5,465.3
昭和 50 年	7,990	△ 208	△ 2.5	1.6	4,993.8
昭和 55 年	8,519	529	6.6	2.0	4,259.5
昭和 60 年	9,935	1,416	16.6	2.5	3,974.0
平成 2 年	13,424	3,489	35.1	3.4	3,948.2
平成 7 年	13,704	280	2.1	3.5	3,904.3
平成 12 年	15,025	1,321	9.6	3.6	4,139.1
平成 17 年	14,993	△32	△0.2	3.7	4,107.7
平成 22 年	15,405	412	2.7	3.7	4,119.0
平成 27 年	16,263	858	5.6	3.9	4,148.7

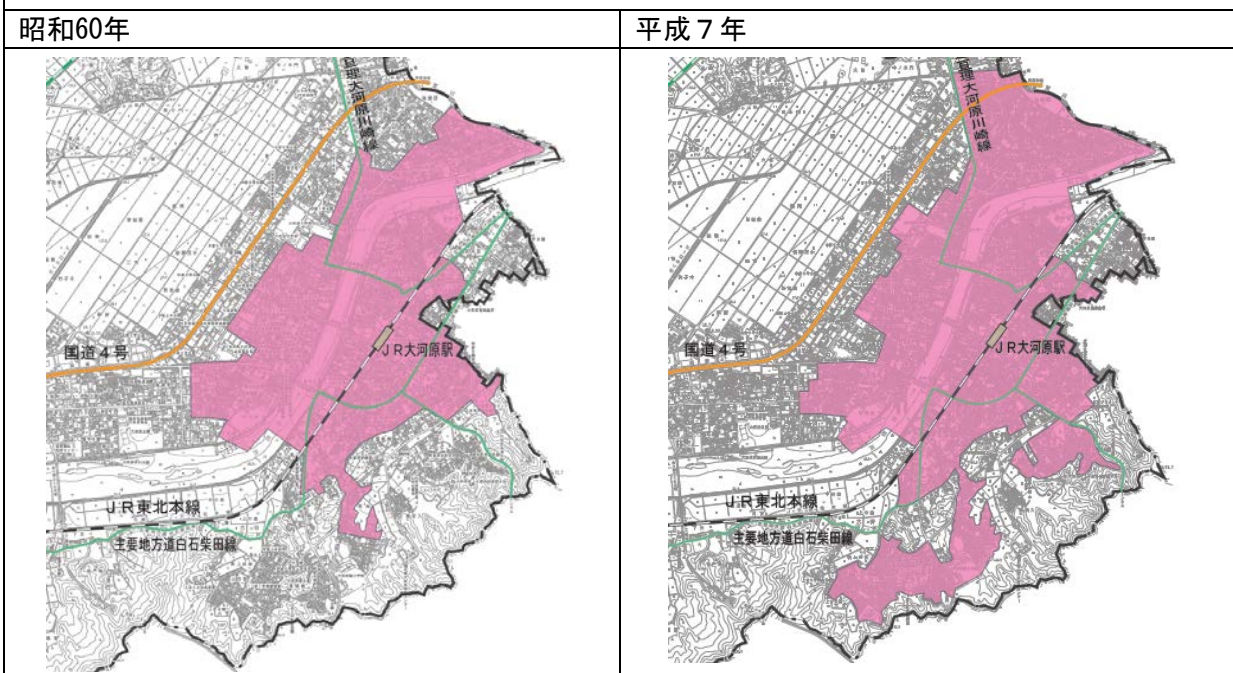
出典: 「国勢調査報告書 (人口集中地区の人口)」 (平成28年 総務省統計局)

※: 人口集中地区とは、都市公園・工業用地・水面等を除いて計算した人口密度の高い調査区 (1 km²当たり4,000人以上) が互いに隣接し、その人口が5,000人以上を有する地域をいう。

〈昭和60年～平成7年〉

図 3-16(1) 人口集中地区の変遷

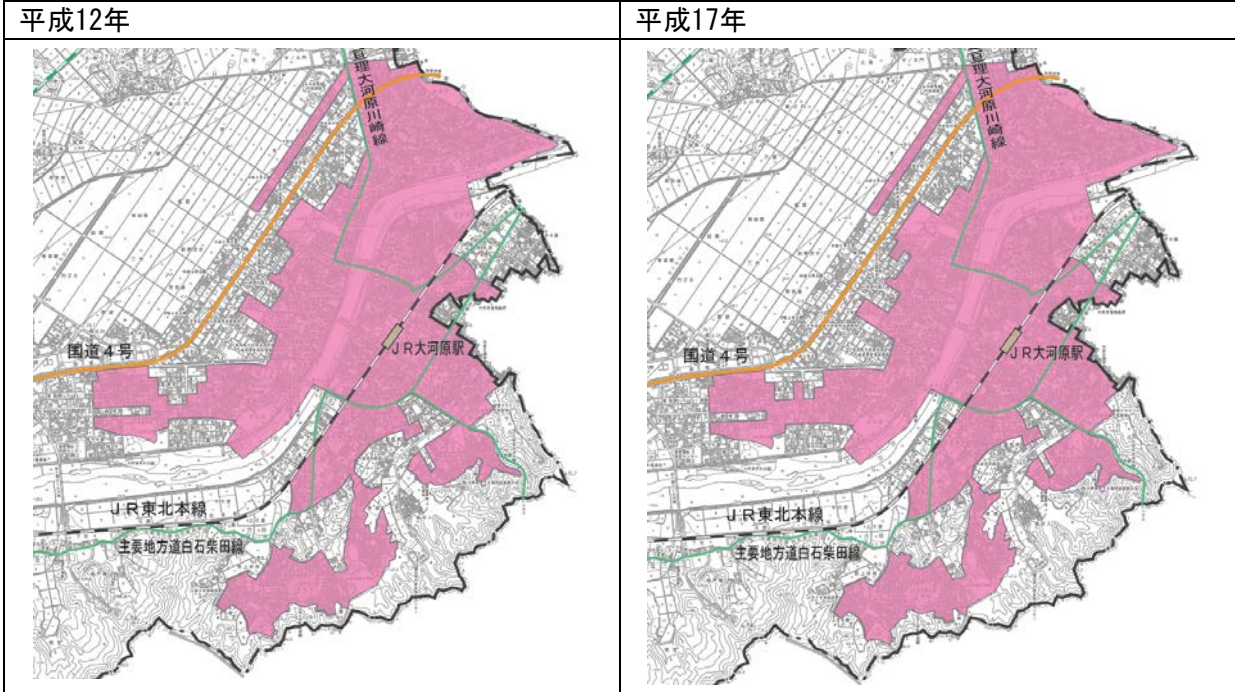
昭和60年から平成7年にかけて土地区画整理事業等における住宅地の開発が進み、南側の上谷地区と区画整理事業における山崎地区、北側における西桜地区、東青川地区等での人口集中地区が拡大しています。



〈平成7年～平成17年〉

図 3-16(2) 人口集中地区の変遷

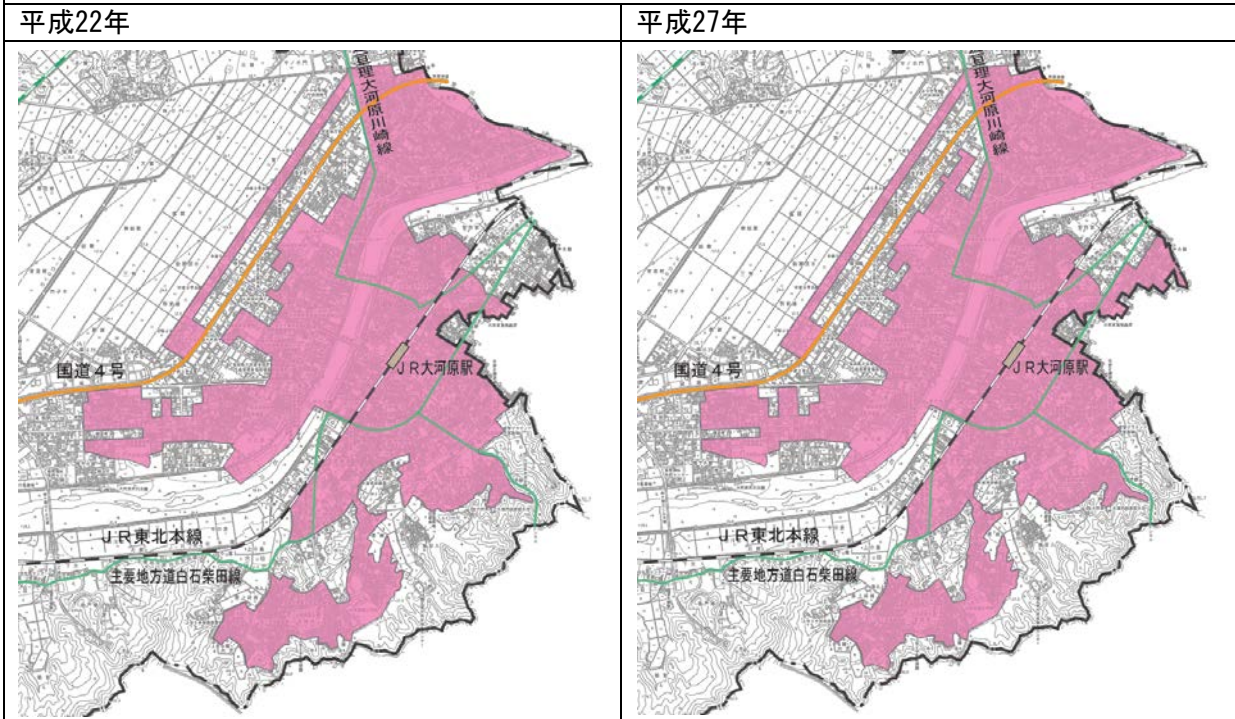
平成7年から平成17年では、区画整理事業区域である中部第2地区及び東金ヶ瀬地区において人口集中地区の拡大が見られます。



〈平成22年～平成27年〉

図 3-16(3) 人口集中地区の変遷

平成22年では中部第二地区および東部地区で、平成27年では新東部地区、西原地区、南原地区で人口集中地区が拡大していますが、平成22年では末広地区周辺において減少しています。



(5) 市街地開発事業の動向

1) 土地区画整理事業

本町における区画整理事業は、組合等施行と公共団体等を合わせ施工済17地区となり、用途地域（649.9 ha）の半分以上にあたる333.9 haが土地区画整理事業により整備されています。

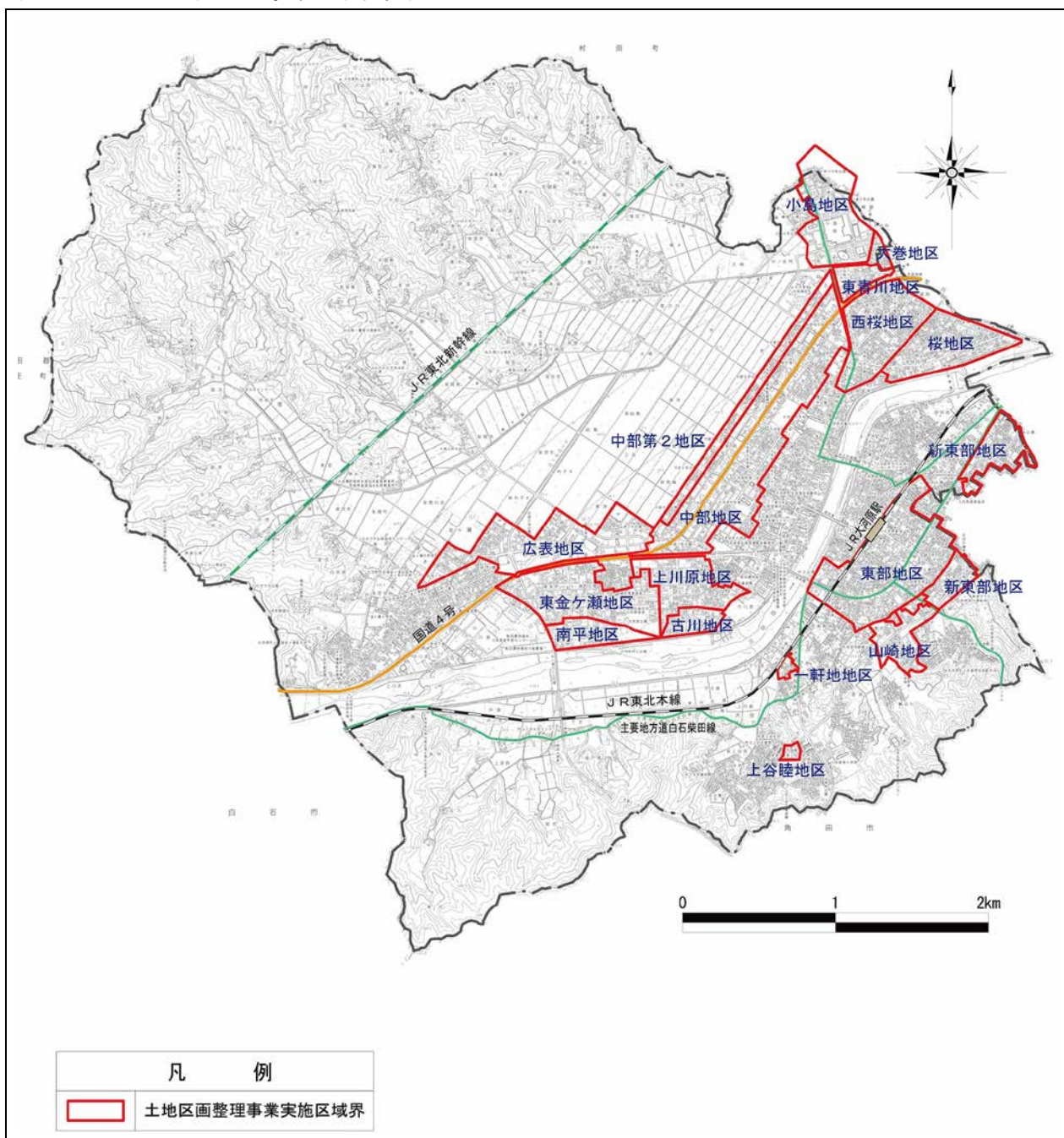
しかし、桜町、上川原、丑越、金ヶ瀬等の土地区画整理事業実施区域内の中には事業完了後も宅地としての利用が進まず、一部は未利用地として畑が点在しています。

表 3-18 土地区画整理事業一覧

地区名	事業主体	面積(ha)	施行期間
東部	大河原町	43.23	昭和32年度～38年度
桜	大河原町桜土地区画整理組合	21.16	昭和40年度～44年度
上川原	大河原町上川原土地区画整理組合	21.75	昭和43年度～48年度
東金ヶ瀬	大河原町東金ヶ瀬土地区画整理組合	26.24	昭和45年度～50年度
新東部	大河原町新東部土地区画整理組合	17.21	昭和46年度～52年度
西桜	大河原町西桜土地区画整理組合	29.35	昭和49年度～53年度
上谷睦	大河原町上谷睦土地区画整理組合	1.42	昭和51年度～54年度
東青川	大河原町東青川土地区画整理組合	5.46	昭和53年度～55年度
一軒地	大河原町一軒地土地区画整理組合	1.48	昭和53年度～55年度
中部	大河原町中部土地区画整理組合	71.24	昭和56年度～61年度
山崎	大河原町山崎土地区画整理組合	10.45	昭和57年度～61年度
大巻	大河原町大巻土地区画整理組合	2.13	昭和59年度～62年度
南平	大河原町南平土地区画整理組合	9.49	昭和63年度～平成6年度
古川	大河原町古川土地区画整理組合	7.90	平成元年度～6年度
小島	大河原町小島土地区画整理組合	23.70	平成元年度～8年度
中部第二	大河原町中部第二土地区画整理組合	11.89	平成2年度～6年度
広表	大河原町広表土地区画整理組合	35.17	平成10年度～26年度
事業総面積		339.28	

出典：「平成24年大河原町土地区画整理事業誌」（平成24年 大河原町）

図 3-18 土地区画整理事業区域位置図



出典：「平成24年大河原町土地区画整理事業誌」（平成24年 大河原町）

2) 市街地再開発事業

大河原駅前の利便性を高め高度利用を図ることを目的に平成7年より市街地再開発事業が施行され、平成12年には駅前再開発ビル「オーガ」が誕生しました。

表 3-19 市街地再開発事業一覧

都市計画区域名	名称	施行主体	施行区域面積 (ha)	建築敷地面積 (ha)	建蔽率	容積率の制限	主要用途	最終変更年月日
仙南広域	大河原駅前地区	組合	0.7	0.5	9/10	30/10	店舗、公益施設、駐車場	平成25年3月29日

出典：「平成27年都市計画現況調査」（平成27年 国土交通省）

(6) 空き家動向

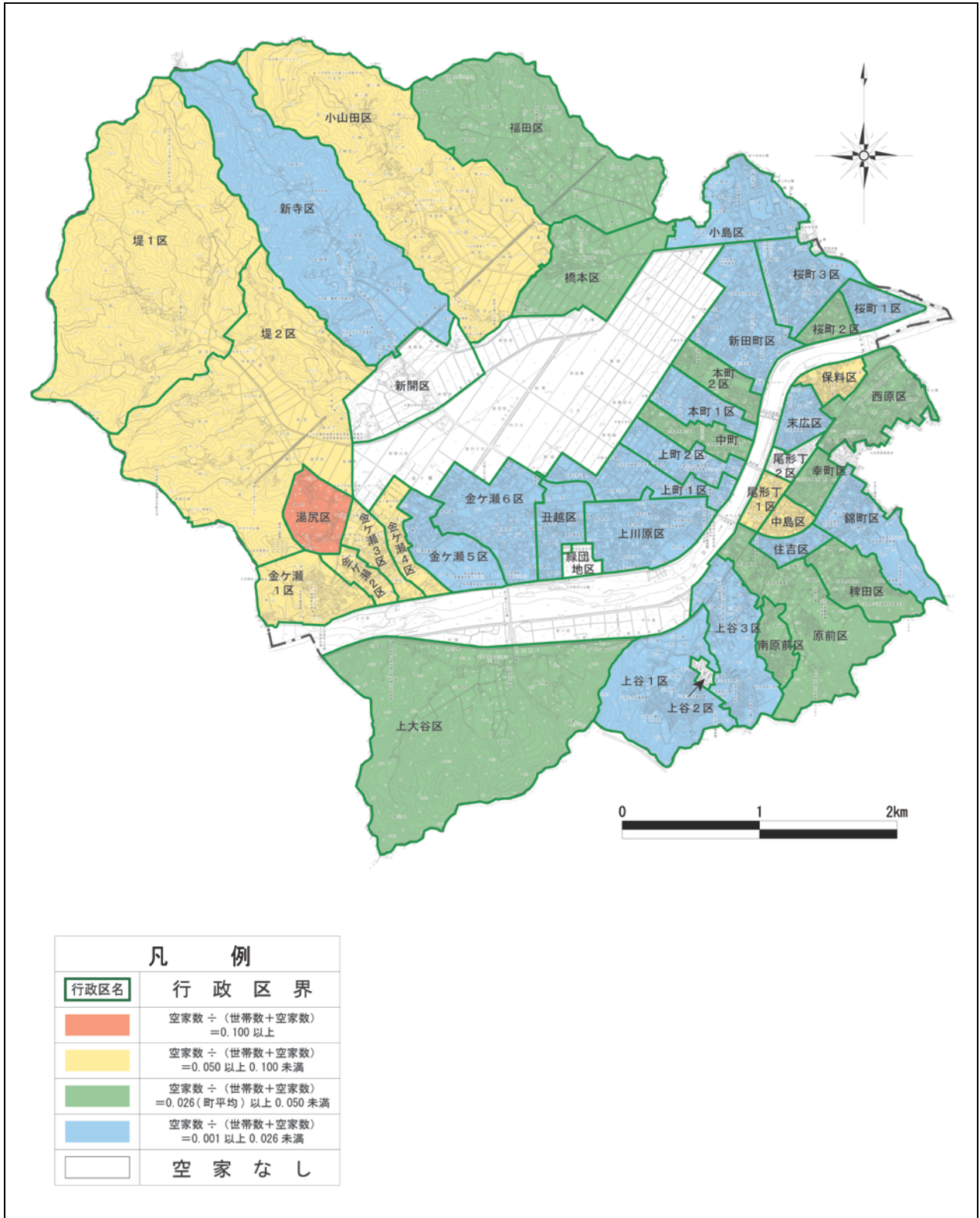
本町に空き家は240棟あり、世帯数に空き家を加えた9542に対する割合は0.025となっています。行政区別では、中島区と保料区が13棟と最多であり、世帯数+空き家数に対する割合はそれぞれ0.076、0.059と高くなっています。湯尻区、金ヶ瀬2区、4区は世帯数に対する割合はそれぞれ0.192、0.086、0.093と高くなるなど、西側で空き家が多くなっています。

表 3-20 空き家状況

行政区	空家数	世帯数	世帯数+ 空家数	空家数÷世帯数	行政区	空家数	世帯数	世帯数+ 空家数	空家数÷世帯数
小山田	5	91	96	0.052	住吉町	1	192	193	0.005
橋本	2	70	72	0.028	稗田	11	399	410	0.027
福田	2	53	55	0.036	原前	10	313	323	0.031
小島	3	159	162	0.019	南原前	6	169	175	0.034
上川原	7	631	638	0.011	上谷1	5	334	339	0.015
上町1	6	355	361	0.017	上谷2	0	125	125	0.000
上町2	4	264	268	0.015	上谷3	1	357	358	0.003
中町	9	180	189	0.048	上大谷	3	62	65	0.046
本町1	3	206	209	0.014	金ヶ瀬1	10	144	154	0.065
本町2	7	181	188	0.037	金ヶ瀬2	5	53	58	0.086
新田町	7	581	588	0.012	金ヶ瀬3	11	142	153	0.072
桜町1	7	299	306	0.023	金ヶ瀬4	7	68	75	0.093
桜町2	6	189	195	0.031	金ヶ瀬5	3	139	142	0.021
桜町3	2	612	614	0.003	金ヶ瀬6	7	422	429	0.016
尾形丁1	6	115	121	0.050	丑越	9	355	364	0.025
尾形丁2	0	105	105	0.000	緑団地	0	41	41	0.000
末広	5	255	260	0.019	湯尻	10	42	52	0.192
保料	13	208	221	0.059	堤1	3	60	63	0.048
西原	12	470	482	0.025	堤2	3	52	55	0.055
幸町	9	236	245	0.037	新開	0	34	34	0.000
中島	13	159	172	0.076	新寺	1	46	47	0.021
錦町	6	334	340	0.018	-	-	-	-	-
					総数	240	9302	9542	0.025

出典：「大河原町都市計画基礎調査 報告書」（平成28年 大河原町）

図 3-19 行政区別 世帯数+空き家数に対する空き家の割合



(7) 農地転用の状況

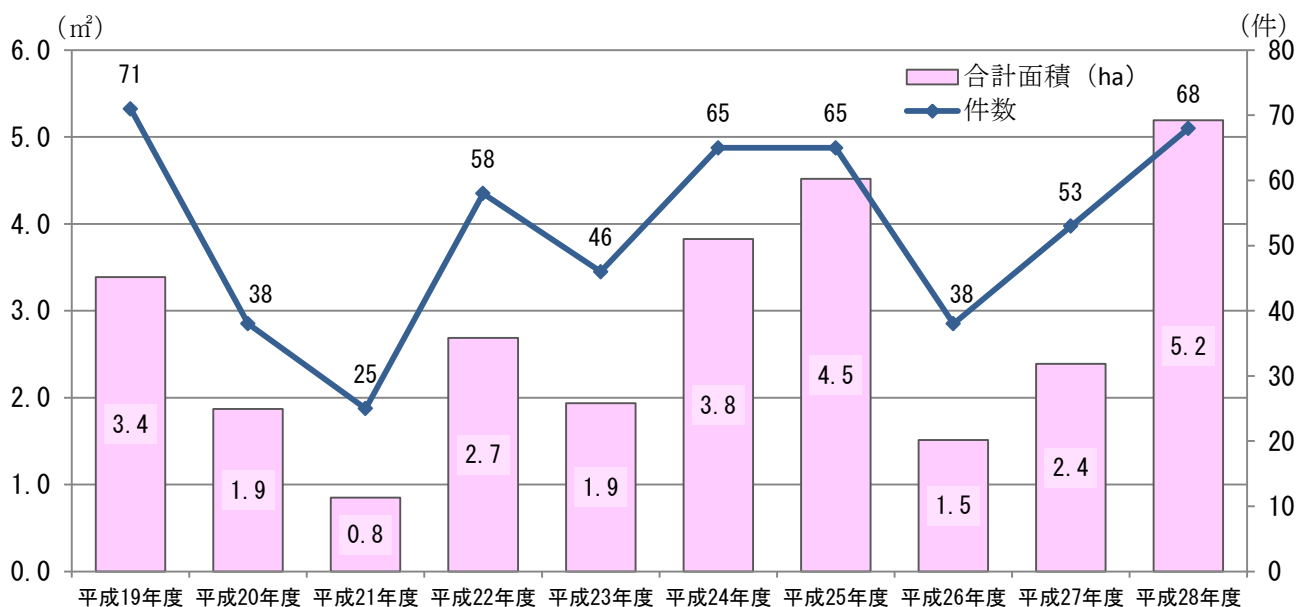
農地法に基づく町内での農地転用件数は、年度によってばらつきはあるものの、平成19年度から平成28年度の10年間では平均で毎年52.7件が許可され、面積にして約2.8haの農地が住宅等に転用されています。平成28年には68件、5.2haの農地転用が行われており、近年では最も多くなっています。

表 3-17 農地転用の状況

年度	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	計
件数	71	38	25	58	46	65	65	38	53	68	527
合計面積 (ha)	3.4	1.9	0.8	2.7	1.9	3.8	4.5	1.5	2.4	5.2	28.2

資料: 大河原町農業委員会調べ

図 3-17 農地転用の推移

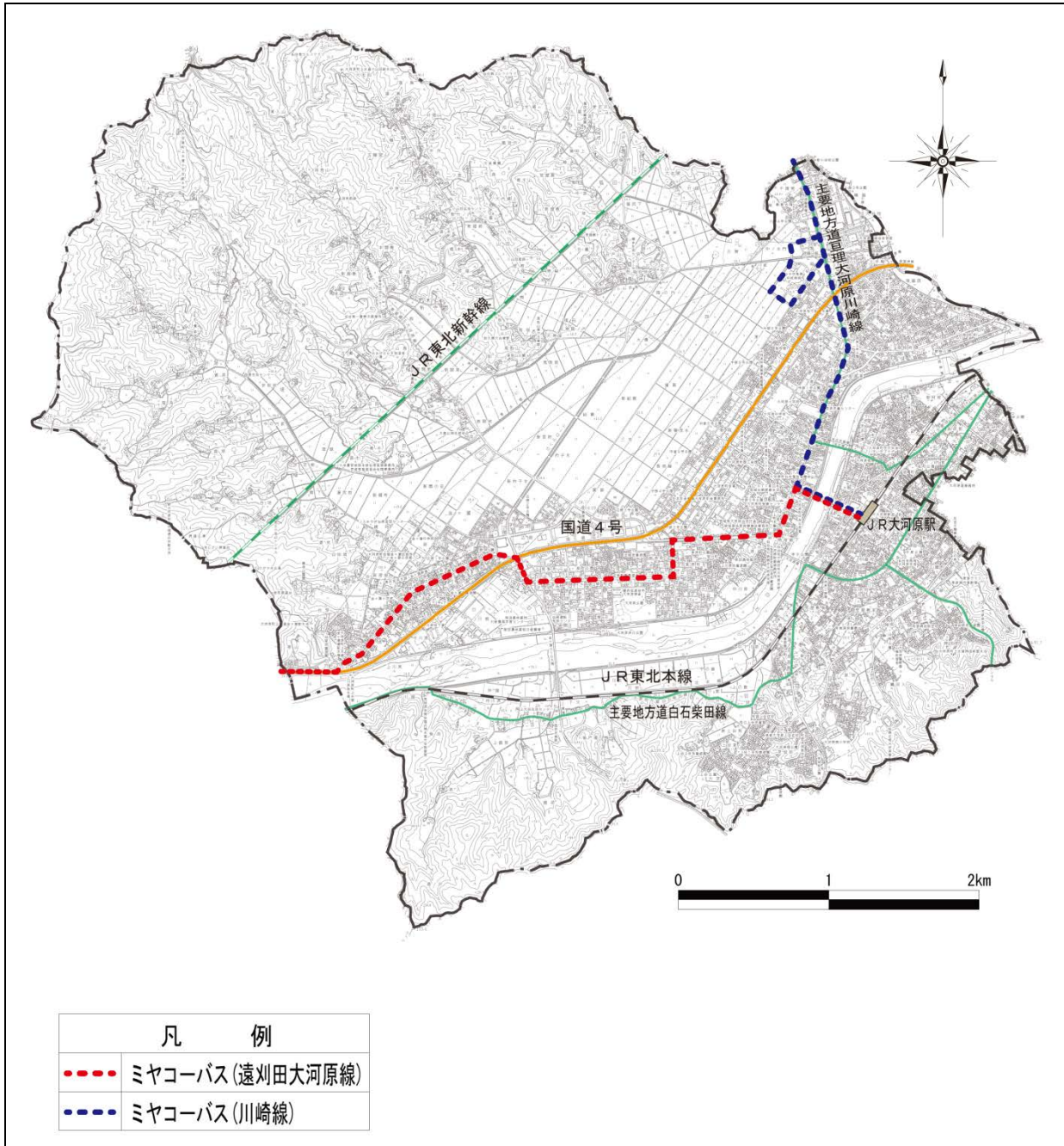


資料: 大河原町農業委員会調べ

6. 公共交通

町の北西をJR新幹線が、町の南側、白石川の右岸をJR東北本線が東西に走り、町の東側の市街地には大河原駅があります。バス路線は大河原駅を起点に、川崎と結ぶ「川崎線」、蔵王へと向かう「大河原遠刈田線」の2本が運行されています。

図 3-20 交通網図



出典：「宮城交通ホームページ」（平成29年 宮城交通株式会社）

(1) 鉄道

本町を横断する白石川に沿ってJR東北本線が整備され、大河原駅は市街地の中心に位置しています。本町では仙台市内への通勤・通学その他、4月頃に開催される全国的にも有名な桜まつり等により、住民及び観光客に鉄道が利用されています。平成29年2月現在、1日に上り40本、下り43本、計83本が運行されています。

本町における近年の鉄道利用状況は大きな増減はなく横ばいでの推移となっています。

表 3-21 鉄道利用者数の推移（1日平均）

(単位：人)

年度	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
利用者数	3,435	3,356	3,218	3,208	3,319	3,394	3,288

出典：「営業成績原簿」（平成27年 JR大河原駅）

(2) バス

バスは、株式会社ミヤコーバスにより2路線運行されていますが、その運行範囲は金ヶ瀬地区～川西地区に留まり、川東地区、南側及び北西側の集落では運行されていません。利用者数も年々減少傾向にあり、生活バス路線の効率・効果的な運航が課題となっています。

表 3-22 路線バスの運行数

路線名	上り/下り	平日	土・日・祝日
川崎線	上り（川崎→大河原駅前）	11本	5本
	下り（大河原駅前→川崎）	12本	5本
大河原遠刈田線	上り（アクティブリゾーツ宮城蔵王→大河原駅前）	4本	3本
	下り（大河原駅前→アクティブリゾーツ宮城蔵王）	4本	3本

出典：「大河原町ホームページ」（平成29年 大河原町）

(3) デマンド型乗合タクシー

本町内全域において、平成24年7月からデマンド型乗合タクシーが導入され、バス交通などを補完する移動手段として運用されています。

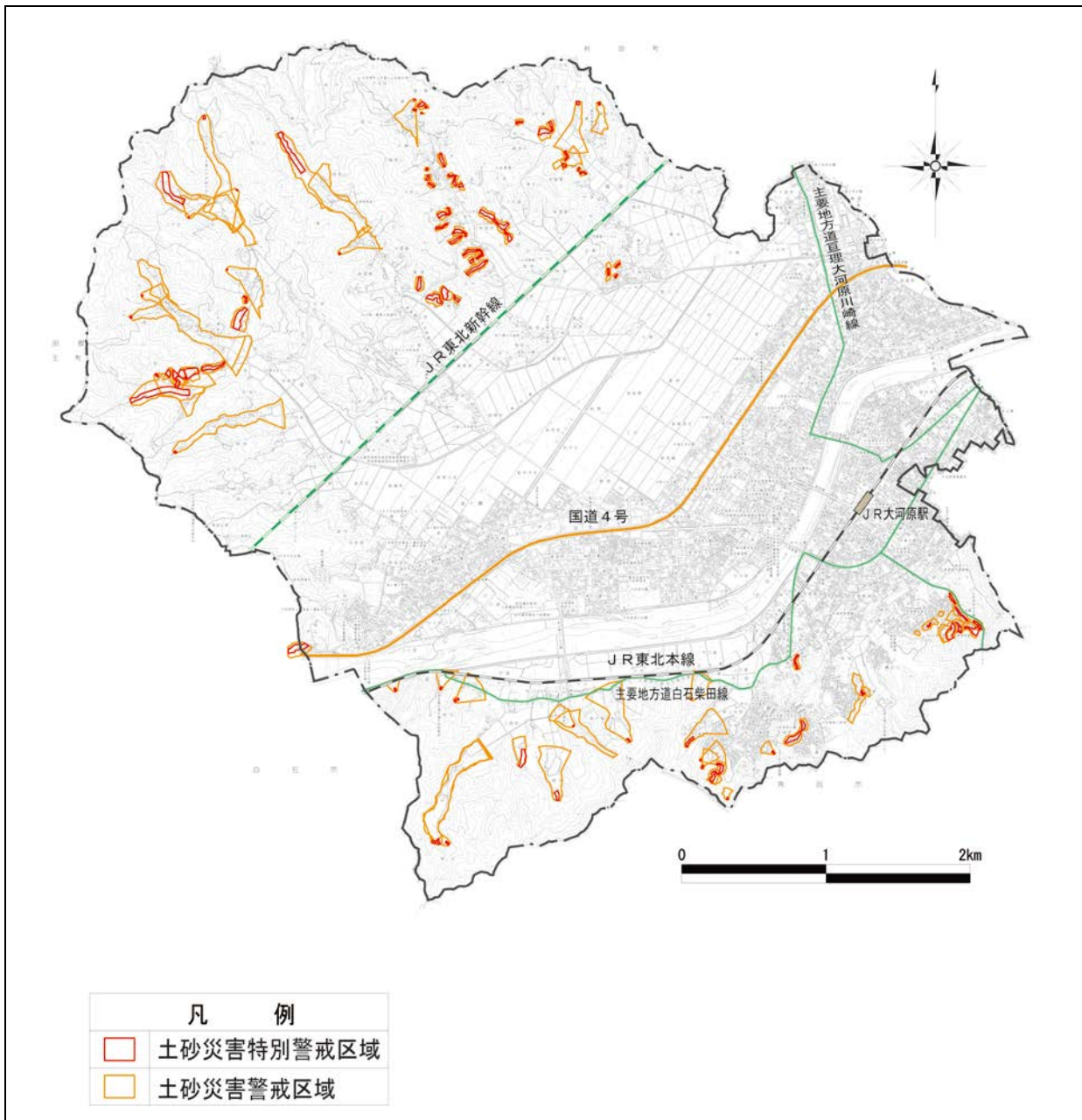
7. 防災

(1) 土砂災害

本町では、土砂災害危険箇所として「土砂災害特別警戒区域」、「土砂災害警戒区域」が指定されています（指定箇所は次図）。

市街地の大部分は土砂災害警戒区域から離れていますが、南側住宅地の一部や西側山間部の集落、主要地方道白石柴田線及びJ R東北本線の一部区間において指定されています。

図 3-21 土砂災害ハザードマップ



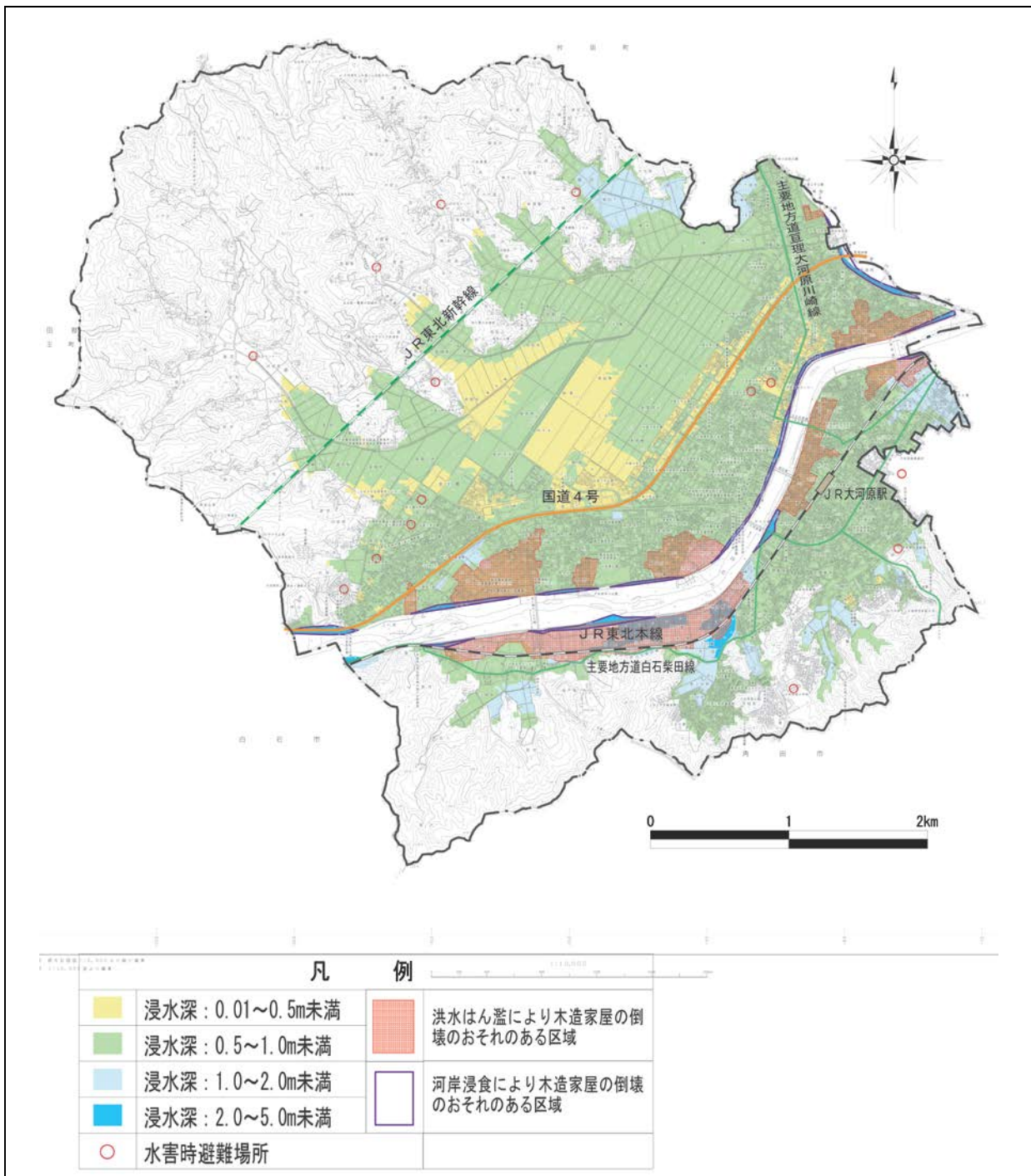
出典：「大河原町防災マップ」（平成31年 大河原町）

(2) 洪水災害

本町では、記録的な大雨が降った場合の白石川（雨量273mm/48時間…100年に1回程度の大雨）と荒川（205mm/24時間…20年に1回程度の大雨）の氾濫を想定し、その浸水エリアと浸水深が洪水ハザードマップにより示されています。浸水エリアは次図のとおりです。

洪水ハザードマップによると、川東地区において浸水エリアはほとんどありませんが、金ヶ瀬地区から川西地区の広い範囲を覆っています。一方、水害に対する指定の避難所・避難場所は川東地区に集中しており、川西地区からの避難、特に役場周辺やその北側の市街地からの避難を難しくしています。

図 3-22 洪水ハザードマップ

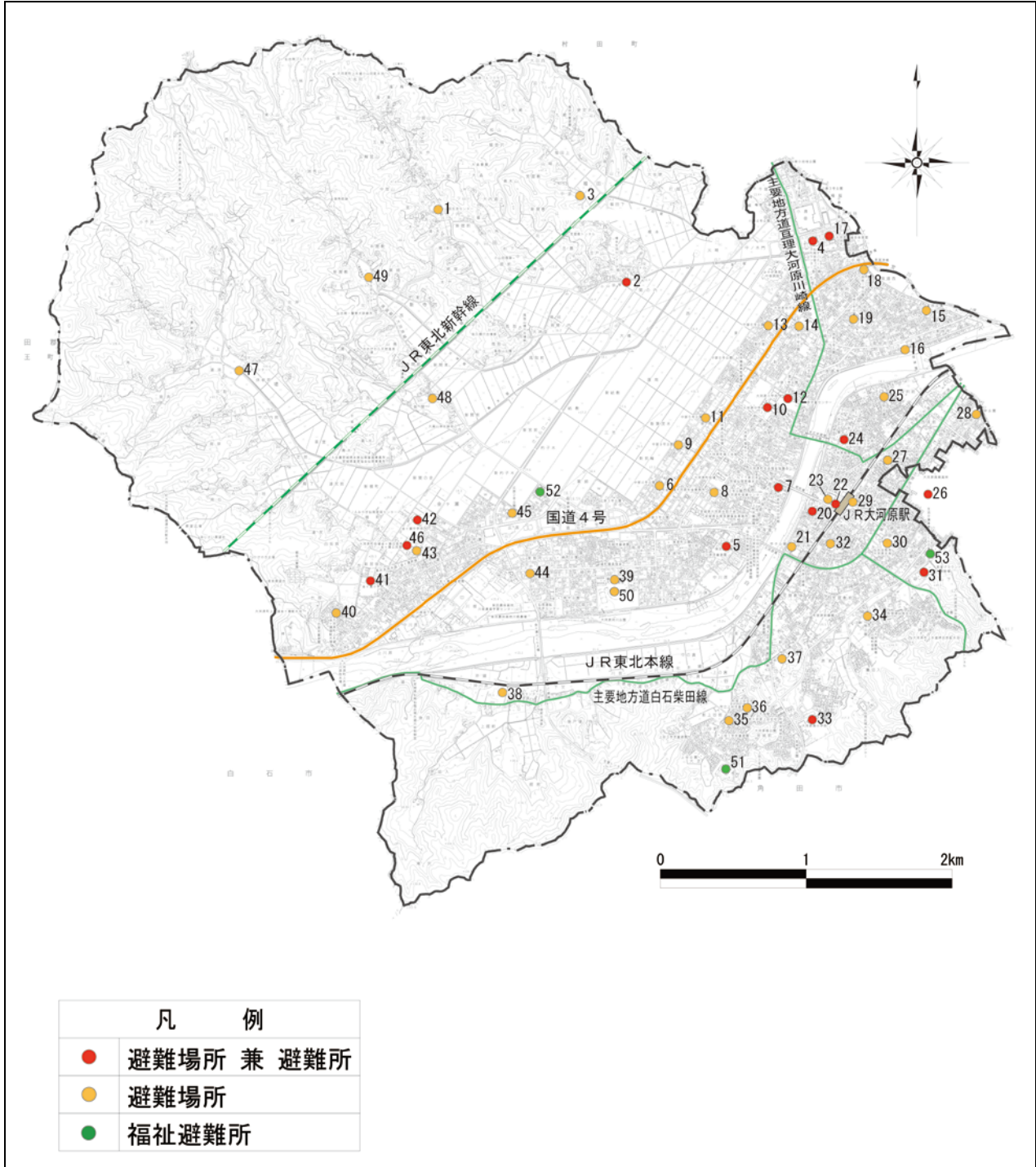


出典：「大河原町防災マップ-災害に強いまちづくり-」（大河原町）

(3) 避難場所・避難所

本町では、災害時の避難場所及び避難所を下表のとおり指定しています。

図 3-23 避難場所・避難所位置図



出典：「大河原町防災マップ-災害に強いまちづくり-」（平成27年 大河原町）

表 3-23 指定避難場所及び避難所

No.	名称	種類	No.	名称	種類
1	小山田生活センター	避難場所	28	高砂公園	避難場所
2	橋本交流センター	避難場所兼避難所	29	駅東駐車場	避難場所
3	福田集会所	避難場所	30	中島公園	避難場所
4	えずこホール	避難場所兼避難所	31	東部グラウンド・屋内運動場	避難場所兼避難所
5	柴田農林高等学校	避難場所兼避難所	32	ララ・さくら	避難場所
6	中部 4 号公園	避難場所	33	大河原南小学校	避難場所兼避難所
7	大河原町中央公民館	避難場所兼避難所	34	山崎公園	避難場所
8	中部 2 号公園	避難場所	35	上谷集会所	避難場所
9	中部 9 号公園	避難場所	36	上谷児童館	避難場所
10	大河原中学校	避難場所兼避難所	37	安浄寺	避難場所
11	中部 5 号公園	避難場所	38	上大谷生活センター	避難場所
12	大河原小学校	避難場所兼避難所	39	大河原公園駐車場	避難場所
13	中部 6 号公園	避難場所	40	台部集会所	避難場所
14	中部 7 号公園	避難場所	41	金ヶ瀬小学校	避難場所兼避難所
15	東桜公園	避難場所	42	金ヶ瀬中学校	避難場所兼避難所
16	南桜公園	避難場所	43	広表 1 号公園	避難場所
17	大河原町総合体育館	避難場所兼避難所	44	金ヶ瀬東集会所	避難場所
18	西桜 1 号公園	避難場所	45	広表 2 号公園	避難場所
19	西桜 2 号公園	避難場所	46	金ヶ瀬公民館	避難場所兼避難所
20	日本基督教団大河原教会	避難場所兼避難所	47	堤生活センター	避難場所
21	甲子公園	避難場所	48	新開集会所	避難場所
22	オーガ	避難場所兼避難所	49	新寺生活センター	避難場所
23	駅前広場	避難場所	50	大河原公園 ※広域避難場所	避難場所
24	世代交流いきいきプラザ	避難場所兼避難所	51	特別養護老人ホーム「桜寿苑」	福祉避難所
25	保料公園	避難場所	52	介護老人保健施設 「さくらの杜」	福祉避難所
26	大河原商業高等学校	避難場所兼避難所	53	生活介護「さくらの風」	福祉避難所
27	旭町公園	避難場所	-	-	-

出典：「大河原町防災マップ-災害に強いまちづくり-」（平成27年 大河原町）

(4) 木造家屋数

本町では、14,000件以上の家屋のうち80%以上が木造であり、特に土地区画整理事業が実施されていない白石川左岸の「町」地区などの古い住宅地などでは、木造家屋が密集しています。

表 3-24 家屋状況

字	木造		その他		総計	字	木造		その他		総計
	家屋数 (棟)	割合 (%)	家屋数 (棟)	割合 (%)			家屋数 (棟)	割合 (%)	家屋数 (棟)	割合 (%)	
小山田	242	82.6	51	17.4	293	南原町	174	84.5	32	15.5	206
福田	475	85	84	15	559	緑町	245	81.7	55	18.3	300
千塚前	50	89.3	6	10.7	56	東新町	132	71.7	52	28.3	184
嶋脇	1	25	3	75	4	新青川	104	83.2	21	16.8	125
北嶋脇	0	0	1	100	1	新南	420	68.3	195	31.7	615
中ノ水門	3	100	0	0	3	新東	324	68.8	147	31.2	471
南	127	81.9	28	18.1	155	大巻	21	87.5	3	12.5	24
西	2	50	2	50	4	新古川	109	78.4	30	21.6	139
東	32	69.6	14	30.4	46	南平	81	79.4	21	20.6	102
町	599	79.2	157	20.8	756	小島	61	58.1	44	41.9	105
西浦	101	86.3	16	13.7	117	広表	189	50	189	50	378
南海道下	13	68.4	6	31.6	19	大谷	2,871	82.9	592	17.1	3,463
中川原	47	82.5	10	17.5	57	金ヶ瀬	1,390	83.1	282	16.9	1,672
上川原	108	95.6	5	4.4	113	堤	353	84.2	66	15.8	419
荒町	35	92.1	3	7.9	38	新寺	143	85.6	24	14.4	167
西町	148	85.5	25	14.5	173	高砂町	190	72.8	71	27.2	261
町西	1	100	0	0	1	旭町	78	90.7	8	9.3	86
海道東	16	59.3	11	40.7	27	幸町	241	79.8	61	20.2	302
土手崎	1	100	0	0	1	錦町	258	87.2	38	12.8	296
八乙女	24	85.7	4	14.3	28	広瀬町	143	85.6	24	14.4	167
沼	29	100	0	0	29	住吉町	226	82.2	49	17.8	275
袖谷地	65	85.5	11	14.5	76	中島町	232	86.6	36	13.4	268
橋本	10	71.4	4	28.6	14	甲子町	52	81.3	12	18.8	64
南桜町	242	86.4	38	13.6	280	中の倉	7	24.1	22	75.9	29
東桜町	343	83.7	67	16.3	410	大竜	31	77.5	9	22.5	40
西桜町	306	75	102	25	408	川瀬町	31	93.9	2	6.1	33
新桜町	179	81.4	41	18.6	220	山崎町	123	85.4	21	14.6	144
東原町	241	85.8	40	14.2	281	大芝	1	100	0	0	1
						総計	11,317	80.3	2,769	19.7	14,086

資料：大河原町調べ（平成29年7月3日現在）

8. 道路交通・都市施設

(1) 国道・県道整備状況

宮城県全体での道路改良率、舗装率及び歩道等設置率は、それぞれ92.3%（改良①）、83.9%（改良②）、98.9%（舗装）、54.1%（歩道等設置率）となっており、これと比較すると、町内における国道・県道の道路改良率が県平均に比べ低いことがわかります。

表 3-25 国道・県道の整備状況

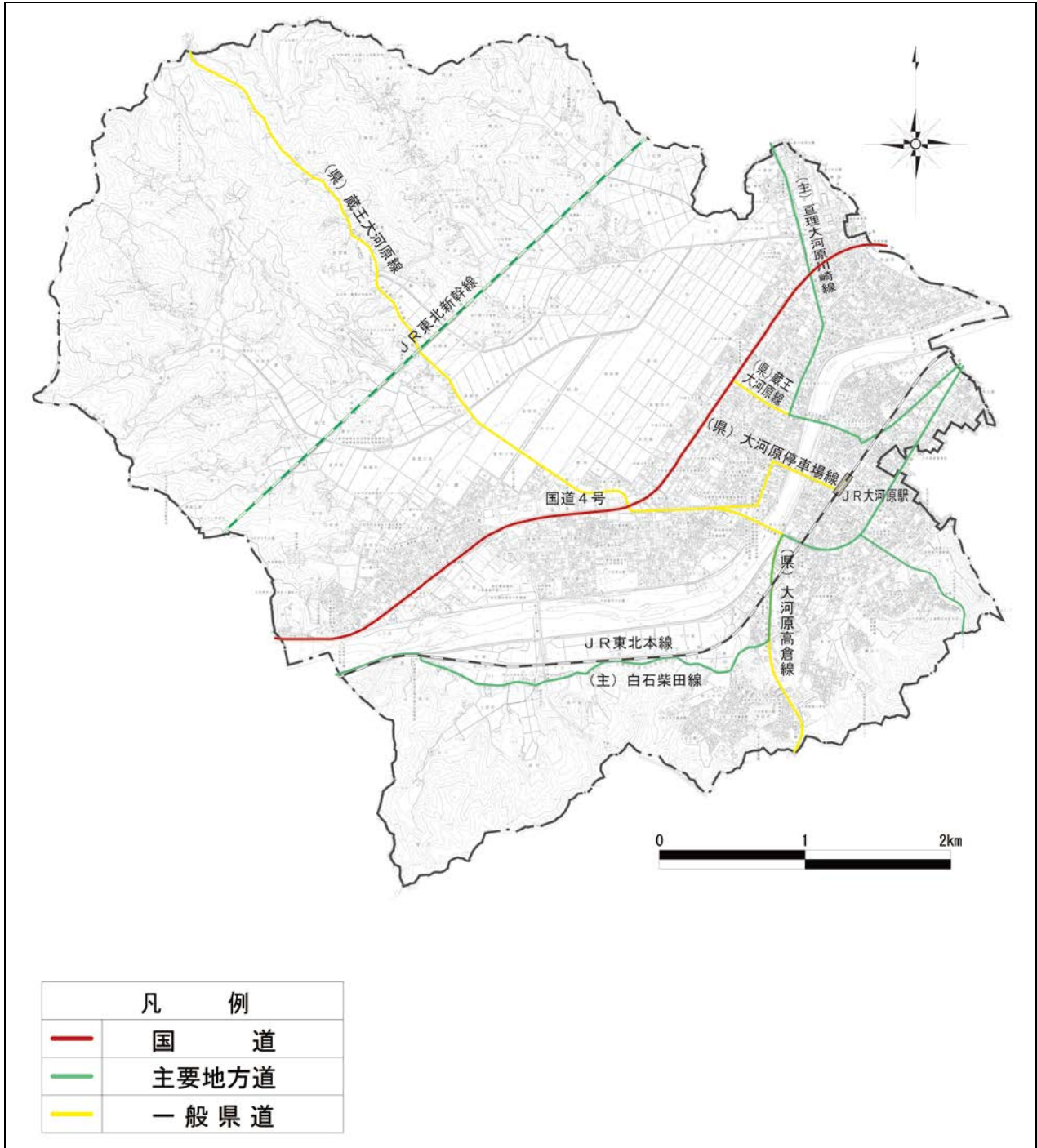
(単位：延長m、率%)

区 分	国 道					
	指定区間①		指定区間外（県管理）②		計（①+②）	
実延長	5,207		0		5,207	
改 良①	5,207	100.0%	0	0	5,207	100%
改 良②	5,207	100.0%	0	0	5,207	100%
舗 装	5,207	100.0%	0	0	5,207	100%
歩道等設置道路延長	4,703	90.3%	0	0	4,703	90.3%
歩道等のべ延長	9,014		0		9,014	
区 分	県 道					
	主要地方道③		一般県道④		計（③+④）	
実延長	10,438.8		8,052.4		18,491.2	
改 良①	8,081.4	77.4%	5,211.1	64.7%	13,292.5	71.9%
改 良②	6,911.0	66.2%	5,067.1	62.9%	11,978.1	64.8%
舗 装	10,438.8	100.0%	8,052.4	100.0%	18,491.2	100.0%
歩道等設置道路延長	5,283.6	50.6%	4,177.1	51.9%	9,460.7	51.2%
歩道等のべ延長	8,780.0		5,853.4		14,633.4	
区 分	県管理道計		合 計		橋 梁	
	②+③+④		①+②+③+④		数	延長
実延長	18,491.2		23,698.2		10 (1)	537.4 (55.0)
改 良①	13,292.5	71.9%	18,499.5	78.1%		
改 良②	11,978.1	64.8%	17,185.1	72.5%		
舗 装	18,491.2	100.0%	23,698.2	100.0%		
歩道等設置道路延長	9,460.7	51.2%	14,163.7	59.8%		
歩道等のべ延長	14,633.4		23,647.4			

出典：「平成28年度 みやぎの道路」（平成28年 宮城県）

※改良①は車道幅員5.5m未満の改良済延長を含み、改良②は5.5m以上の改良済延長のみ

図 3-24 交通網（国道・県道）図



出典：「宮城県管内図（路線図）」（平成28年 株式会社マップテクノ仙台）

(2) 現況交通量

平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査 によると、町内の主要幹線道路となる国道4号では 30,119台/日と最も多く、主要地方道・大河原高倉線が 14,968台/日とそれに続いています。

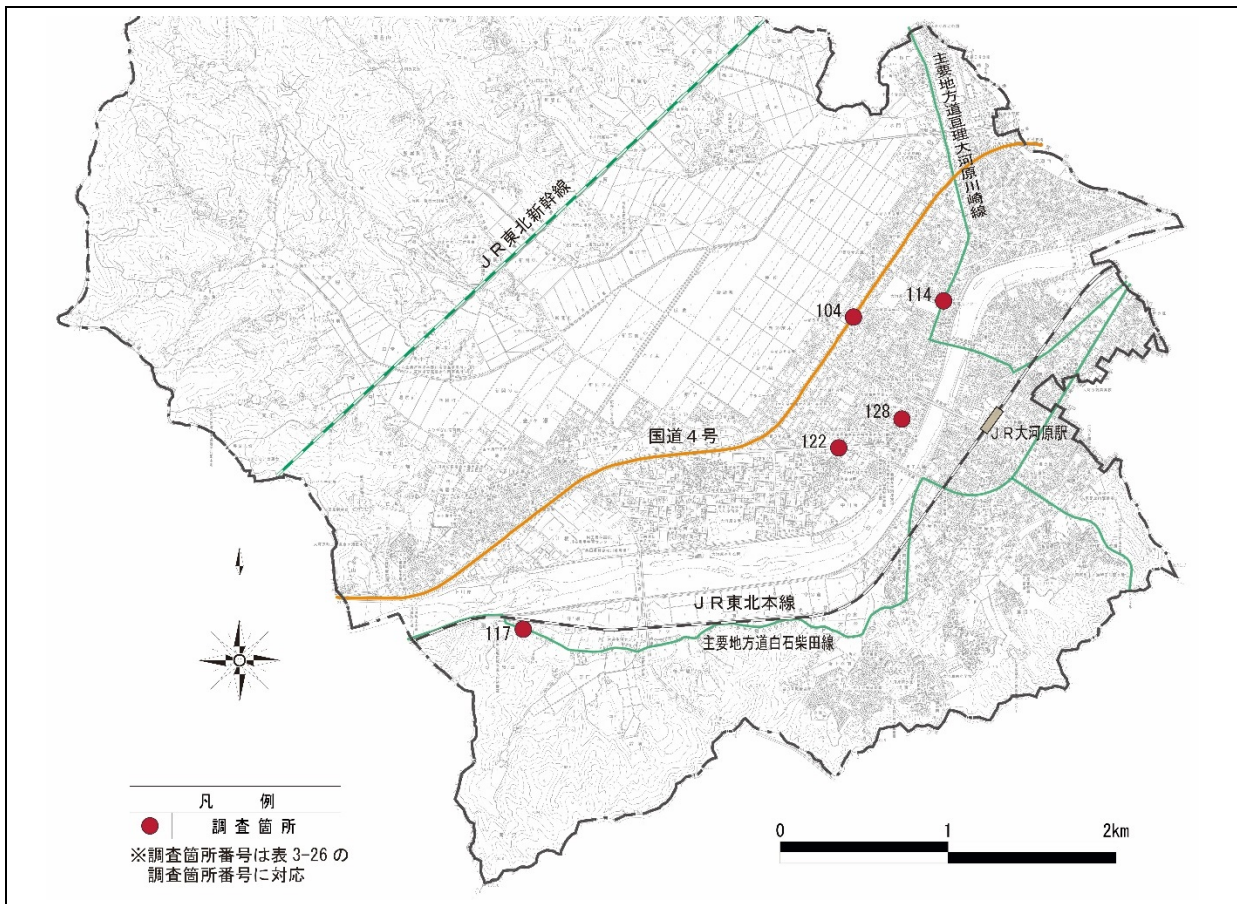
また、混雑度（混雑度＝交通量/交通容量）においては、1.00を超える箇所が1日に数時間程度混雑する可能性の高い場所とされますが、町内においては No.114 主要地方道・亘理大河原川崎線における末広橋周辺において若干の渋滞がみられるものの、町内における国道4号は、近年の4車線への道路改修により混雑の解消が進んでいます。

表 3-26 交通量と混雑度の状況

調査箇所番号	平成22年交通量調査単位区間番号	平成17年交通量調査単位区間番号	路線名	平成22年センサス		平成27年センサス		混雑度
				交通量(台)		交通量(台)		
				12時間	24時間	12時間	24時間	
104	10060	1007	一般国道4号	21,417	29,431	21,985	30,119	0.85
114	40630	74044	亘理大河原川崎線	7,361	9,496	5,943	7,429	0.93
117	41880	4145	白石柴田線	1,851	2,351	1,982	2,418	0.99
122	60140	46009	大河原高倉線	1,217	1,570	12,473	14,968	1.37
128	61610	46043	大河原停車場線	3,257	4,202	3,480	4,280	0.54

出典：「平成27年度 道路交通センサス」（平成29年 国土交通省）

図 3-25 道路交通センサス調査位置図



出典：「大河原町都市計画基礎調査 報告書」（平成28年 大河原町）

(3) 将来交通量推計

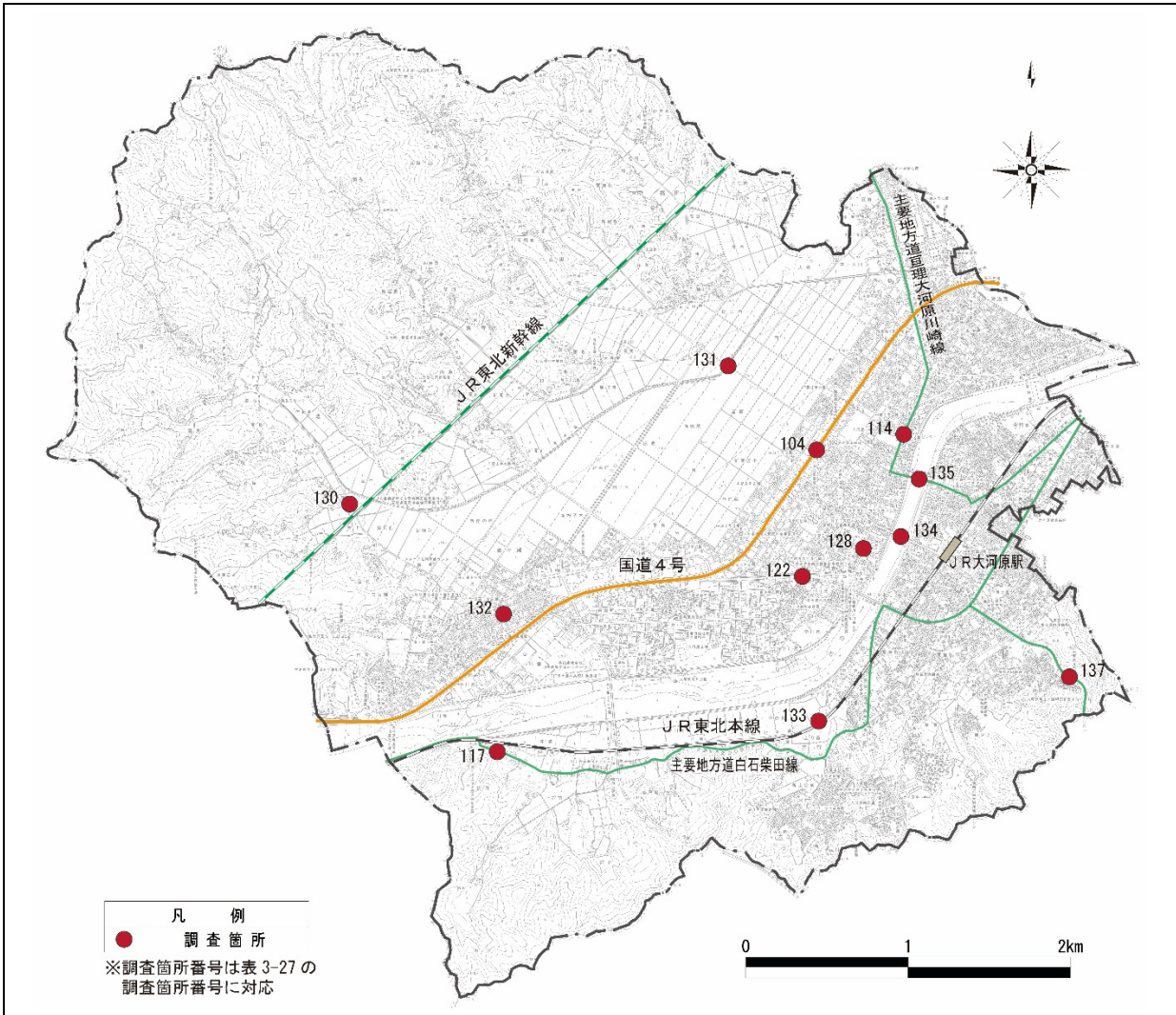
本町における平成37年の第4回仙台都市圏パーソントリップ調査将来交通量配分結果を下表に示します。

表 3-27 将来交通量一覧(24時間交通量)

比較箇所	路線名	平成37年 PT 配分結果
		A
104	一般国道4号	30,654
114	亘理大河原川崎線	13,966
135	亘理大河原川崎線	10,082
137	亘理大河原川崎線	5,715
117	白石柴田線	770
122	大河原高倉線	6,159
128	大河原停車場線	3,089
130	町道	710
131	町道	9,559
132	町道	3,942
133	町道	3,840

出典：「大河原町都市計画基礎調査 報告書」
(平成28年 大河原町)

図 3-26 将来交通量比較箇所位置図



出典：「大河原町都市計画基礎調査 報告書」(平成28年 大河原町)

(4) 都市計画道路

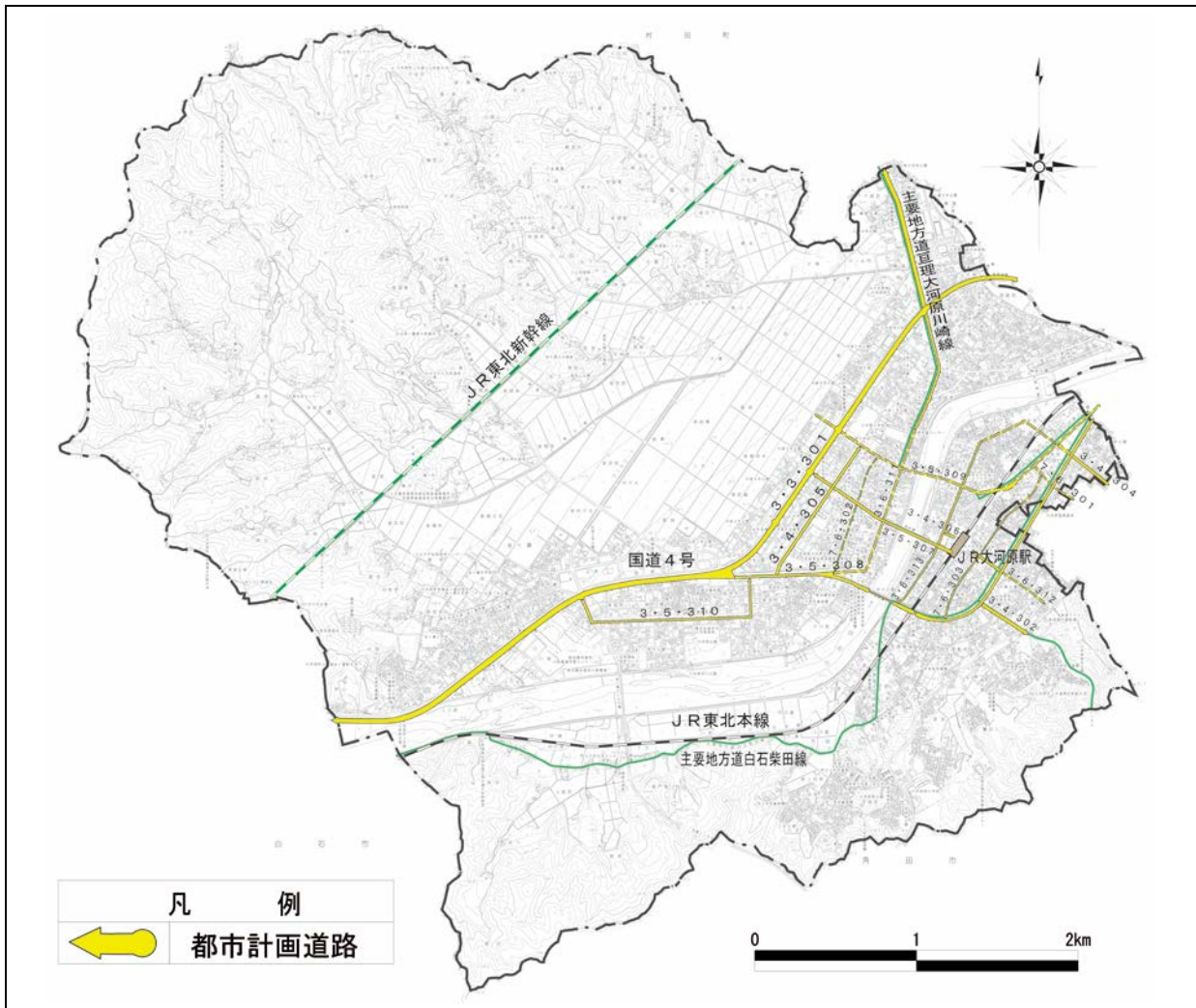
本町における都市計画道路は、国・県道や用途地域内の根幹的な道路として16路線が都市計画決定されており、このうち約12km（約56%）が完成しています。未整備路線の状況は以下のとおりです。

表 3-28 都市計画道路未整備路線の状況

都計道 No.	都市計画 当初決定時期	延長 (m)	整備状況	仙台都市圏 PT配分
3・4・304(16) 東部線	昭和25年8月26日	380	現道はあるが拡幅未整備、支障物件多数。	有
3・5・309(12) 末広線	昭和25年8月26日	2,000	左岸側においては道路の拡幅、未広橋の拡幅、右岸側ではJRの高架による交差が未整備。	有
3・6・311(11) 本町大通り線	昭和25年8月26日	2,770	現道あり、道路の拡幅未整備ですが3・5・309(12)末広線以南については支障物件多数。	有
3・6・312(11) 大河原駅東線	昭和25年8月26日	540	現道あり、3・5・308(15)大河原中央線より以東については拡幅未整備。	有
3・6・313(11) 尾形丁中央線	昭和25年8月26日	1,670	現道一部あるが、途中より住宅地内では拡幅未整備、さらに行き止まりとなり現道無。	有（一部）
7・6・301(9) 西原中央線	昭和25年8月26日	340	現道あり、3・5・308(15)大河原中央線より以西においては拡幅未整備、支障物件あり。	無
7・6・302(8) 西浦通線	昭和25年8月26日	760	現道あり、拡幅等実施する場合支障物件多数。	無
7・6・303(8) 中西線	昭和25年8月26日	1,080	現道です都市計画道路7・6・303(8)中西線と未整備です7・6・301(9)西原中央線の接続路ですが、現道一部無。	有（一部）

※表の都計道Noの後の（ ）内は代表幅員
 出典：「大河原町都市計画基礎調査 報告書」
 （平成28年 大河原町）

図 3-27 都市計画道路位置図



出典：「大河原町都市計画図」（平成26年 大河原町）

(5) 駅前広場

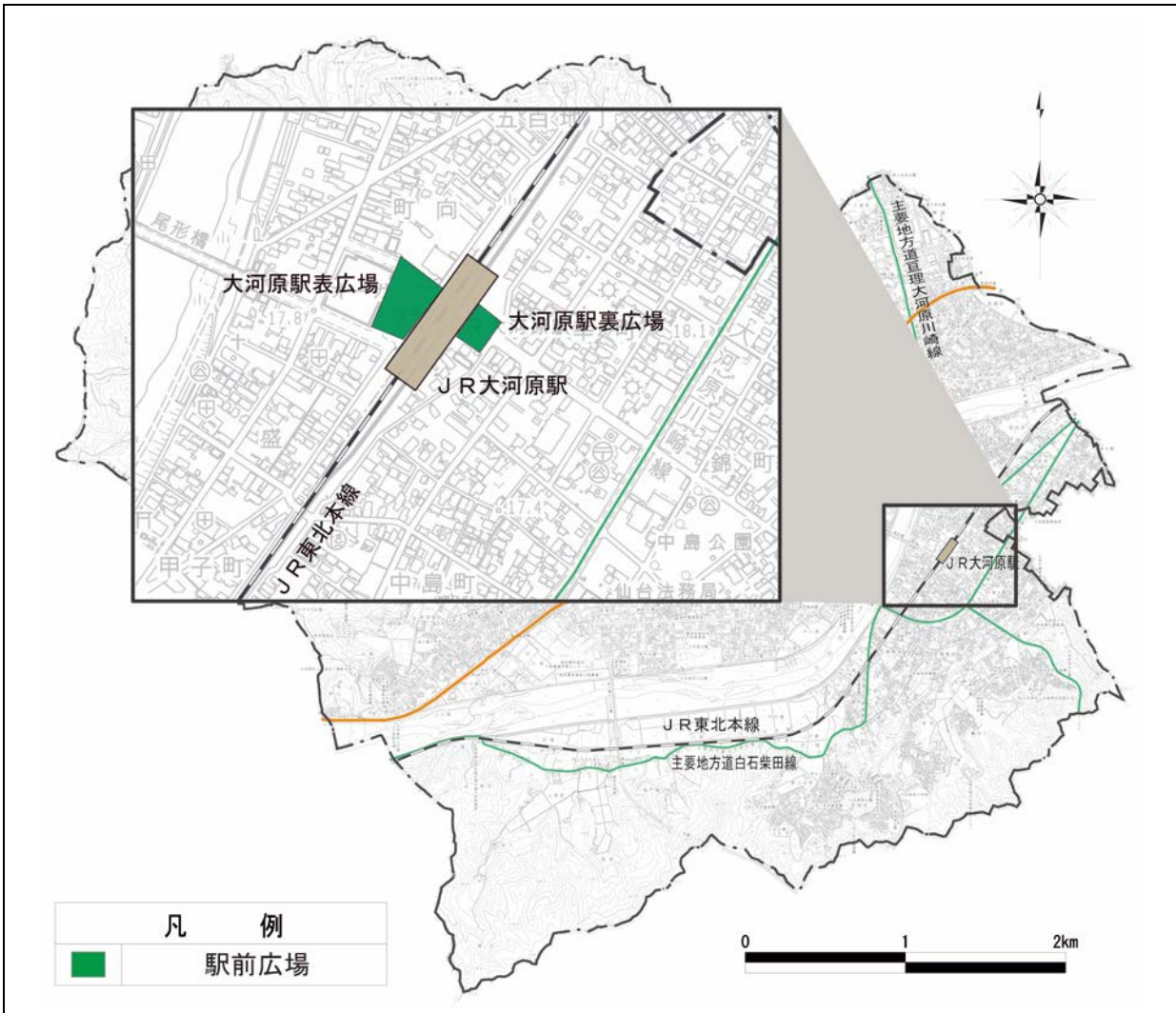
大河原駅では、JR東北本線大河原駅前広場として、東側（裏）、西側（表）の2箇所を都市計画決定しています。このうち西側（表）は供用開始済みですが、東側（裏）は未整備となっています。以下に都市計画決定状況及び位置図を示します。

表 3-29 駅前広場の状況

駅名	鉄道の運営主体	鉄道名	駅前広場面積 (㎡)		決定年月日
			計画	供用	
大河原駅 (表)	J R	東北本線	4,200	4,200	昭和63年8月12日
大河原駅 (裏)	J R	東北本線	1,400	—	昭和42年10月5日

出典：「都市計画現況調査」（平成27年 国土交通省）

図 3-28 駅前広場位置



出典：「都市計画現況調査」（平成27年 国土交通省）

(6) 都市公園

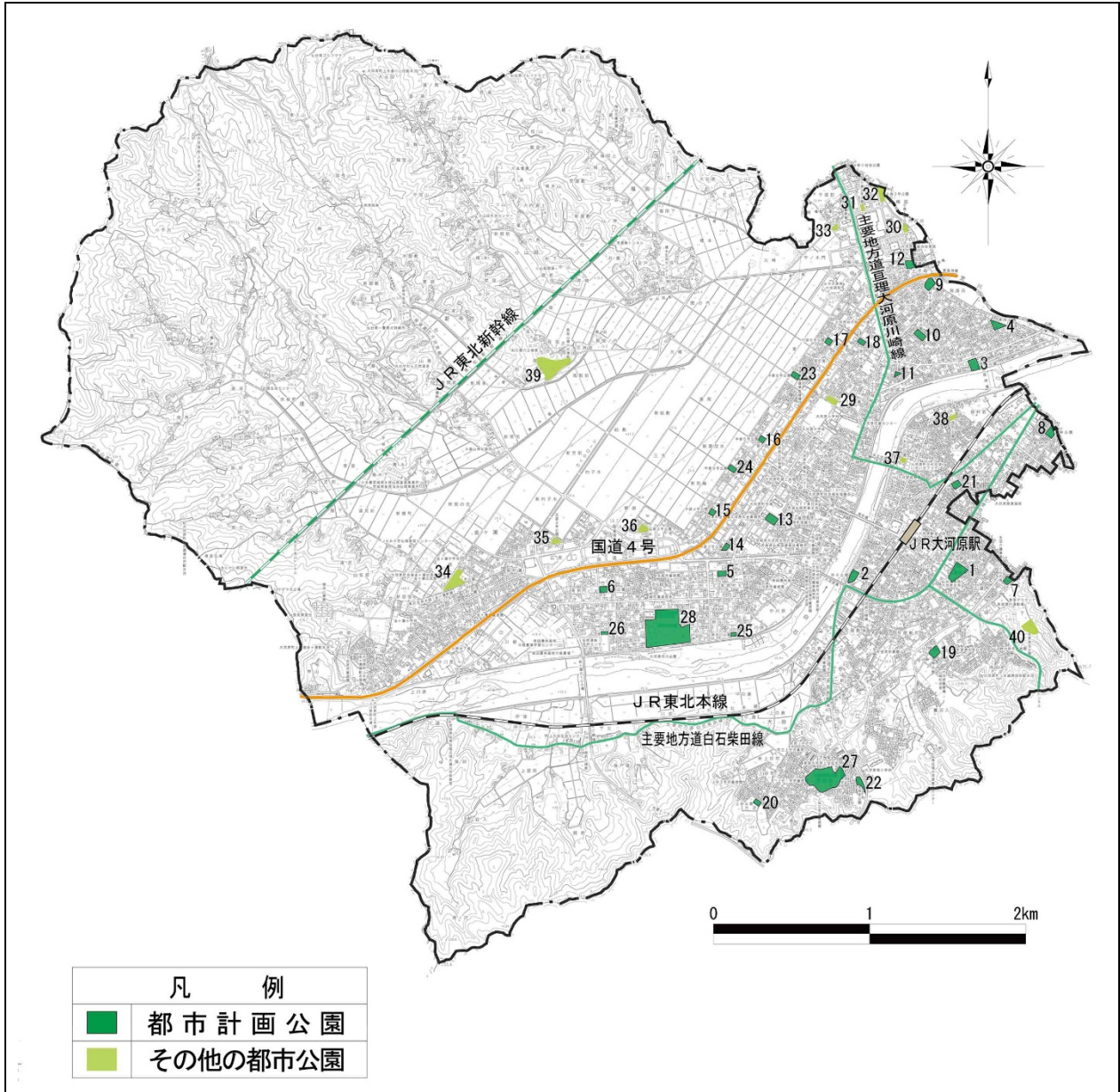
本町における都市公園は、その他都市公園を含め40箇所整備されています。都市公園の総面積を人口で除した住民一人当たりの都市公園面積は約7.7㎡となり、都市公園法施行令の参酌基準となる10㎡を下回っています。各公園の名称と面積、位置について以下の表及び位置図に示します。

表 3-30 都市公園一覧

No.	種類	名称	区分	公園番号	面積(㎡)
1	街区公園	中島公園	都市計画公園	2・2・301	8,226
2	街区公園	甲子公園	都市計画公園	2・2・302	3,092
3	街区公園	南桜公園	都市計画公園	2・2・303	3,585
4	街区公園	東桜公園	都市計画公園	2・2・304	2,960
5	街区公園	東原町公園	都市計画公園	2・2・305	1,967
6	街区公園	緑町公園	都市計画公園	2・2・306	1,987
7	街区公園	不動公園	都市計画公園	2・2・307	1,847
8	街区公園	高砂公園	都市計画公園	2・2・308	2,842
9	街区公園	西桜1号公園	都市計画公園	2・2・309	3,706
10	街区公園	西桜2号公園	都市計画公園	2・2・310	3,016
11	街区公園	西桜3号公園	都市計画公園	2・2・311	957
12	街区公園	東青川公園	都市計画公園	2・2・312	2,763
13	街区公園	中部2号公園	都市計画公園	2・2・313	3,500
14	街区公園	中部3号公園	都市計画公園	2・2・314	1,399
15	街区公園	中部4号公園	都市計画公園	2・2・315	1,500
16	街区公園	中部5号公園	都市計画公園	2・2・316	1,500
17	街区公園	中部6号公園	都市計画公園	2・2・317	1,500
18	街区公園	中部7号公園	都市計画公園	2・2・318	1,500
19	街区公園	山崎公園	都市計画公園	2・2・319	3,140
20	街区公園	上谷公園	都市計画公園	2・2・320	1,334
21	街区公園	旭町公園	都市計画公園	2・2・321	2,279
22	街区公園	見城前公園	都市計画公園	2・2・322	2,960
23	街区公園	中部8号公園	都市計画公園	2・2・323	1,790
24	街区公園	中部9号公園	都市計画公園	2・2・324	1,780
25	街区公園	新古川公園	都市計画公園	2・2・325	1,000
26	街区公園	南平公園	都市計画公園	2・2・326	1,000
27	近隣公園	大河原南公園	都市計画公園	3・3・301	27,253
28	地区公園	大河原公園	都市計画公園	4・4・301	54,043
29	街区公園	中部1号公園	その他の都市公園	-	2,242
30	街区公園	小島1号公園	その他の都市公園	-	1,055
31	街区公園	小島2号公園	その他の都市公園	-	1,000
32	街区公園	小島3号公園	その他の都市公園	-	2,600
33	街区公園	小島4号公園	その他の都市公園	-	1,204
34	街区公園	広表1号公園	その他の都市公園	-	6,121
35	街区公園	広表2号公園	その他の都市公園	-	1,920
36	街区公園	広表3号公園	その他の都市公園	-	2,513
37	街区公園	末広公園	その他の都市公園	-	1,017
38	街区公園	保科公園	その他の都市公園	-	1,429
39	特殊公園	馬取山公園	その他の都市公園	-	10,930
40	都市林	昆虫公園	その他の都市公園	-	6,008
都市計画公園 小計					144,426
都市計画公園 住民一人当たりの面積					6.1
都市公園 合計					182,465
都市公園 住民一人当たりの面積					7.7

出典：「大河原町都市計画図」(平成26年 大河原町)
「大河原町ホームページ(公園マップ)」(平成28年 大河原町)

図 3-29 都市公園位置図



出典：「大河原町都市計画図」（平成26年 大河原町）
 「大河原町ホームページ（公園マップ）」（平成28年 大河原町）

(7) 上水道

本町の上水道は、JR東北本線を境に東南側を仙南・仙塩広域水道の稗田前水系、北側を金ヶ瀬水系として配水し、西側は自己水（白石川伏流水）による大河原水系として配水しています。

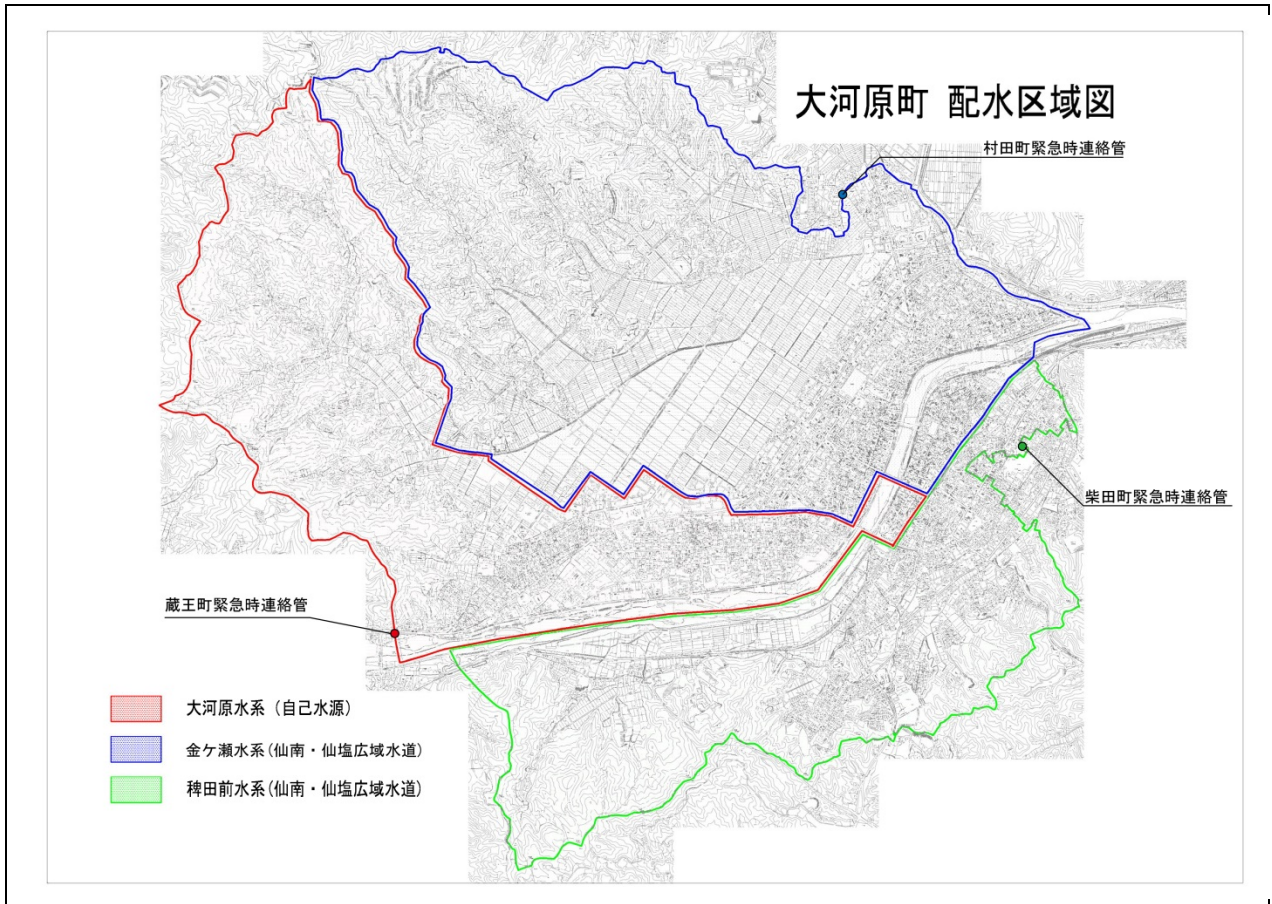
世帯数の増加に伴って給水戸数も増加していますが、平成12年以降は99.8%の普及率を保っています。以下に詳細及び位置図に示します。

表 3-31 上水道の給水状況

	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
給水戸数 (戸)	5,872	6,687	7,786	8,576	9,177	9,594	10,299
給水人口 (人)	19,240	20,323	21,983	22,892	23,454	23,413	23,727
普及率 (%)	94.2	96.5	99.5	99.8	99.8	99.8	99.9

資料：大河原町上下水道課調べ

図 3-30 配水区域図



出典：「配水区域図」（大河原町）

(8) 下水道

1) 汚水

本町の下水道は、阿武隈川下流流域下水道の処理区域に含まれています。

世帯数の増加に伴って年間の排水量も増加していますが、平成22年以降は行政人口が下水道計画人口を超過する状態となっています。以下に詳細及び位置図に示します。

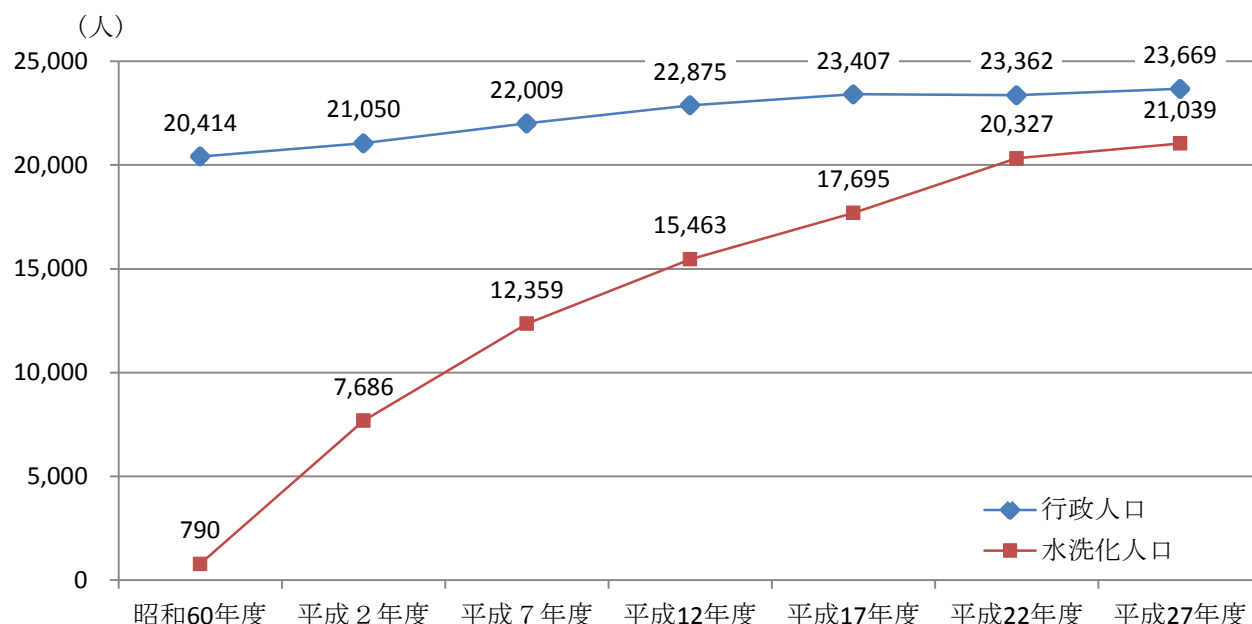
表 3-32 下水道の状況

(単位：ha・人・戸・t・%)

年 度	下水道 計画面積	処理区 域面積	行政 人口	下水道 計画人口	処理区域		水洗化数		水洗化率		年間 排出量
					戸数 (A)	人口 (B)	戸数 (C)	人口 (D)	戸数 C/A	人口 D/B	
昭和 60	631	110	20,414	18,634	1,400	3,313	193	790	13.8	23.8	32,000
平成2	616	281	21,050	22,600	3,402	11,381	2,208	7,686	64.9	67.5	830,906
平成7	824	348	22,009	24,100	4,692	14,957	3,817	12,359	81.4	82.6	1,351,043
平成12	827	432	22,875	24,100	6,080	17,990	5,065	15,463	83.3	86.0	1,698,006
平成17	827	539	23,407	24,500	7,551	20,591	6,656	17,695	88.1	85.9	2,000,764
平成22	742	558	23,362	22,100	8,337	21,771	7,737	20,327	92.8	93.4	2,086,590
平成27	742	570	23,669	22,100	8,897	22,155	8,424	21,039	94.7	95.0	2,119,944

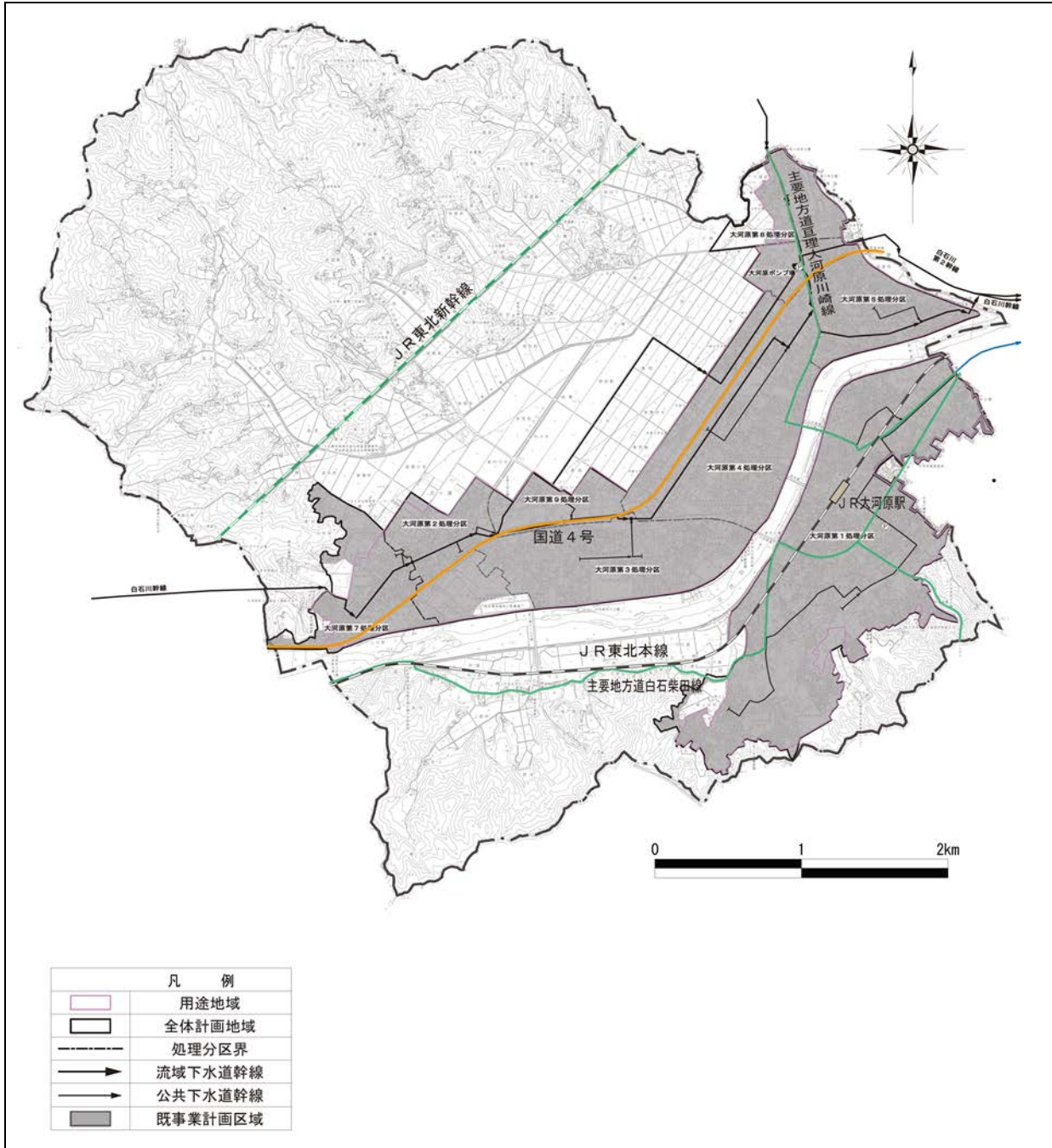
資料：県南浄化センター・大河原町上下水道課調べ

図 3-31 下水道水洗化人口の推移



資料：県南浄化センター・大河原町上下水道課調べ

図 3-22 下水道（污水）計画図



出典：「下水道計画一般図（污水）」（平成28年 大河原町）

2) 雨水

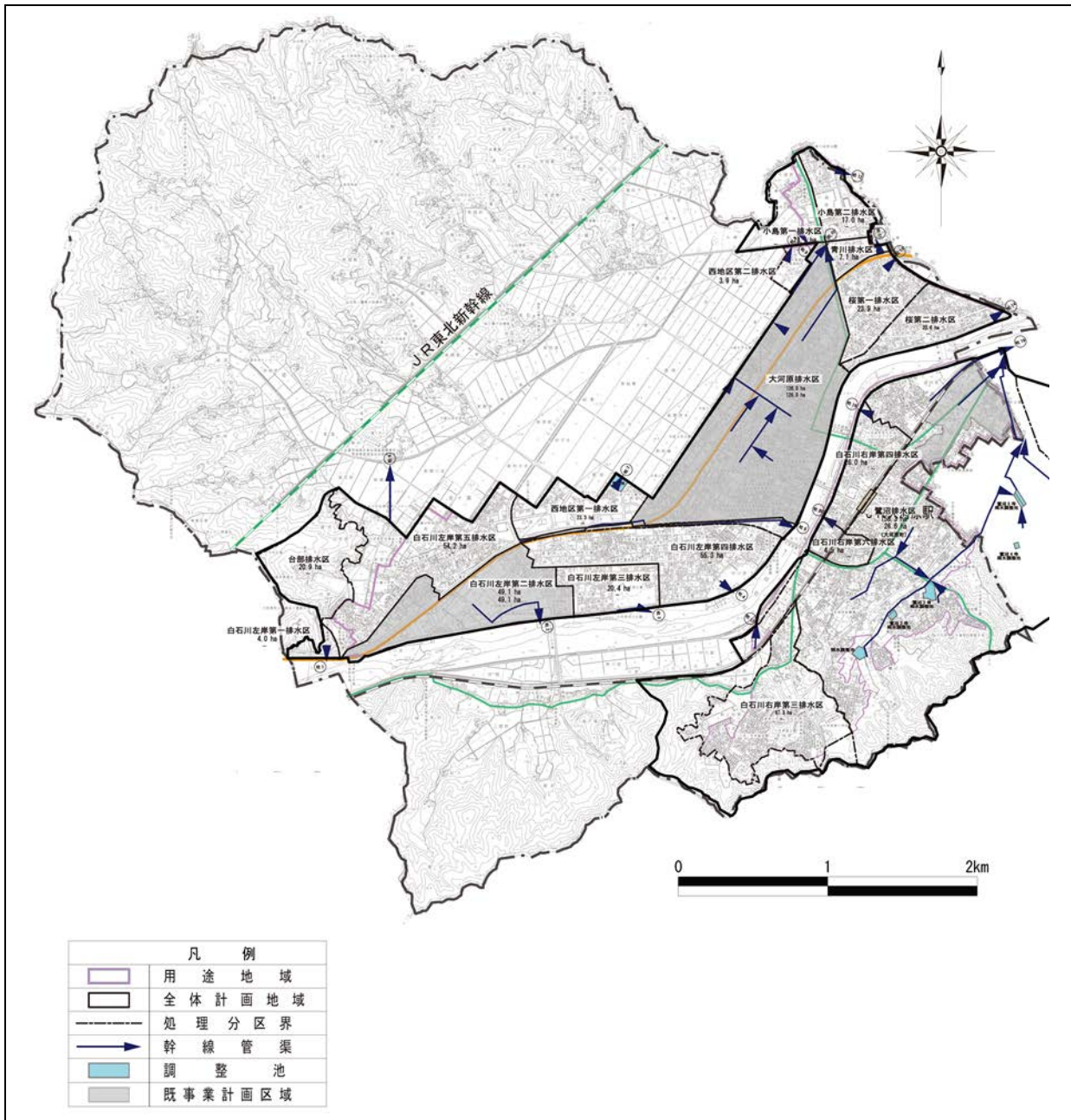
白石川両岸の平地に形成された本町の市街地及び耕地は、たびたび浸水や冠水の被害を受けてきたため、古くから浸水対策事業を進めてきました。近年では鷺沼排水区雨水整備事業として、柴田町と共同で下流域から排水路及び調整池の整備を実施し、白石川へのスムーズな放流及び調整池への貯水により、浸水被害の解消を図っています。

表 3-33 風水害の履歴（平成元年以降）

災害年月日	災害種類	被害状況
平成元年 8 月 6 日	大雨洪水	台風 13 号により次の被害を受けた。 床上浸水 4 戸、床下浸水 51 戸、水田等の冠水 56ha、町道被害 3 箇所、その他で被害額は、63,665 千円 総雨量は 112 mm 程度、白石川最高水位 17.24m（尾形橋下流）
平成元年 8 月 27 日	大雨洪水	台風 17 号により次の被害を受けた。 床下浸水 44 戸、町道被害 2 箇所、その他で被害額は、881 千円 総雨量は 125 mm 程度、白石川最高水位 15.05m（尾形橋下流）
平成 2 年 11 月 30 日	大雨洪水	台風 28 号により次の被害を受けた。 床上浸水 1 戸、床下浸水 7 戸、崖崩被害 3 箇所、その他で被害額は、4,700 千円 総雨量は 106 mm 程度、白石川最高水位 14.31m（尾形橋下流）
平成 3 年 6 月 13 日	大雨洪水	豪雨により次の被害を受けた。 床下浸水 30 戸、排水路堤防決壊 2 箇所 総雨量は 64.5 mm、3~4 時雨量 56.5 mm
平成 3 年 8 月 7 日	大雨洪水	豪雨により次の被害を受けた。 床下浸水 17 戸、がけ崩れ被害 3 箇所 白石川最高水位 14.20m（尾形橋下流）
平成 3 年 9 月 19 日	大雨洪水	台風 18 号により次の被害を受けた。 床下浸水 2 戸、水田等の冠水 25ha 総雨量は 116 mm 程度 白石川最高水位 14.47m（尾形橋下流）
平成 6 年 9 月 29 日	大雨洪水	台風 26 号により次の被害を受けた。 床下浸水 2 戸、水田等の冠水 35ha 総雨量は 85 mm 程度 白石川最高水位 14.12m（尾形橋下流）
平成 10 年 9 月 16 日	大雨洪水	台風 5 号により次の被害を受けた。 床下浸水 3 戸、水田の冠水 2ha 総雨量は 93 mm 程度 白石川最高水位 14.25m（尾形橋下流）
平成 11 年 4 月 25 日	豪雨	豪雨により次の被害を受けた。 床下浸水 2 戸（稗田） 土砂崩れ（堤）
平成 14 年 7 月 11 日	大雨洪水	台風 6 号により稗田地区、高砂地区に次の被害を受けた。 床上浸水 14 戸 床下浸水 20 戸
平成 17 年 8 月 25 日	大雨洪水	台風 11 号により次の被害を受けた。 水稻冠水 10.5ha 水稻倒伏 10.2 ha 土砂崩れ 1 ヶ所
平成 18 年 9 月 27 日	豪雨	豪雨により次の被害を受けた。 床下浸水（稗田） 4 戸 土砂崩れ 1 ヶ所
平成 19 年 7 月 18 日	大雨洪水	台風 4 号により稗田地区、堤地区に次の被害を受けた。 稗田地区：床上浸水 2 戸 床下浸水 3 戸 堤地区：家屋の一部破損（裏山土砂崩れ）
平成 23 年 9 月 20 日	大雨洪水	台風 15 号により次の被害を受けた。 床上浸水 13 戸 床下浸水 69 戸 店舗浸水 8 戸 （被害地区：稗田、見城前、高砂、戸ノ内前、西原前、末広、丑越、緑町、南原前、金ヶ瀬土手下、橋本（袖谷地）、東桜） 小山田・堤幹線通行止め（土砂崩れ）
平成 24 年 6 月 19 日	大雨洪水	台風 4 号により稗田地区、西原地区に次の被害を受けた。 床上浸水 4 戸（稗田） 床下浸水 13 戸（稗田、高砂、西原前） 農道・水路法面崩壊 10 ヶ所

出典：「大河原町地域防災計画」（平成27年 大河原町）

図 3-33 下水道（雨水）計画図



出典：「下水道計画一般図（雨水）」（平成28年 大河原町）

9. その他の公共施設

(1) 教育施設

本町の小学校の児童数は、平成12年度までに大きく減少しましたが、その後、横ばいで推移しています。中学校の生徒数はやや遅れて平成17年から横ばいで推移し、高校は平成22年から横ばいになっています。

一方、幼稚園は大きな変化はなく推移しています。

表 3-34 児童・生徒数の状況

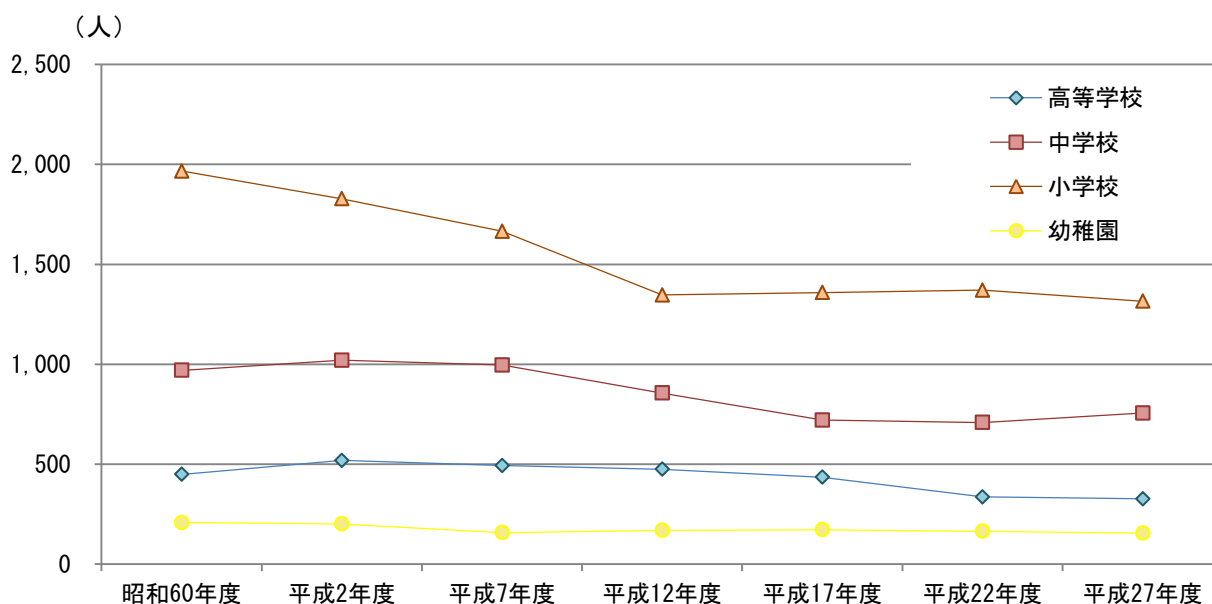
(単位：人)

	高等学校	中学校	小学校	幼稚園
昭和 60 年度	449	970	1,967	208
平成 2 年度	519	1,020	1,828	201
平成 7 年度	493	996	1,666	158
平成 12 年度	475	856	1,347	169
平成 17 年度	435	721	1,359	172
平成 22 年度	336	709	1,371	164
平成 27 年度	327	756	1,316	155

出典：「学校基本調査報告書」（平成28年 宮城県企画部）

資料：大河原カトリック幼稚園調べ

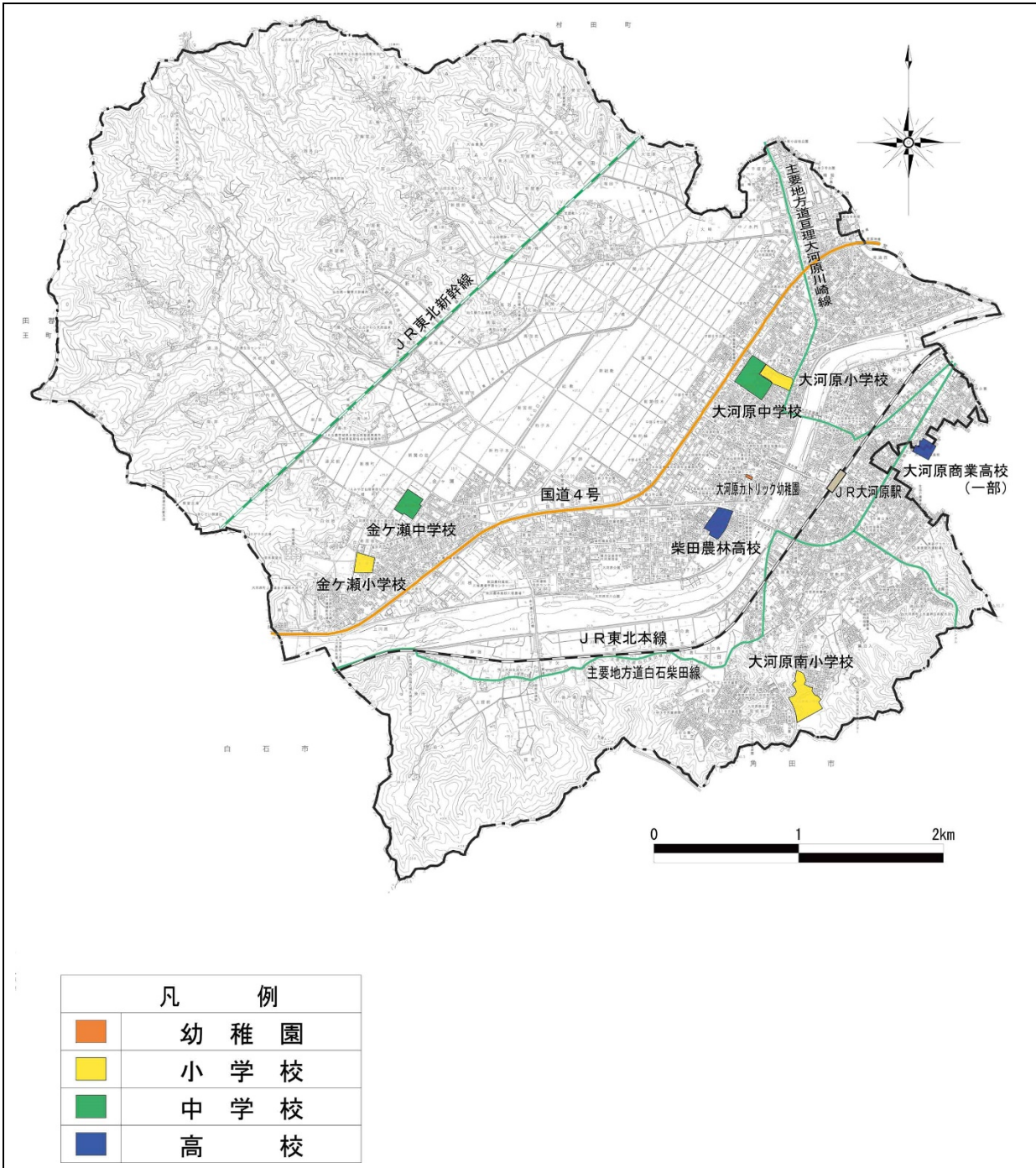
図 3-34 児童・生徒数の推移



出典：「学校基本調査報告書」（平成28年 宮城県企画部）

資料：大河原カトリック幼稚園調べ

図 3-35 教育施設位置図



(2) 福祉施設

1) 保健福祉施設

本町の保健福祉施設は下表のとおりとなっています。

保健センターや福祉センターは、町の保健・福祉サービスの拠点としてそれぞれアクセス性の高い町の中心部に位置しています。一方、高齢者福祉施設や障がい者福祉施設については、民間施設を補う形で福祉作業所が上谷地区に位置しています。

表 3-35 町の保健福祉施設の状況

種類	施設名称	定員 (人)	年間利用者数(人)	
			平成 24 年度	平成 25 年度
保健 福祉 施設	保健センター	-	11,591	11,143
	福祉センター	-	-	-
	福祉作業所さくら	15	-	-

資料：大河原町福祉課調べ

2) 子育て支援施設

本町の子育て支援施設は下表のとおりとなっています。

子育て支援については、世代交流いきいきプラザ内の子育て支援センターを中心に、桜保育所、上谷児童館、大河原児童センターなどの施設において、未就学児を含む子育て全般に関する相談窓口が設置されています。

一方、就学児に対する放課後児童クラブは各小学校周辺に整備されています。

表 3-35-1 子育て支援施設の状況

種類	施設名称	定員 (人)	年間利用者数(人)	
			平成 27 年度	平成 28 年度
児童 福祉 施設	桜保育所	120	1,243	1,284
	大河原児童センター	-	3,591	6,257
	上谷児童館	-	3,337	3,707
	世代交流いきいきプラザ・子育て支援センター	-	18,986	15,163
放課 後児 童ク ラブ	上谷児童クラブ	40	6,964	6,360
	児童センター児童クラブ	45	7,804	9,253
	金ヶ瀬児童クラブ	30	4,007	4,338
	金ヶ瀬カトリック児童クラブ	40	平成 29 年度より開所	
	世代交流いきいきプラザ・すまいる児童クラブ	45	13,168	13,168
	世代交流いきいきプラザ・わくわく児童クラブ	45		

資料：大河原町健康福祉課調べ

3) 保育所

本町には、平成29年4月現在で町立の保育所が1ヶ所、私立の保育所が3ヶ所、小規模保育事業所が2ヶ所あります。平成24年度に老朽化のため町立保育所を1ヶ所閉所しましたが、同年に私立保育所の建て替えを行ったことで全体の入所定員は30名増員しました。

また、平成27年度から新たに小規模保育事業所が開設され、さらに入所定員を増やすなど増加する保育ニーズに対応していますが、このような努力にも関わらず、平成20年以降、待機児童が毎年発生しています。

なお、町立の桜保育所は、建築から40年が経過しており、老朽化が著しいため施設近隣の町有地への移転・建替えが予定されています。

表 3-36 保育所の入所児童数の状況

	町立保育所			私立保育所			合計		
	施設数	定員(人)	児童数(人)	施設数	定員(人)	児童数(人)	施設数	定員(人)	児童数(人)
昭和60年度	2	200	193	2	210	210	4	410	403
平成2年度	2	200	193	2	210	188	4	410	381
平成7年度	2	200	192	2	180	188	4	380	380
平成12年度	2	200	212	2	180	197	4	380	409
平成17年度	2	200	181	3	270	263	5	470	444
平成22年度	2	200	184	3	270	305	5	470	489
平成27年度	1	120	113	3	380	397	4	500	510
平成28年度	1	120	106	3	380	377	4	500	483
平成29年度	1	120	110	3	380	385	4	500	495

資料：大河原町子ども家庭課調べ（各年4月現在）

表3-36-1 小規模保育事業施設の入所児童数の状況

	施設数	定員(人)	児童数(人)
平成27年度	1	15	3
平成28年度	2	27	21
平成29年度	2	27	17

資料：大河原町子ども家庭課調べ（各年4月現在）

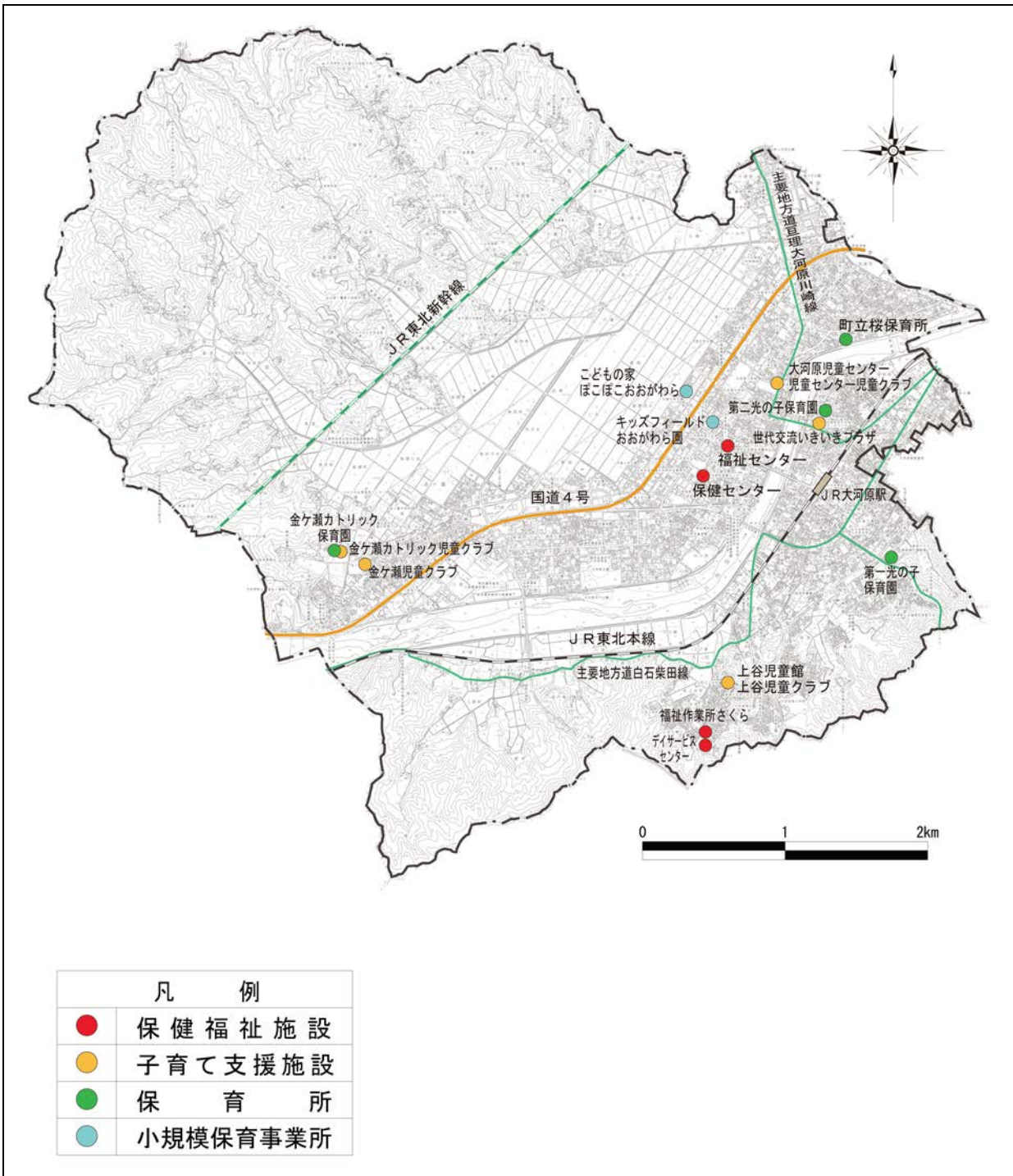
表 3-37 待機児童の状況

(単位：人)

	待機児童数		待機児童数
平成17年度	8	平成24年度	8
平成18年度	5	平成25年度	12
平成19年度	0	平成26年度	12
平成20年度	9	平成27年度	17
平成21年度	8	平成28年度	15
平成22年度	9	平成29年度	22
平成23年度	26	-	-

資料：大河原町子ども家庭課調べ（各年4月現在）

図 3-36 福祉施設位置図



(3) 公営住宅

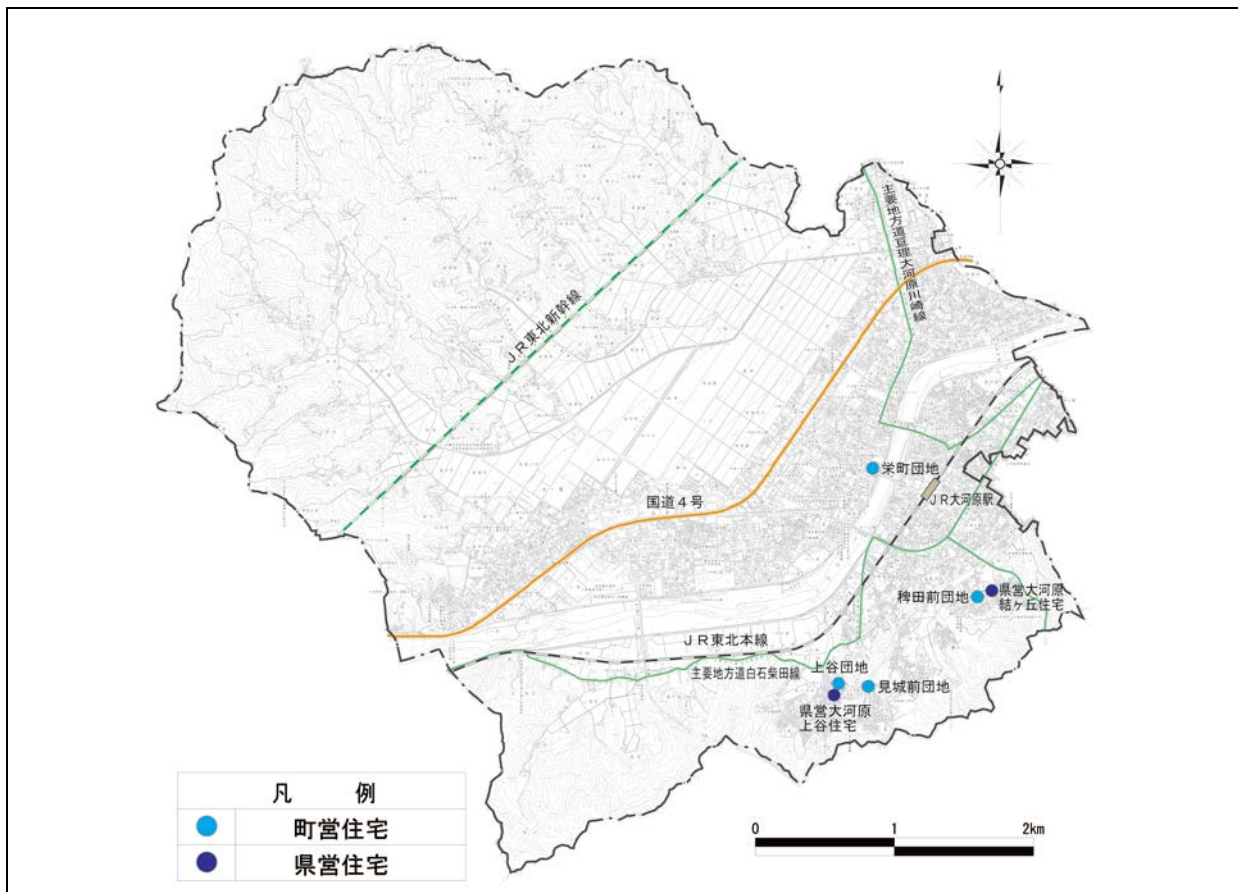
本町の公営住宅は平成29年3月末日現在267戸あり、このうち8割近い212世帯が入居しています。入居者数は526人となり、世帯当たりの人員は2.48人/世帯と町平均の2.62人/世帯よりやや少ない状況となっています。

表 3-38 公営住宅の入居状況

	整備戸数 (管理戸数)	入居世帯数	入居者数	基準日
平成19年度	267 戸	213 世帯	491 人	平成20年3月31日
平成20年度	267 戸	212 世帯	493 人	平成21年3月31日
平成21年度	267 戸	213 世帯	498 人	平成22年3月31日
平成22年度	267 戸	218 世帯	534 人	平成23年3月31日
平成23年度	267 戸	216 世帯	532 人	平成24年3月31日
平成24年度	267 戸	214 世帯	535 人	平成25年3月31日
平成25年度	267 戸	212 世帯	528 人	平成26年3月31日
平成26年度	267 戸	211 世帯	519 人	平成27年3月31日
平成27年度	267 戸	212 世帯	525 人	平成28年3月31日
平成28年度	267 戸	212 世帯	526 人	平成29年3月31日

資料：大河原町地域整備課調べ

図 3-37 公営住宅位置図



(4) 社会施設

本町の社会施設として、コミュニティ・文化施設が5施設、スポーツ施設が5施設、集会所が28施設、生活センターが6施設あります。集会所や生活センターは、町内各地に広く分布しています。なお、現在の中央公民館とにぎわいプラザを統合し、平成30年度内に活用可能となる大河原町にぎわい交流施設内に観光物産協会が併設され、町民間の交流に加え来訪者との交流の場となることが期待されます。

図 3-38 社会施設位置図

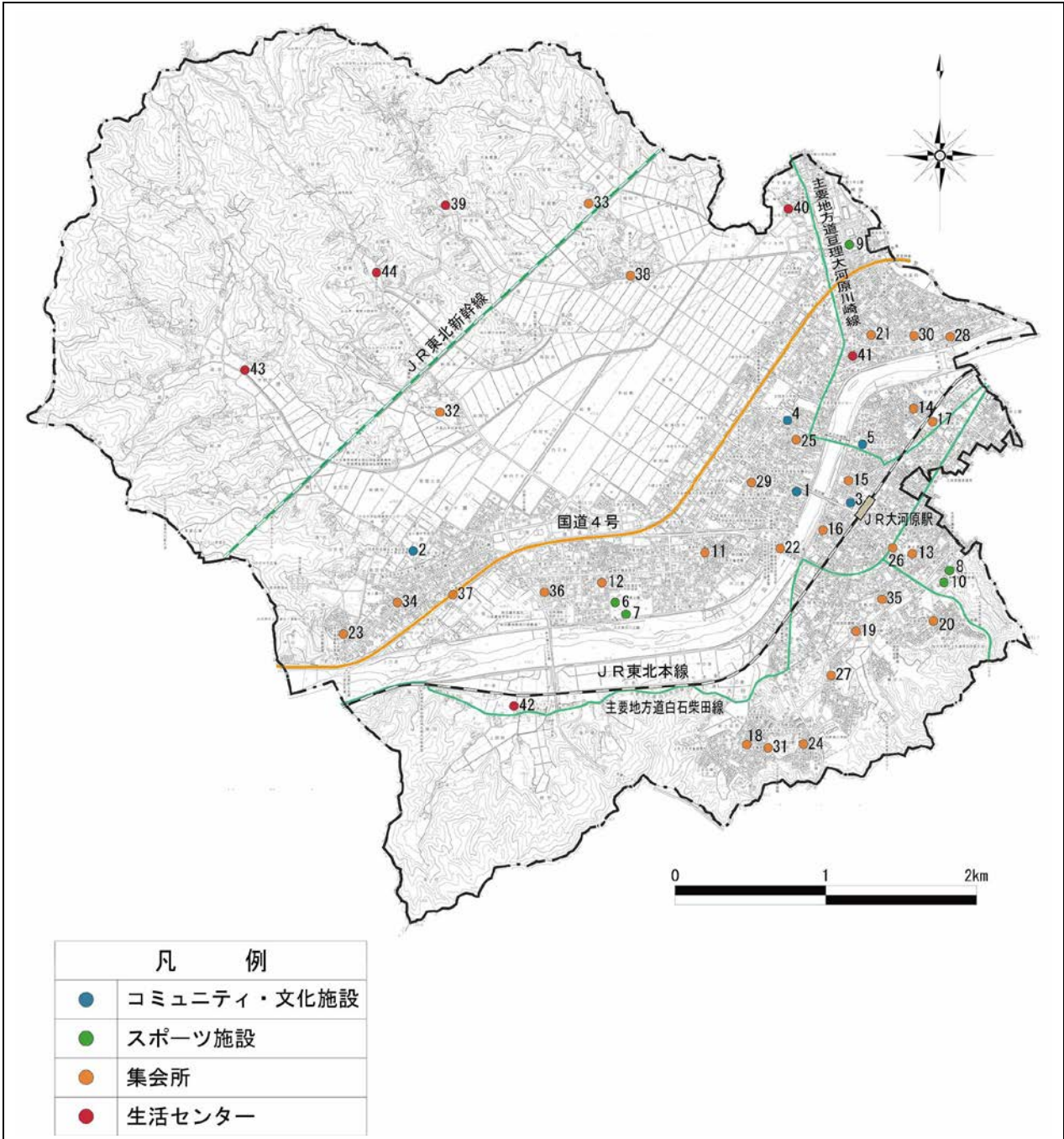


表 3-39 社会施設の利用状況

位置図番号	類 型	施設名称	年間利用者数(人) 平成27年
1	コミュニティ・文化施設	中央公民館	31,202
2	コミュニティ・文化施設	金ヶ瀬公民館	11,412
3	コミュニティ・文化施設	大河原町駅前図書館	25,812
4	コミュニティ・文化施設	民俗資料収蔵室	—
5	コミュニティ・文化施設	世代交流いきいきプラザ ・大河原町元気サロン	25,141
6	スポーツ施設	大河原公園テニスコート	7,692
7	スポーツ施設	大河原公園多目的広場	7,429
8	スポーツ施設	東部グラウンド	3,442
9	スポーツ施設	総合体育館	79,494
10	スポーツ施設	東部屋内運動場	9,916
11	集会所	上川原集会所	3296
12	集会所	丑越集会所	4,369
13	集会所	東部集会所	1,885
14	集会所	保料集会所	1,621
15	集会所	むつみ集会所	2,679
16	集会所	尾形丁集会所	1,123
17	集会所	西原集会所	2,100
18	集会所	上谷集会所	1,940
19	集会所	原前集会所	1,452
20	集会所	稗田前集会所	1,472
21	集会所	西桜集会所	1,367
22	集会所	上町集会所	1,083
23	集会所	台部集会所	454
24	集会所	見城前集会所	2,772
25	集会所	本町集会所	2,321
26	集会所	幸中島集会所	3,301
27	集会所	二本松集会所	1,768
28	集会所	東桜集会所	1,078
29	集会所	中町集会所	1,313
30	集会所	南桜集会所	1,247
31	集会所	上谷東集会所	408
32	集会所	新開集会所	267
33	集会所	福田集会所	279
34	集会所	金ヶ瀬中央集会所	1,034
35	集会所	住吉町研修交流センター	2,236
36	集会所	金ヶ瀬東集会所	2,563
37	集会所	金ヶ瀬新町集会所	1,014
38	集会所	橋本交流センター	—
39	生活センター	小山田生活センター	—
40	生活センター	小島生活センター	—
41	生活センター	新田町生活センター	—
42	生活センター	上大谷生活センター	—
43	生活センター	堤生活センター	—
44	生活センター	新寺生活センター	—

出典：「主要施策の成果説明書」（平成28年 大河原町）

「大河原町総合体育館利用状況調査」（平成28年 大河原町）

「大河原町駅前図書館」（平成28年 大河原町）、「社会施設等利用状況」（平成28年 大河原町）

「大河原町ホームページ（生活センター）」（平成29年 大河原町）

10. 観光・景観・イベント・レクリエーション

(1) 観光

本町の観光客入込数は年間40万人前後で推移していますが、春のイベント「おおがわら桜まつり」に大きく依存しており、平成27年では年間観光客入込数の8割以上が「おおがわら桜まつり」の入込数となっています。このため、開催期間中に天候不順が続いた平成27年のように天候の影響を受けやすい状況となっています。

表 3-40 観光客入込数の状況

(単位：人)

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年
観光客入込数	498,579	463,677	488,455	516,135	543,709

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
観光客入込数	317,048	465,837	456,143	402,138	289,411

出典：「観光統計概要」（平成27年 宮城県経済商工観光部観光課）

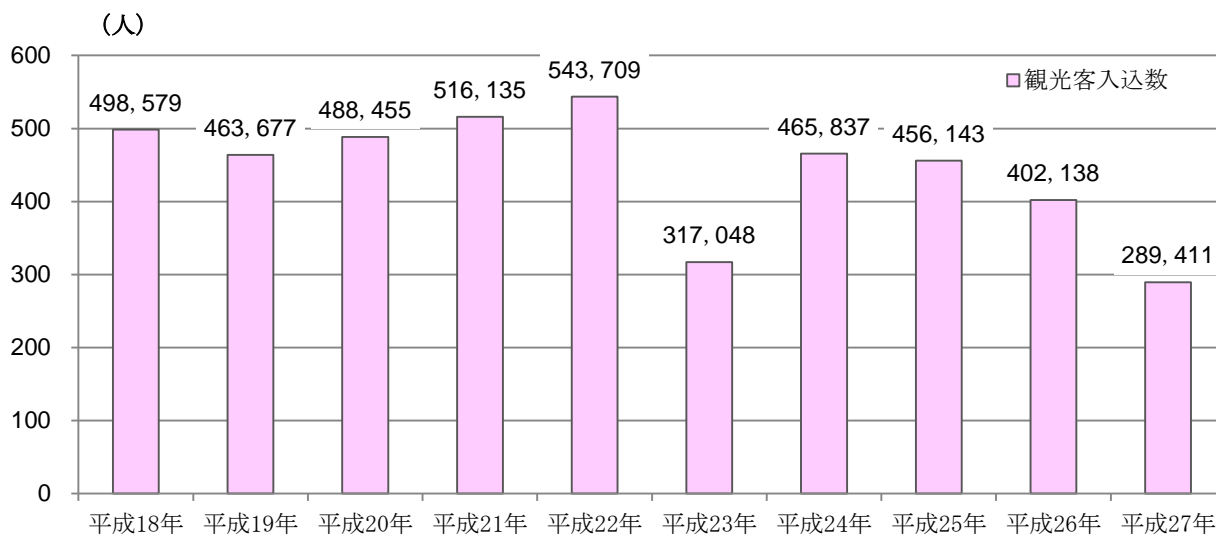


図 3-39 観光客入込数の推移

出典：「観光統計概要」（平成27年 宮城県経済商工観光部観光課）

表 3-41 イベント入込数の状況

(単位：人)

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	対前年増減数	前年比 (%)
おおがわら桜まつり	260,000	263,291	239,777	△ 23,514	91.1%

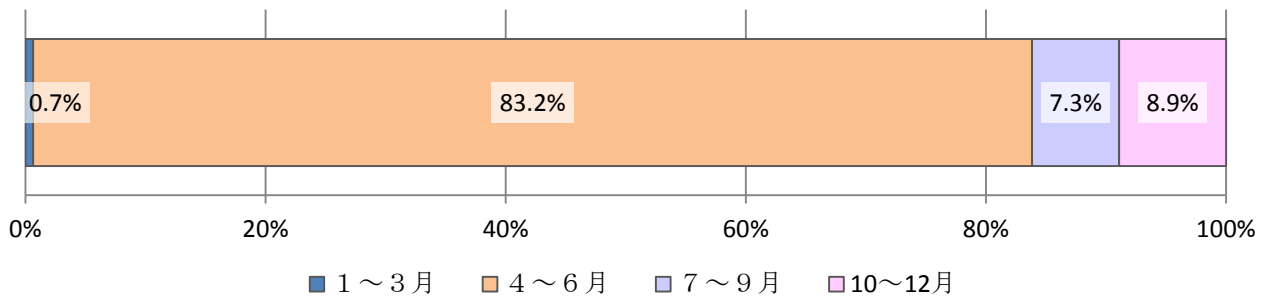
出典：「観光統計概要」（平成27年 宮城県経済商工観光部観光課）

表 3-42 四半期別入込数の状況（平成27年度）

	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	観光客 入込数 計	宿泊観 光客数
入込数(人)	1,890	240,777	21,000	25,744	289,411	37,854
比率(%)	0.7	83.2	7.3	8.9	100.0	—

出典：「観光統計概要」（平成27年 宮城県経済商工観光部観光課）

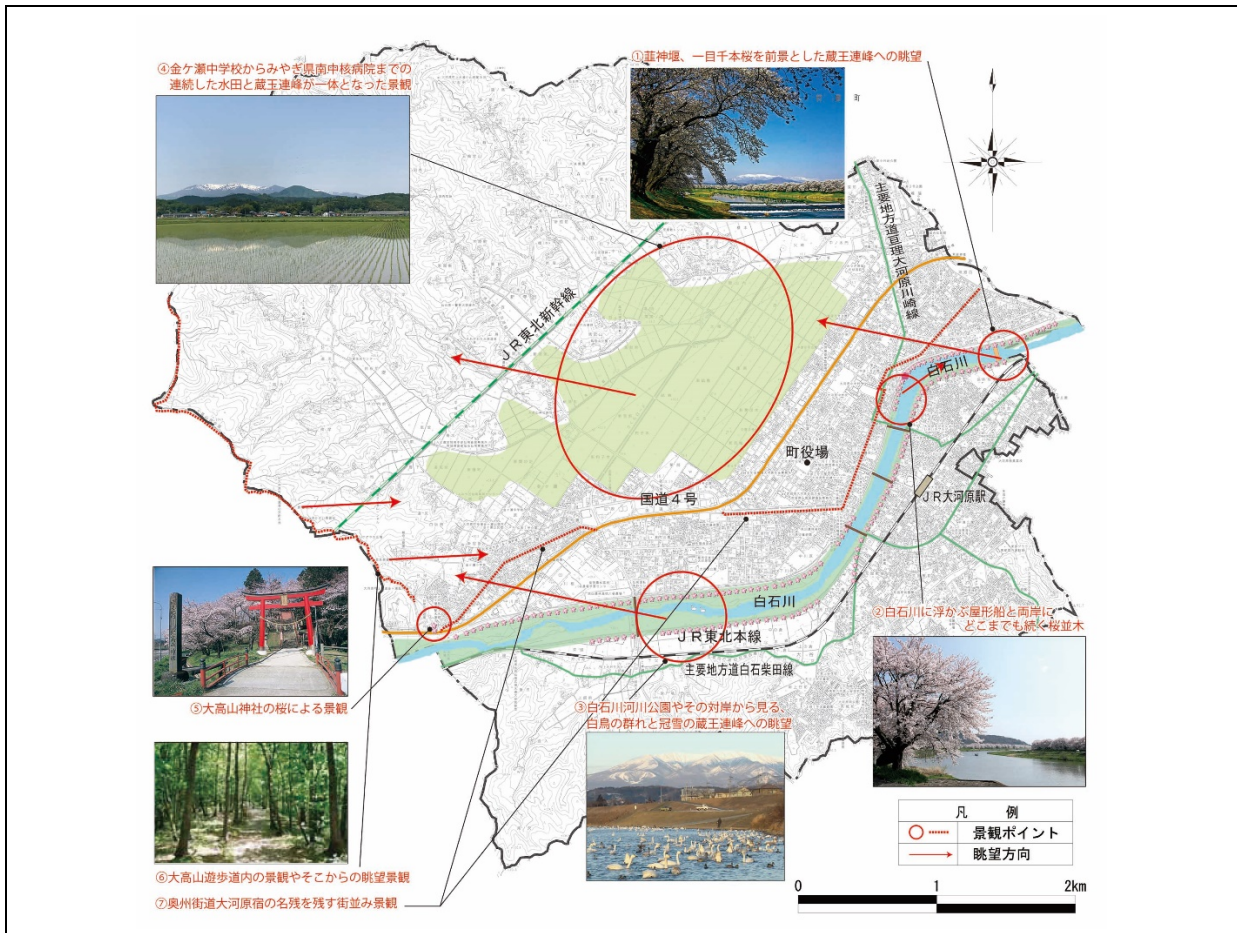
図 3-40 四半期別入込数の割合（平成27年度）



出典：「観光統計概要」（平成27年 宮城県経済商工観光部観光課）

本町では、蔵王連峰への眺望や一目千本桜を中心とした景観に優れた場所が数多く見られます。主なものを下図に示します。

図 3-41 主な景観・眺望点位置図



11. 法適用状況

(1) 都市計画法

本町では、一般国道4号などの幹線道路沿いに近隣商業地域や準工業地域の用途地域が指定され、その背後地に住居系の用途が指定されています。

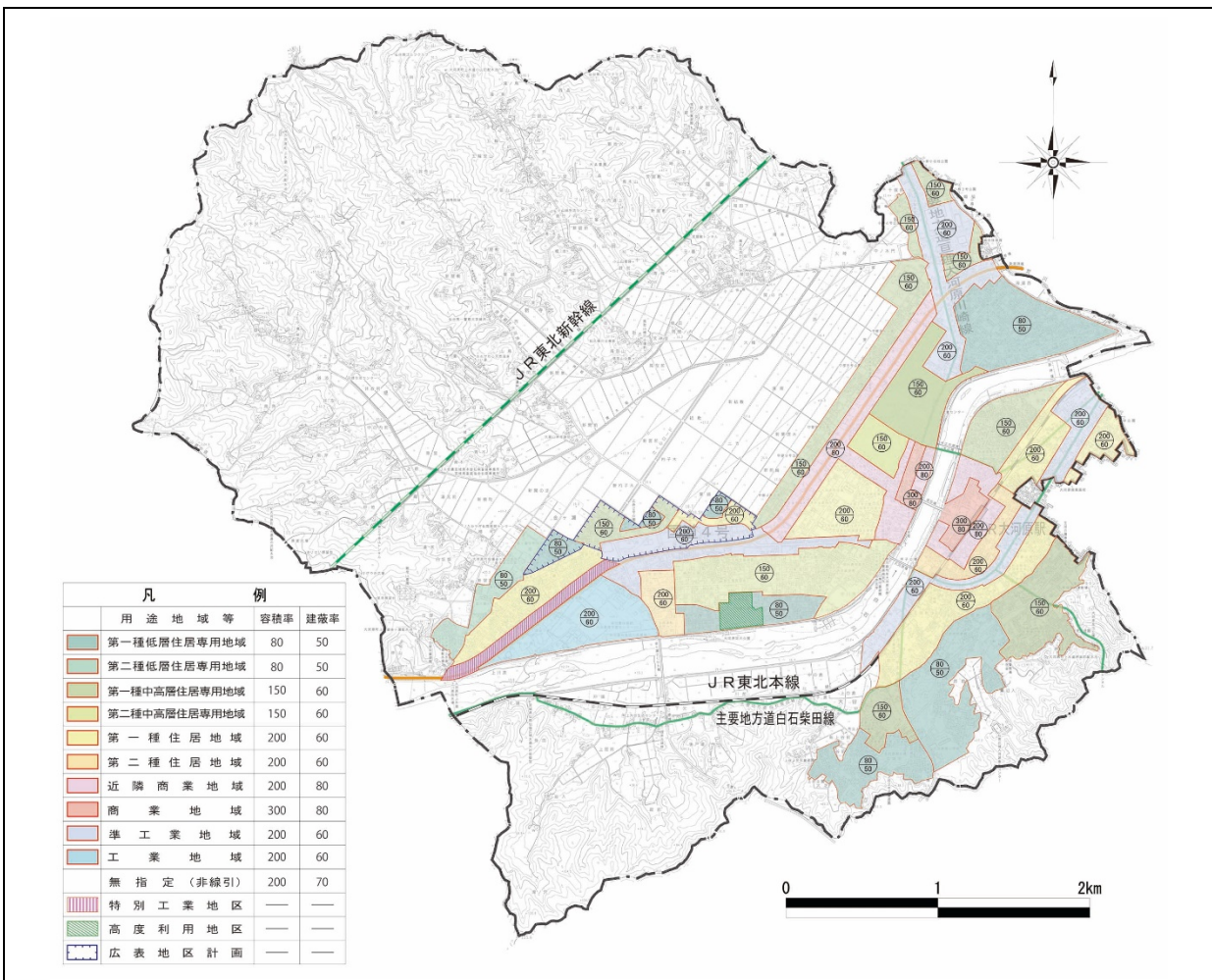
特に、金ヶ瀬地区には大きな工業用地が指定され、企業誘致が進んでいます。

表 3-43 用途地域指定の状況

用途地域等	容積率 (%)	建蔽率 (%)
第一種低層住居専用地域	80	50
第二種低層住居専用地域	80	50
第一種中高層住居専用地域	150	60
第二種中高層住居専用地域	150	60
第一種住居地域	200	60
第二種住居地域	200	60
近隣商業地域	200	80
商業地域	300	80
準工業地域	200	60
工業地域	200	60
無指定（非線引き）	200	70

出典：「大河原町都市計画図」（平成26年 大河原町）

図 3-42 都市計画規制状況図



出典：「大河原町都市計画図」（平成26年 大河原町）

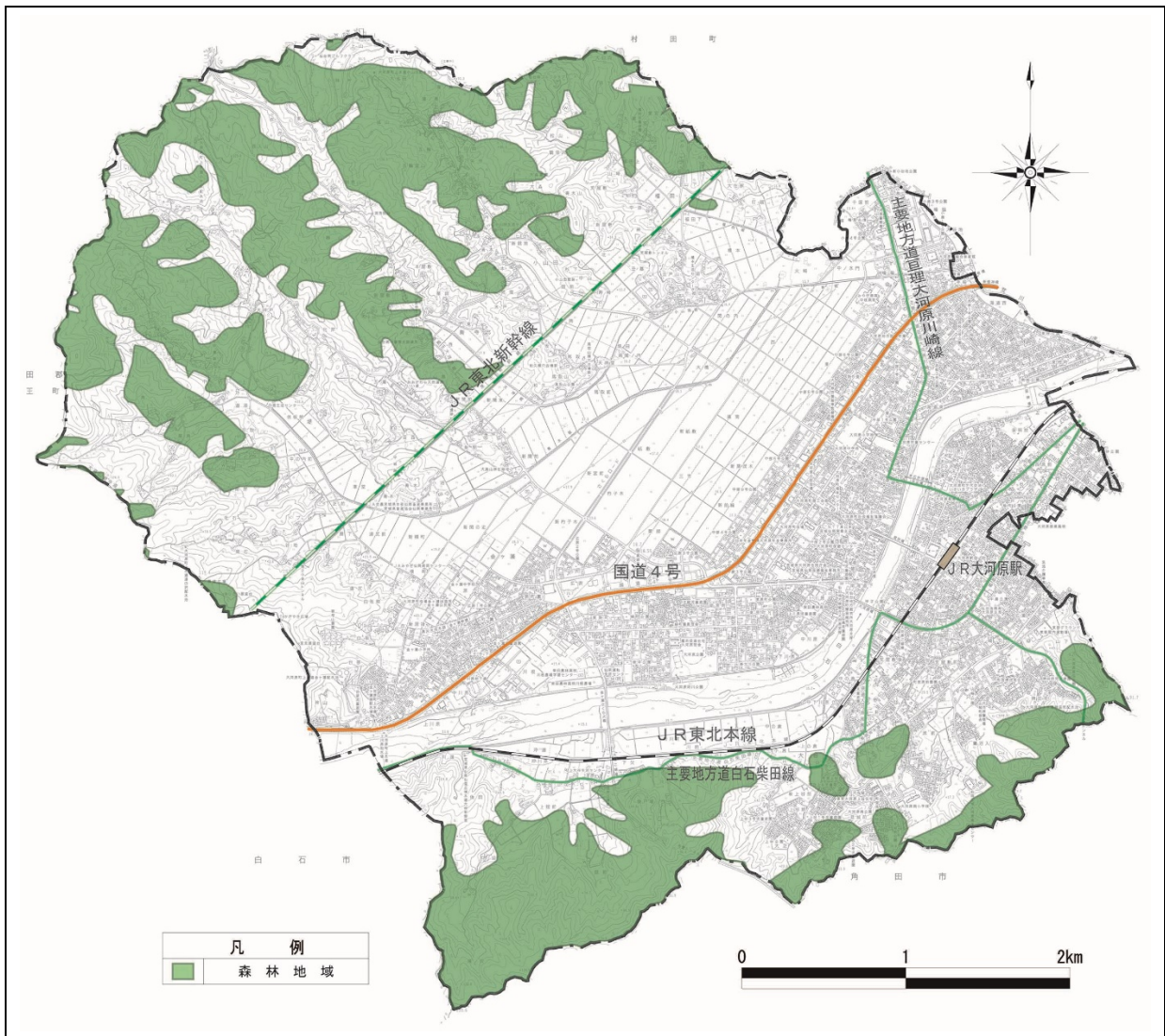
(2) 森林地域

宮城県土地利用基本計画は、国土利用計画宮城県計画によって示された土地利用の長期構想を受けて、県土を都市、農業、森林、自然公園、及び自然保全の五地域に区分したうえで地域ごとの土地利用の原則及び地域間の調整指導方針を明らかにしています。

森林地域については、森林の土地として利用すべき土地があり、林業の振興又は森林の有する諸機能の維持増進を図る必要がある地域であり、森林法第2条第3項に規定する国有林の区域又は同法第5条第1項の地域森林計画の対象となる民有林の区域として定められることが相当な地域とされています。

本町では、北西部丘陵地の尾根沿い及び南部丘陵地において森林地域が指定されています。

図 3-43 森林区域図



出典：「大河原町都市計画基礎調査 報告書」（平成28年 大河原町）

(3) 農業地域

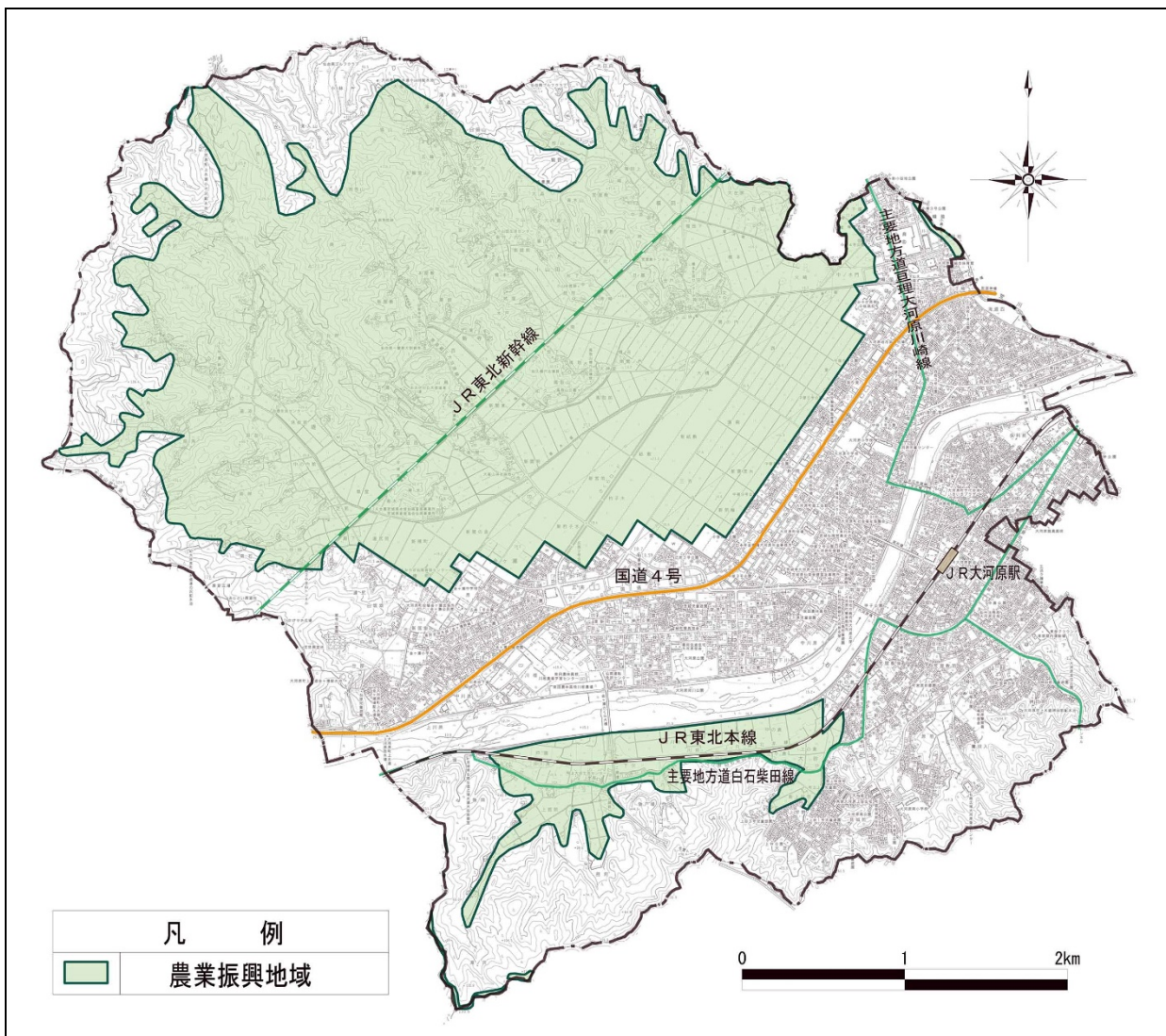
宮城県土地利用基本計画は、国土利用計画宮城県計画によって示された土地利用の長期構想を受けて、県土を都市、農業、森林、自然公園、及び自然保全の五地域に区分したうえで地域ごとの土地利用の原則及び地域間の調整指導方針を明らかにしています。

農業地域については、農用地として利用すべき土地があり、総合的に農業の振興を図る必要がある地域であり、農業振興地域の整備に関する法律第6条により農業振興地域として指定されることが相当な地域とされています。

このうち農用地区は、農業生産の基盤として確保されるべき土地であることに鑑み、土地改良、農用地造成等の農業基盤の整備を計画的に推進するとともに、他用途への転用は行わない地域とされています。

本町では、北西部の平地及び白石川右岸の平地が農用地区域に指定されています。

図 3-44 農用区域図



出典：「国土数値情報」（平成21年 国土交通省）

(4) 河川区域

阿武隈川水系白石川は、刈田郡七ヶ宿町西部の山形県境蓬沢山山麓より発し、白石市、蔵王町、大河原町、村田町を経て柴田町で阿武隈川と合流する流路延長69.7 km、圏域面積797.1 km²の一級河川です。

白石市から本町にかけては、河道に交互砂州が形成され、瀬や淵が存在し、魚類の生息場所や産卵場所となっています。

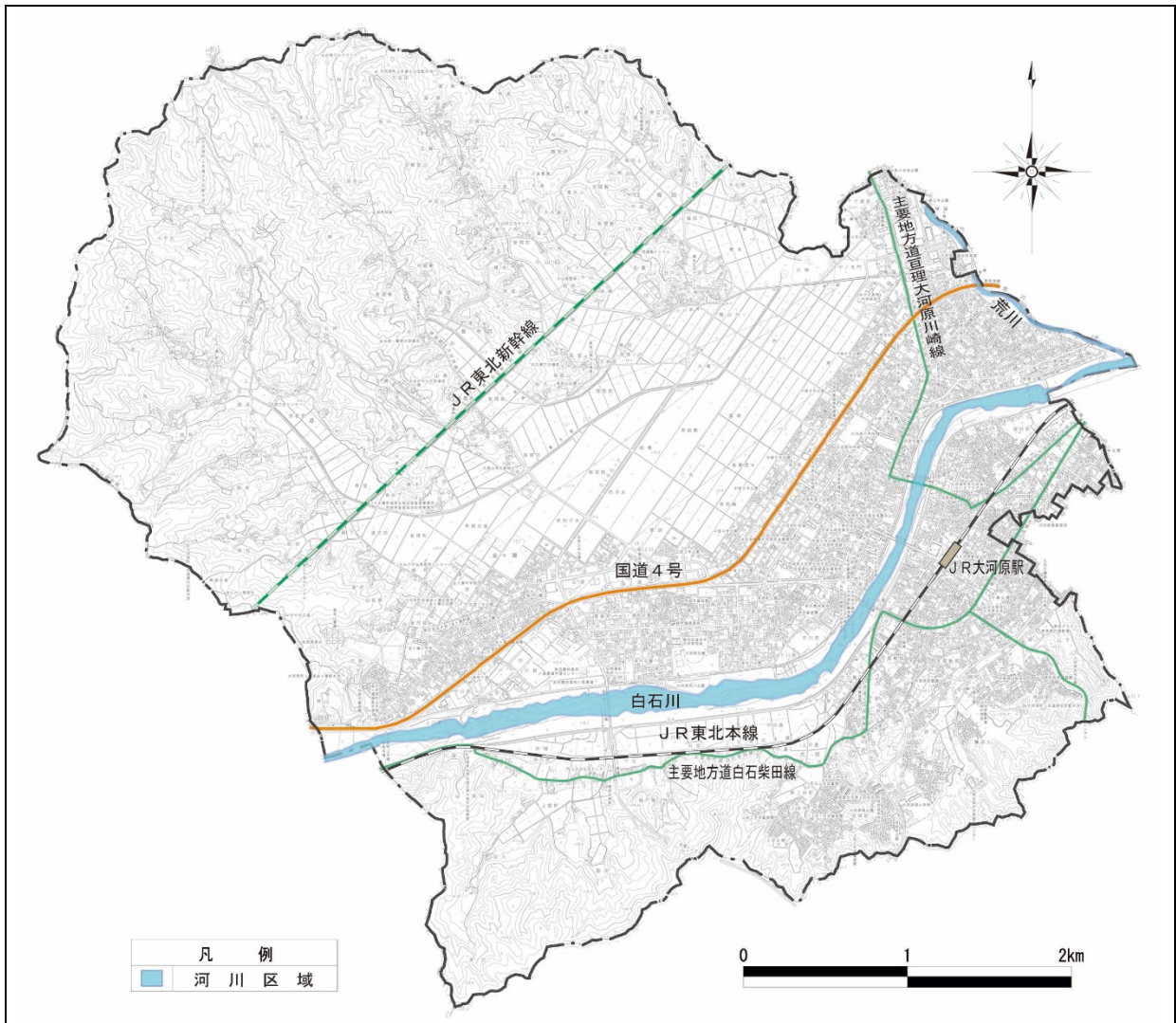
また、本町および柴田町市街を流れており、多くの河川公園が整備され市民の憩いの場となっています。

表 3-45 白石川の概要

水系	河川名	流路延長	流域面積
阿武隈川水系	白石川	69.7 km	797.1 km ²

出典：「一級河川阿武隈川水系白石川圏域河川整備計画」（平成21年 宮城県）

図 3-46 河川区域図



出典：「大河原町都市計画基礎調査 報告書」（平成28年 大河原町）

(5) 土砂災害警戒区域等

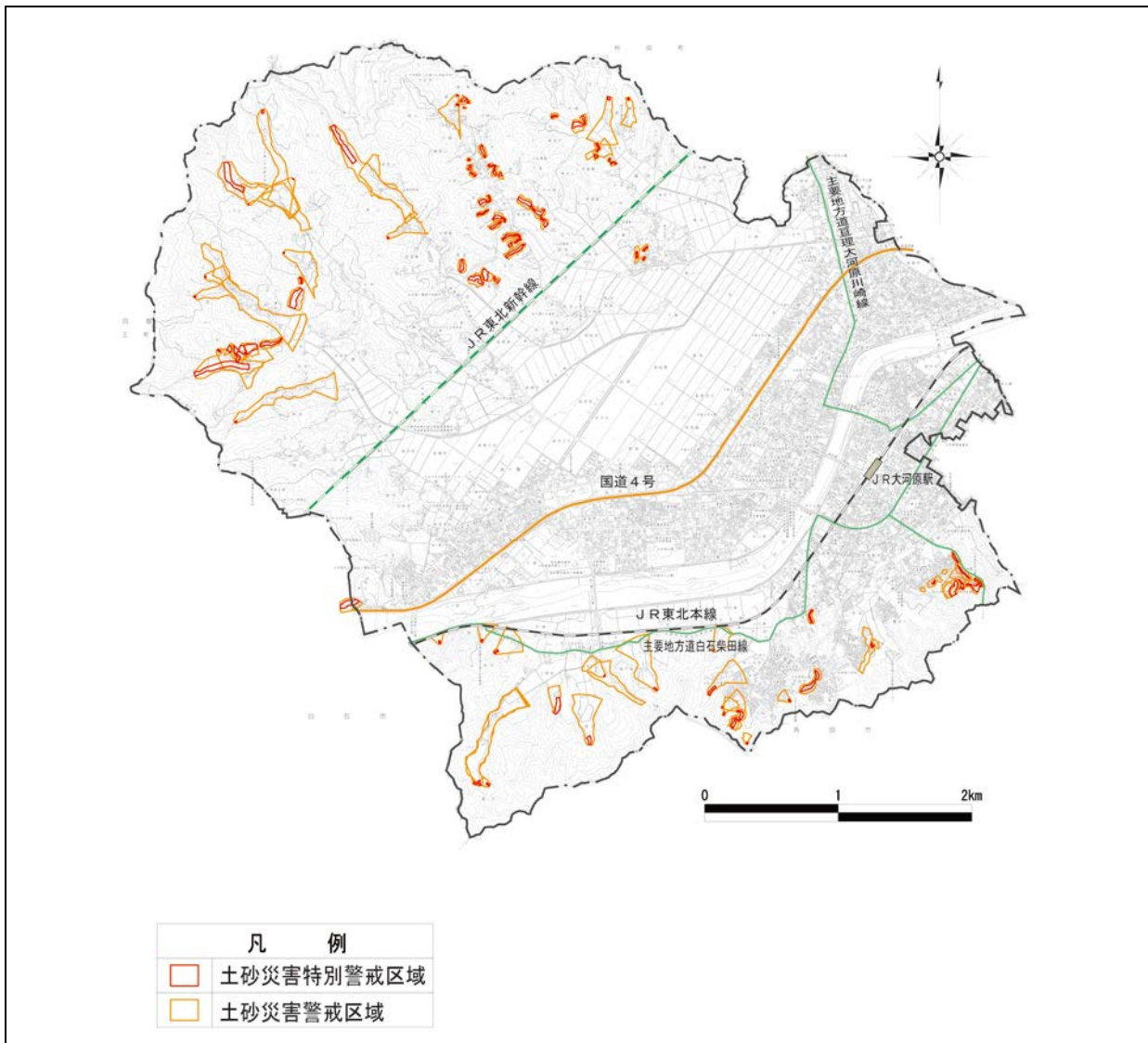
土砂災害防止法では、土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれがある区域についての危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制、既存建物の移転等のソフト対策を推進する目的で、土砂災害のおそれがある区域に対し「土砂災害警戒区域」と「土砂災害特別警戒区域」の2種類を指定しています。

「土砂災害警戒区域」は、土砂災害から生命を守るため、災害情報の伝達や避難が早くできるように警戒避難体制の整備を図る区域とされています。

一方、「土砂災害特別警戒区域」は、土砂災害警戒区域のうち、住民に著しい危害が生じるおそれのある区域において、更に特定開発行為の制限、建築物の構造規則等を行う区域とされています。

本町では、北西丘陵地の谷部と南東丘陵部に指定されています。

図 3-47 土砂災害警戒区域図



出典：「大河原防災マップ」（平成31年）